

1. 景気の現状に対する判断理由等

景気の現状に対する判断の理由及びそれに対する追加説明等について、その主だったもの及び特徴的と考えられるものを取りまとめると以下のとおりであった。

1. 北海道（地域別調査機関：株式会社北海道二十一世紀総合研究所）

（-：回答が存在しない、*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連 (北海道)		一般小売店〔土産〕（経営者）	来客数の動き	・改元、10連休、人気アイドルのコンサートなどの特殊要因が重なったことに加えて、気温が高めに推移したこともあり、国内観光客が20%以上増えた。売上は前年比122%、一昨年比131%となった。
		スーパー（役員）	来客数の動き	・5月に入り、気温が上昇し、天候にも恵まれたことから、数か月ぶりに来客数が前年を上回った。買上点数も3%以上増加し、客単価も2%以上上昇するなど、景気は上向きに推移した。
		コンビニ（エリア担当）	来客数の動き	・気温が高めで推移したことで、来客数が回復しており、消費動向も上向いている。
		コンビニ（エリア担当）	販売量の動き	・好天が続いたことで気温型商材の販売量が上昇している。また、一時的な影響だが、前年はたばこ値上げ後の売上減少がみられたため、その反動増が売上増加につながっている面もある。
		コンビニ（エリア担当）	単価の動き	・前年と比べて来客数が増加している。また、客単価もアップしており、来客数の伸び以上に売上が回復している。また、前年と比べて気温が高く、天候にも恵まれていることから、飲料水やアイスの売上の動きが良くなっている。きっかけがあれば購買する力が客に出てきている。
		高級レストラン（スタッフ）	販売量の動き	・ランチ、ディナー共に売上予測を10%ほど上回っていることから、景気はやや良い。北海道ふっこう割が終了したこともあり、ゴールデンウィーク直後は客足が一気に遠のいたが、3週目を以降はじわじわと観光客が増えてきている。客からは、料金の高いゴールデンウィーク前後の旅行を避けているとの声が上がっており、こうした特需が売上にも貢献している。外国人観光客はやや少なかったが、中国以外の国、地域から訪れる客が増えている。
		一般レストラン（スタッフ）	来客数の動き	・今年のゴールデンウィークが10連休だったこともあり、期間中の来客数は前年比125%となった。
		観光型ホテル（スタッフ）	来客数の動き	・ゴールデンウィーク期間中は個人予約客、国内の報奨旅行客のいずれも好調に推移した。芸能関係のコンサートイベントもプラスに寄与した。
		旅行代理店（従業員）	来客数の動き	・ゴールデンウィークが10連休だったこともあり、期間中は観光客が増加し、当地の観光施設は大変混雑していた。その後も雨がほとんど降らなかったことから、芝桜やチューリップなどの花観光が好調に推移した。
		通信会社（企画担当）	販売量の動き	・通信サービスの新料金プランの導入に伴い、都市部での来客数が大幅に増加している。プラン変更の際に端末を買換えたり、メディア系サービスに加入する客も増加している。
		観光名所（従業員）	来客数の動き	・天候要因による影響もあり、ここ数か月の利用者数は前年を上回って推移している。10連休となったゴールデンウィーク期間中は、一般観光客が増加したことに加えて、クルーズ船の寄港が増えたことで、これまでにないほど利用客が増加した。
		美容室（経営者）	販売量の動き	・例年、5月のゴールデンウィーク後は売上が落ちる傾向にあるが、今年は10連休という超大型連休となったにもかかわらず売上の落ち込みがみられなかった。売上も前年から5%程度増加している。
		その他サービスの動向を把握できる者〔フェリー〕（従業員）	来客数の動き	・ゴールデンウィークが10連休となったことから、前年と比較して観光客が大幅に増加している。一方、道内の漁獲高が減少していることが懸念材料である。
		商店街（代表者）	お客様の様子	・客がますます価格に敏感になっており、消費税増税に対する意識が強まっていることがうかがえる。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		商店街（代表者）	来客数の動き	・例年、5月は郊外からの客や道内外からの観光客が増加し始める時期であり、当商店街への来街客も徐々に増加する傾向にあるが、今年は増加の兆しがみられない。ゴールデンウィーク直後から来街客が減少しており、全体として悪い状態で推移している。
		百貨店（売場主任）	お客様の様子	・来客数は前年よりも増えているが、買上率が低下している。外国人観光客による売上は伸びているが、日本人による売上は苦戦している。
		百貨店（販売促進担当）	来客数の動き	・国内客や道内客の減少を外国人観光客の増加でカバーする状況が続いている。国内客の消費は決して好調とはいえず、客単価もマイナス傾向となっている。外国人観光客頼みの構図は変わっていない。
		百貨店（役員）	競争相手の様子	・3か月前に競合店が閉店したが、その影響が今一つつかみきれず、不透明な状況のまま推移している。
		百貨店（営業販売担当）	販売量の動き	・来客数は前年並みで推移しているものの、ゴールデンウィーク明けの消費が停滞しており、買上客数が上向いてこない状況が続いている。
		スーパー（役員）	お客様の様子	・ゴールデンウィークの10連休で客が金を使っていることから、今年は例年以上にゴールデンウィーク後の節約志向が強かった。
		衣料品専門店（店長）	販売量の動き	・衣替えをした時に買い控えをしていた客層に動きがみられた。ただし、必要な商材だけを求めることが多く、よく売れたのも低単価商材が中心であった。
		家電量販店（店員）	お客様の様子	・ゴールデンウィーク期間中は、天候が良かったこともあり、郊外に出かける客が多く、客の来店が夕方に集中した。また、5月後半は猛暑の影響でエアコン、扇風機などを買い求める客が増え、今までにないほどの来客数がみられた。
		乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・店舗での販売台数も、会社全体での販売台数も、前年と比べて増加している。消費税増税を控えての駆け込み需要が顕著に表れてきている。今後2～3か月はこうした動きが続くと期待している。
		自動車備品販売店（店長）	単価の動き	・来客数は前年並みであったが、タイヤの販売量が前年比90%と高単価商材が伸び悩んだ。車両販売については新車よりも中古車が売れていることで客単価が下落している。
		その他専門店 [ガソリンスタンド]（経営者）	販売量の動き	・石油製品価格に大きな変化がみられないため、景気は変わらない。
		高級レストラン（スタッフ）	単価の動き	・例年、5月中旬以降は上旬の反動がみられるが、今年はそうした動きがみられなかった。平日のランチは観光客、サラリーマンで席が埋まり、週末は家族連れの観光客、地元客を中心に好調が続いている。中にはランチとディナーで1日に2回来店した客もみられた。最終的に売上は前年を40%上回った。
		高級レストラン（スタッフ）	来客数の動き	・ゴールデンウィークの影響で来客数が増えた店舗もみられたが、地元客が中心の店舗は厳しい状況にある。
		旅行代理店（従業員）	お客様の様子	・客との会話の中で景気が良いという話は出てこない。需要や客単価も上向き傾向にはなっておらず、厳しい状態が続いている。
		旅行代理店（従業員）	来客数の動き	・来客数が伸びてこないため、景気は厳しいまま変わらない。
		タクシー運転手	来客数の動き	・今年はゴールデンウィークが10日間もあったため、5月のタクシー利用は大きく減少した。一方、ゴールデンウィーク後の週末に人気アイドルグループのコンサートが3日間行われたほか、観光客の利用も好調であったことから、タクシー1台当たりの売上は前年から約7%増加した。ただし、乗務員不足でタクシーの稼働率が悪いと、会社の売上は前年並みにとどまった。
		タクシー運転手	販売量の動き	・5月はゴールデンウィークの影響もあり、若干ではあるが売上が増加した。ただし、景気自体は相変わらず悪い。
		美容室（経営者）	販売量の動き	・ここ3か月、来客数、売上に大きな変化はみられない。
		美容室（経営者）	単価の動き	・年度替わりや改元の影響はほとんどみられなかった。地方部には影響のないことだと改めて実感した。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		美容室（経営者）	来客数の動き	・5月は天候面での影響がみられた。10連休の余波もある。
		商店街（代表者）	来客数の動き	・ゴールデンウィーク直後の来客数が10%以上落ち込むなど、5月の景気はやや悪い。
		商店街（代表者）	来客数の動き	・ゴールデンウィーク明けから、最悪の消費状況が続いている。ゴールデンウィークで金を使いすぎたせいから人出がまばらであり、特に飲食店や飲み屋では大きな減収となっている。また、居酒屋やスナックではゴールデンウィーク後だけではなく、期間中も低調だったことから、事業危機に陥る店舗もみられるなど、深刻な影響が生じている。4月の統一地方選挙、ゴールデンウィークの弊害と2か月連続でマイナスとなっており、ばん回の難しい状況となっている。
		商店街（代表者）	販売量の動き	・青果物の端境期に当たるため、景気はやや悪い。
		一般小売店〔土産〕（経営者）	来客数の動き	・恒例の大型イベントなどがあった3か月前と比べると、客の動きが落ち込む時期ではあるが、今年は特に外国人観光客の動きが弱い。為替や米中の貿易摩擦の影響で中国景気が減速傾向にあることで、中国人観光客の動きが落ち込んでおり、そのことが売上にも響いてきている。
		一般小売店〔酒〕（経営者）	販売量の動き	・ゴールデンウィーク期間中の売上は好調だったが、ゴールデンウィーク後は苦戦している。10連休と休みが長かったため、客がいつもより金を使い、その分、酒類への消費を抑えているとみられる。
		スーパー（店長）	販売量の動き	・改元によるお祝いムードもあり、令和元年初日を始め、ゴールデンウィーク10連休での消費は好調であった。一方、商材の値上げの影響もあり、母の日以降は販売量が伸び悩んでいる。
		スーパー（店長）	販売量の動き	・10連休で金を使った影響なのか、前年までとは客の動向が大きく変化している。ゴールデンウィーク後半から母の日にかけて、来客数や客単価などが大きく落ち込んだ。
		スーパー（企画担当）	販売量の動き	・既存店の来客数が依然として前年割れしている。
		コンビニ（店長）	単価の動き	・ゴールデンウィークが明けてから客の買い控えがみられ、その動きが月末まで続いている。
		乗用車販売店（経営者）	販売量の動き	・業種によってばらつきがみられる。酪農や観光関連の動きは比較的良いが、漁業、建築・土木関連の動きが良くなく、受注量が減ってきている。
		乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・多少は消費税増税前の駆け込み需要が生じることを期待していたが、今のところ、そうした動きは残念ながらみられない。
		乗用車販売店（従業員）	お客様の様子	・5月に大型イベントを開催したが、来客数が前年よりも減少しており、客の購買意欲が低下していることがうかがえる。
		乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・消費税増税前の駆け込み需要が多少みられるものの、3か月前と比べるとやや落ち込んでいる。
		その他専門店〔医薬品〕（経営者）	それ以外	・ゴールデンウィークが史上まれにみる10連休という長期祝日となったことでマイナスの影響が生じ、売上に響いた。また、当地では、5月としては過去に例がないほど気温の高い日が続いており、そのことが客足に影響した。今後のばん回がとても難しい状況にある。
		観光型ホテル（経営者）	来客数の動き	・ガソリンを始めとした物価の高騰、北海道ふっこう割の反動減などの影響があり、予約状況が伸び悩んでいる。
		旅行代理店（従業員）	それ以外	・当社の2018年度決算の数値が悪かったことから、景気はやや悪い。ただし、ボーナスは出るようなので、最悪な状況とまではなっていない。
		タクシー運転手	来客数の動き	・事前予約の取消しが発生したこともあり、観光関係のオーダーが前年から減少した。外国人観光客関係のオーダーもそれほど伸びがみられなかった。一方、イベント関係は例年並みであった。
		タクシー運転手	販売量の動き	・ゴールデンウィーク期間中も、ゴールデンウィーク後も消費が冷え込んでおり、売上が上向く兆しがみられない。また、10日間という過度な長期休暇は、日本人の体質に合わず、生産性を低下させている。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		タクシー運転手	競争相手の様子	・前月は前年よりも稼働状況が若干上向いたが、働き方改革関連法の施行に伴い年5日の有給休暇取得が義務化されたことで人件費が高騰し、赤字となっているため、設備投資まで資金が回らない状況にある。
		住宅販売会社（経営者）	お客様の様子	・分譲マンションのモデルルームへの来訪客について、購入を前向きに考えている客が以前よりも減少傾向にある。
	×	スナック（経営者）	来客数の動き	・前月は統一地方選挙があったことで景気がやや悪かった。5月もゴールデンウィークが10連休となったことが影響し、景気は余り良くなかった。
	×	住宅販売会社（経営者）	お客様の様子	・消費税増税後の政府による対策の内容が難しく、はっきりしないことに加えて、米中の貿易摩擦の影響があり、客のムードがとても悪い。
企業 動向 関連 (北海道)		金属製品製造業（従業員）	受注量や販売量の動き	・若干ではあるが、消費税増税を前にした駆け込み需要がみられる。
		建設業（従業員）	競争相手の様子	・新年度の発注建築工事が公示されたことで、建設各社が入札に向けて積算に追われている。
		建設業（役員）	受注量や販売量の動き	・新年度は災害復旧工事や農業土木工事の受注で好調なスタートを切っている。民間建築工事はフル稼働状態が続いている。
		通信業（営業担当）	受注量や販売量の動き	・当地に限った要因であるが、防災リスクの低減、事業継続の観点から、情報資源などの経営資源の保護や管理に伴う案件が著しく増加しており、周辺の企業も含めて、情報通信業の景況感は上向いている。
		金融業（従業員）	取引先の様子	・10連休により外食、旅行、レジャー関連の支出が好調であるなど、個人消費に盛り上がりが見られた。民間設備投資も堅調に推移している。生産、輸出入は弱含みとなっているものの、道内の景気は3か月前に比べてやや良くなっている。
		その他サービス業〔建設機械レンタル〕（総務担当）	受注量や販売量の動き	・5月の売上はほぼ前年並みで推移している。今後についても、北海道胆振東部地震の震災復旧工事、札幌やニセコなどの地区で民間建設工事が活発に推移すると見込まれることから景気はやや良くなっている。
		食料品製造業（従業員）	受注量や販売量の動き	・3か月前と景気は変わらない。売上は前年比90%と横ばいでの推移となっている。
		家具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・2020年の東京オリンピックに向けた請負物件の需要が増えつつある。ただし、東京オリンピック後の動向が懸念されることもあり、今一つ力強さに欠ける。
		輸送業（営業担当）	受注量や販売量の動き	・北海道内の物流の動きは鈍い。その一方、紙パルプ関連工場においては、今後予定されている再編計画に向けて前倒し生産が行われていることから、倉庫保管は順調に推移している。
		広告代理店（従業員）	取引先の様子	・ゴールデンウィークが10連休となったが、地元百貨店や流通小売店などの売上が期待したほど伸びなかった。
		司法書士	取引先の様子	・長かった冬期も終わり、僅かではあるがマンションや住宅の新規建築がみられるようになってきた。ただし、不動産取引においては景気回復が実感できる状況ではなく、弱含みの状態から脱出できずにいる。
		コピーサービス業（従業員）	取引先の様子	・消費税増税に伴う駆け込み需要は余りみられない。企業のスタンスは慎重であり、必要最低限の設備投資にとどめている。
		その他サービス業〔建設機械リース〕（支店長）	取引先の様子	・消費税増税を控えての設備投資意欲が感じられるものの、前回の増税時と比べると動きが鈍い。また、天候不順により農業に影響が生じることが懸念される。
		その他非製造業〔鋼材卸売〕（従業員）	取引先の様子	・建設業界では今後も案件が控えているなど、順調であるが、加工量としては前年並み程度との見込みとなっているため、大幅な景気回復とまではなっていない。
		司法書士	取引先の様子	・地方部における不動産関連の業種は、依然として低調に推移している。特に今年はゴールデンウィークが10連休となり、稼働日数が少なくなったことが影響している。また、改元によりデータや書類関係の準備などが必要になり、予定していた取引が延期になるといった影響もみられた。
		×	食料品製造業（従業員）	受注量や販売量の動き

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
雇用 関連 (北海道)		-	-	-
		人材派遣会社 (社員)	求人数の動き	・求人の申込みは相変わらず増加傾向にあり、企業の 人材需要が堅調であることがうかがえる。ただし、求 人ニーズの高まりに伴い、市場に求人情報があふれて いることから、より条件の良い求人を探求して、内定を 辞退する人材も増えている。当社の道内各地の支店に おいても長期派遣のニーズが増えているほか、中途採 用のニーズも事務系、営業系共に高いことから、地方 の景気も堅調なことがうかがえる。
		求人情報誌製作 会社(編集者)	雇用形態の様子	・中途採用において、非正規での募集が正社員と比べ て僅かではあるが、微増傾向にある。
		求人情報誌製作 会社(編集者)	採用者数の動き	・前年と比べて新規求人が減少している。自社ホーム ページからの採用や知り合いからの紹介など、採用手 法が多様化していることが要因とみられる。一部では あるが、外国人雇用への切替えを行っている企業もみ られる。
		求人情報誌製作 会社(編集者)	求人数の動き	・正社員、新卒、アルバイト、パートなど、どの雇用 形態においても、応募数の減少傾向が続いている。募 集が集まりやすい傾向にあるのはシニア層だけとなっ ている。こうした状況から、募集、採用コストに対す る企業の考え方が今までよりもシビアになっている。 採用ニーズは底堅いが、コストとのバランスが重視さ れるようになってきている。
		求人情報誌製作 会社(編集者)	求人数の動き	・求人の申込数はピークだった3～4月に比べると落 ち着いてきているものの、相変わらず求人ニーズは高 い。ただし、求人を掲載しても反響が出にくい時期に なってきたため、掲載を見送る傾向が強くなってい る。取引先から、人さえいれば、もっと強気の会社運 営ができるのにと声を聞くことも多い。
		新聞社[求人広 告](担当者)	周辺企業の様子	・小売などの流通業において、売上の伸びが鈍化して いるという話を聞く。
		職業安定所(職 員)	求人数の動き	・4月の有効求人倍率は1.07倍であり、前年を0.06ポ イント上回り、9年2か月連続で前年を上回ってい る。
		職業安定所(職 員)	求人数の動き	・新規求職者数が2か月連続で減少していることか ら、有効求職者数の増加割合は低下傾向にある。一 方、新規求人数は4か月連続で増加したことで、有効 求人数も増加しているが、ほぼ前年並みの増加割合 だったことから、有効求人倍率が10か月ぶりに1倍を 下回り、前年並みの0.98倍となった。
		職業安定所(職 員)	求人数の動き	・4月の有効求人倍率は1.05倍であり、前年を0.05ポ イント上回り、引き続き高い水準で推移している。
	*	*	*	*
	x	-	-	-

2. 東北(地域別調査機関:公益財団法人東北活性化研究センター)

(-:回答が存在しない、*:主だった回答等が存在しない)

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連 (東北)		コンビニ(店 長)	来客数の動き	・10連休というゴールデンウィークや、天候にも恵ま れたことで来客数は増加している。さらに、後半も5 月にしては珍しく猛暑が続いたお陰で、売上もかなり 伸びている。
		商店街(代表 者)	来客数の動き	・今年は4月から大変良い天候が続いているため、商 店街のイベントは集客率が高くなっている。イベント に来た客はついでに買物もしており、特に飲食が好調 である。
		一般小売店 [酒](経営 者)	来客数の動き	・ゴールデンウィークが10連休となった影響で観光客 は増えたものの、その後はまた静かな日常に戻ってい る。
		コンビニ(エリ ア担当)	来客数の動き	・10連休となったゴールデンウィークや、改元による 消費意欲拡大が起因しているのか、2～3月と比較し て来客数の前年比が2%ほど改善している。
		コンビニ(エリ ア担当)	来客数の動き	・4月より客単価に改善傾向がみられている。来客数 の減少傾向はそのままであるものの、買上点数、客単 価が好調に推移している。
		住関連専門店 (経営者)	販売量の動き	・当店では、店頭販売の他にカタログでの販売も行っ ている。ゴールデンウィーク中はカタログでの販売を 中止していたが、その後の販売は好調であり、今月の 数字を押し上げている。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		都市型ホテル（スタッフ）	お客様の様子	・改元に伴って客の動きが良くなってきているように見受けられる。
		旅行代理店（店長）	販売量の動き	・ゴールデンウィークの影響が大きく、国内旅行、海外旅行共に好調に推移している。
		通信会社（営業担当）	販売量の動き	・来月からの販売方法の変更を前に、駆け込み需要による販売量が増えている。
		通信会社（営業担当）	お客様の様子	・来客数が増えている。
		観光名所（職員）	販売量の動き	・10連休というゴールデンウィークの後押しもあり、来客数の増加に加えて販売量の動きが大変好調に推移している。単価の上昇や、暑さに伴う消費の動きも良く、3か月前と比較して景気が良くなっている実感がある。
		観光名所（職員）	来客数の動き	・ゴールデンウィークの効果や、天候に恵まれたことにより、遠方からの来客数の伸びが良く、売上増加につながっている。
		一般小売店〔医薬品〕（経営者）	来客数の動き	・ゴールデンウィークは休業した日も多く、連休後も出費の反動で消費が落ち込むと見込んでいたが、予想に反してトータルの月間売上はやや回復傾向となっている。ただし、これは客単価の上昇に助けられたものであり、来客数自体は落ち込んでいる。そのため、景気の動きとしては横ばいとなっている。
		一般小売店〔寝具〕（経営者）	販売量の動き	・布団の仕立ての動きが止まっており、夏に向けた商品の動きも鈍い状況である。
		一般小売店〔カメラ〕（店長）	販売量の動き	・高額商材が動いているため売上を確保しているものの、低額商材の動きが悪く、販売量は減少傾向にある。
		百貨店（売場主任）	お客様の様子	・改元やゴールデンウィークの10連休といった外的要因はあるものの、客の動きをみる限り、個人消費の活性化や景気回復には至っていないと見受けられる。
		百貨店（買付担当）	お客様の様子	・例年ゴールデンウィークは閑散としているが、今年は10連休効果なのか帰省客が多かったほか、比較的若い客層の来店が多く、スポーツ系のイベントが終日にぎわつなど例年になく動きがみられている。ただし、その後は連休の反動もあり購買につながらず、苦戦となっている。
		百貨店（経営者）	来客数の動き	・期待していたゴールデンウィークは、前年に比べて若干上回ったものの、連休明けは来客数が減少して買い控えもみられている。結果としてほぼ前年並みの推移となっており、変化はみられていない。
		スーパー（経営者）	単価の動き	・5月当初は、改元に伴うご祝儀的な消費の盛り上がりがあったものの、それほど規模は大きくなく、月末には平均1品単価も例年並みに落ち着いている。また、月後半からは来客数、買上点数共に伸びず、全体的な消費の推移は横ばいとなっている。
		スーパー（店長）	販売量の動き	・チラシ商品の価格を従来よりも安くしているが、必要なもの以外を買わないという傾向が強く、結果として客単価が低い状態が続いている。
		スーパー（店長）	販売量の動き	・10連休という長いゴールデンウィーク期間中の売上は大変厳しいものとなっている。ただし、その後は4月並みに戻りつつある。
		スーパー（企画担当）	販売量の動き	・必要なものを必要な分しか買わないという客の傾向が続いている。
		スーパー（営業担当）	販売量の動き	・ゴールデンウィークは、改元に伴うお祝いムードで高単価の刺身、寿司、ステーキ、焼肉などの動きが例年になく良い状態であった。中旬以降も天候に恵まれ、飲料、アイス、カットフルーツなどの夏物商材が例年になく動いている。しかし、月間の店舗全体の売上、来客数の動きに大きな変化はない。
		コンビニ（経営者）	来客数の動き	・ゴールデンウィーク期間中は好調であったが、その後の客の動きはほとんどが目的買いとなっている。衝動買いが少なくなっているため、全体的に横ばいの推移となっている。
		コンビニ（経営者）	来客数の動き	・気温上昇に伴って、曜日によっては売上が前年並みとなる日が出てきている。しかし、来客数は増加していない。
		コンビニ（エリア担当）	来客数の動き	・天候に左右される時期であり、外的環境に変化がない以上は、気温1つで来客数の動きが変わってしまう。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		衣料品専門店 (経営者)	来客数の動き	・10連休というゴールデンウィーク効果により、県外からの観光客の来客数は前年と比較して大きく増加している。ゴールデンウィーク期間中の売上は前年比15%の増加であり、5月全体としても5%の増加となっている。
		衣料品専門店 (経営者)	販売量の動き	・背広のオーダー会や学生服や法人向けの夏制服の動きが順調である。
		衣料品専門店 (店長)	お客様の様子	・消費者は気温の変化に振り回されているものの、必要なものを値頃に購入したいとする客層が増えており、1人当たりの買上点数が減少している。
		衣料品専門店 (店長)	来客数の動き	・10連休というゴールデンウィーク後から、ビジネス衣料の買い控えが増えている。また、スーツ需要は年々減少している。
		家電量販店(店長)	販売量の動き	・白物家電において、特にエアコンは前年の猛暑の影響で買換えや新規購入の需要が高まっており、販売量の前年比は120~130%となっている。ただし、テレビを中心とした黒物家電の売上が伸び悩んでいる。
		家電量販店(従業員)	単価の動き	・今後の気温上昇による季節商材の動きがどのようになるかということと、消費税の引上げ前の駆け込み需要がどうなるのかによって変わってくる。
		乗用車販売店 (従業員)	販売量の動き	・消費税の引上げ前の駆け込み需要なのか、前月から個人客への販売量が増えている。
		乗用車販売店 (従業員)	来客数の動き	・新規客において、土日祝日の来客数の動きに変化がない状態が数が月続いている。
		乗用車販売店 (従業員)	単価の動き	・月によって販売量に差はあるが、1台当たりの粗利は変わっていない。
		乗用車販売店 (本部)	販売量の動き	・消費税の引上げ前の駆け込み需要のため、ここ数か月は来客数、販売量共に前年を上回る状態が続いている。
		住関連専門店 (経営者)	来客数の動き	・5月から来客数が減少しており、苦戦している。
		その他専門店 [酒](経営者)	販売量の動き	・10連休というゴールデンウィークの影響はあったものの、事前の準備のお陰で大きな影響を受けることは回避している。ただし、月末の売上は伸び悩んでいる状況である。
		その他専門店 [靴](従業員)	販売量の動き	・ようやく気温が安定して過ごしやすいい日が続いたことで、買物へ出掛ける人が増えた様子であり、10連休となったゴールデンウィークの売上も、例年と比較して若干のプラスとなっている。また、地方では出掛けるところがなくなるとショッピングセンターへと集まる傾向があり、多少は消費者の財布のひもが緩んでいるように見受けられる。
		その他専門店 [白衣・ユニフォーム](営業担当)	販売量の動き	・前年とほぼ変わらない動きとなっている。
		その他小売 [ショッピングセンター](統括)	販売量の動き	・ゴールデンウィークは好調に推移したものの、その後の来客数は落ち着いている。ただし、全体で見れば底堅く推移しているため、依然として順調な景気の動きとなっている。
		一般レストラン (経営者)	来客数の動き	・来客数の前年比が順調に伸びている。そのため、景気が特に悪くなっているという雰囲気はない。
		一般レストラン (経営者)	来客数の動き	・最近の傾向として、ランチタイムの来客数が減少している。ゴールデンウィーク期間中は観光客の数が大分多かった様子であるが、レストランには足を運ばないため、来客数が増えることはなく、足踏み状態が続いている。
		一般レストラン (経営者)	競争相手の様子	・ゴールデンウィーク期間中の中だるみや、連休後の落ち込みを心配していたが、周囲で閉店した店舗の客が流れてきているのか、来客数は毎日好調に推移し、売上も前年を上回っている。また、今までは連休中も曜日の関係で出社していた人が、今年は長期の休みが取れたことで、スムーズに予定を立てることができ、遊びに出る人が増えたことも大きい。
		観光型旅館(経営者)	来客数の動き	・ゴールデンウィーク期間中は良かったものの、その後は反動のために例年よりも来客数は減少している。そのため、平均すると例年と変わらないが、やや減少気味となっている。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		観光型旅館（スタッフ）	販売量の動き	・ゴールデンウィークの疲れが出ているのか、申込件数が増えていない。宿泊単価を下げる施策なども検討したが、平均宿泊単価が前年よりも1,500円ほど上がっているため、断念している。来客数については前年よりも大幅に減少している。
		タクシー運転手	来客数の動き	・ゴールデンウィークから、グループ旅行の数が激減しているように見受けられる。友人旅行が最も多く、夫婦旅行や家族旅行がそれに続いている。宴会で費用がかさむようなグループ旅行は減少傾向にあるのではないかと。
		通信会社（営業担当）	単価の動き	・物価の値上げが相次いでおり、収支バランスが崩れてきている。
		通信会社（営業担当）	お客様の様子	・客の設備投資意欲に変化がみられていない。
		通信会社（営業担当）	お客様の様子	・新商品は売れないものの、現状は維持できている。
		通信会社（営業担当）	お客様の様子	・客の要望に変化がみられない。
		通信会社（営業担当）	来客数の動き	・10連休となったゴールデンウィークの来客数は8割程度である。ただし、期間中に2日間の店舗休業を実施したが、特段の影響は見受けられていない。
		遊園地（経営者）	来客数の動き	・人手も含めて運営を懸念していたゴールデンウィークは、盛り上がるまではいかなかったものの、休日の増加で前年を上回ることができている。
		美容室（経営者）	来客数の動き	・ここ数か月の来客数が前年比101%前後で推移している。
		その他サービス 〔自動車整備業〕（経営者）	来客数の動き	・5月は前半のゴールデンウィーク、後半の農繁期と営業日が少ないこともあり、来客数、売上共に低調に推移している。5月としてはここ5～6年の中でも最低の状況である。
		設計事務所（経営者）	競争相手の様子	・役所主体で運営している企業はダンプで厳しい様子である。一方、民間主体で運営している企業は業績を維持又は拡張している。
		住宅販売会社（経営者）	競争相手の様子	・同業者は原価や売却の難易度が高い不動産物件に手を出さなくなっている。それが逆にビジネスチャンスとなっており、新築受注の材料となっている。
		その他住宅〔リフォーム〕（従業員）	販売量の動き	・住宅設備のエアコンの受付けは増えているものの、増改築のリフォーム工事が減ったことにより、受注金額は伸びていない。
		商店街（代表者）	お客様の様子	・商店街の商業複合施設が閉店セールを実施中であり、前年並みの売上及び来客数を維持しているものの、大型店の閉店に客は景気に対して不安を抱いている。また、政策である買物の5%還元ができるよう、キャッシュレス対応導入の店舗が増加している。
		商店街（代表者）	来客数の動き	・ゴールデンウィークにこれといった動きがないまま、5月も終わりとなっている。
		一般小売店〔医薬品〕（経営者）	販売量の動き	・ゴールデンウィークが長かったため、売上は前年比70%前後となっている。その後も平日は良いものの、中旬頃からは日々の変動が激しく、その状態が今も続いている。
		一般小売店〔酒〕（経営者）	お客様の様子	・今年のゴールデンウィークは、10連休ということや好天にも恵まれたことで、得意先の販売量は好調であった。ただし、その後の落ち込みも例年以上に大きくなっている。また、地元唯一の百貨店が、経営悪化により8月での閉店を公表している。経営者も消費者も地元経済への不安と落胆が大きく、影響が出ている。
		スーパー（営業担当）	来客数の動き	・特売価格強度を上げるなど販促強化をしているが、来客数は前年比99.9%と前年割れとなっている。半分ほどの店舗は来客数が前年を上回っているものの、傾向的には前年を下回る店舗が増加している。
		コンビニ（経営者）	単価の動き	・来客数や売上は堅調に推移しているものの、客単価が今年に入ってからの最低の数値となっている。
		コンビニ（経営者）	来客数の動き	・ゴールデンウィークの来客数が予想より芳しくないため、苦戦している。
		コンビニ（店長）	来客数の動き	・今年はゴールデンウィークが10連休ということで、街なかの店舗は全滅している。月末も自動車税の納付があるため、大分買い控えが目立っている。消費は冷え込んでいるが、景気のせいなのか、消費税の引上げに対する不安からなのか、判断できない。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		衣料品専門店（経営者）	来客数の動き	・来客数も少ないが、暑かったり寒かったりで季節の変化がスムーズではないため、客からは夏物の購入に踏み切れない様子がうかがえる。
		衣料品専門店（総務担当）	お客様の様子	・来客数、客単価、買上点数共に、前年比90%の状態であり、売上に影響している。
		その他専門店 [ガソリンスタンド]（営業担当）	販売量の動き	・販売量が前年を下回っている。また、仕入価格の上昇で収益も減少している。
		その他専門店 [ガソリンスタンド]（営業担当）	販売量の動き	・販売量の減少傾向がより強まってきている。ゴールデンウィークによる増加もなく、連休後の販売量も減少傾向にある。
		高級レストラン（経営者）	単価の動き	・全ての会社が直接の影響を受けているわけではないが、米中貿易摩擦の影響で消費マインドが落ち込んでいるように見受けられる。
		一般レストラン（経営者）	それ以外	・来客数の動きも鈍いが、歓送迎会や宴会の数も例年と比べて段々と少なくなってきている。
		一般レストラン（経営者）	来客数の動き	・今月は余りにも長すぎたゴールデンウィークの影響により、なじみ客も海外旅行や遠出をする機会が多いのか、なかなか来店してもらえない状況となっている。適度な連休ならまだしも、余りにも長すぎると当店のようない地元客中心の店は大変な痛手となる。
		観光型ホテル（経営者）	来客数の動き	・ゴールデンウィークに予約が集中したことで、その後は例年よりも利用客が少なく、週末でも空室が出るような状況である。
		都市型ホテル（スタッフ）	来客数の動き	・ゴールデンウィークは、10連休の影響で宿泊、レストランなどの個人部門の売上が伸びたものの、その後は反動で減少している。また、企業の動きが低調であり、宴会場の利用も減少している。
		旅行代理店（経営者）	販売量の動き	・ゴールデンウィークの需要が良かった反面、それ以降の個人消費の動きが落ちてきている。特に5月より先の予約は例年よりも動きが弱い。
		タクシー運転手	競争相手の様子	・タクシー業界は自社、他社共に乗車率が振るわない状況である。さらに、路線バスについても同様であり、全体的に景気は良くないとみている。
		通信会社（営業担当）	競争相手の様子	・米国大統領による貿易関税問題が徐々に響いているのではないかと、国内総生産における輸出の伸びが下降気味であるなど、業種別の不均衡が懸念される。業種別格差が広がるおそれがあるため、投資を控える企業が多くなっている。
		通信会社（営業担当）	お客様の様子	・新サービスへの加入希望者は増えているものの、工事業者の人手不足のため、サービスエリア拡大の工事が予定よりも遅れている。そのため、予定していた加入者の獲得ができずに工事、営業活動共に停滞している。
		美容室（経営者）	お客様の様子	・4月はまあまあ良かったが、今月は悪い状態となっている。
	×	一般小売店 [書籍]（経営者）	来客数の動き	・10連休となったゴールデンウィーク後半から、一気に消費が停滞している。モールなどに出没している店舗全体でも、客単価による多少のカバーはあるものの、来客数、買上点数共に落ち込んでいる。
	×	一般小売店 [医薬品]（経営者）	来客数の動き	・ゴールデンウィークの10連休中は観光客が非常に多く、客単価は低いものの来客数は増加したことでにぎわっていた。ただし、その後は観光客の姿は全く見えなくなっている。そのため、来客数も減少し、全体として前年比10%の減少となっている。
	×	スーパー（経営者）	お客様の様子	・ゴールデンウィーク後に買い控えが起きている。また、ガソリン価格の高騰、物価の値上げも続いている。
	×	衣料品専門店（店長）	来客数の動き	・ゴールデンウィークの長期化により、ショッピングセンターや行楽地にはぎわったものの、人の動きが分散したことにより、物販店には足を運ばない状況となっている。さらに、その後は消費の手控えがみられており、少し単価の高い当店のようない業種はその影響を強く受けて来客数が大幅に減少している。
	×	乗用車販売店（経営者）	販売量の動き	・新規受注が低落傾向にある。
	×	住関連専門店（経営者）	単価の動き	・競争が激しく、新しい物件の問合せがあっても、受注量に結び付いていない。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
	×	タクシー運転手	それ以外	・10連休というゴールデンウィークに、悪い影響を受けている。
	×	競艇場（職員）	来客数の動き	・なじみ客の来客数の動きが悪くなっている。
企業 動向 関連 (東北)		食料品製造業（営業担当）	受注量や販売量の動き	・ここ数年、販売量の前年割れが続いていたが、最近では前年同月を上回ることが増えてきており、景気はやや良くなっているように見受けられる。
		農林水産業（従業者）	受注価格や販売価格の動き	・前年の果物農家の収入が例年よりも1～2割安かったことが影響している。
		食料品製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・10連休というゴールデンウィークでは土産物がよく動いていた。しかし、連休最後の2日から余り動かなくなり、その後の動きも悪くなったため、前半の貯金を食い潰す形となり、最終的には前年を下回る売上となっている。
		食料品製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・10連休となったゴールデンウィークの売上はプラス30%であったが、その後は前年同月よりも減少している。そのため、景気は良くなっていない。
		金属製品製造業（経営者）	取引先の様子	・受注量の動きは例年どおりに推移している。
		輸送業（経営者）	取引先の様子	・当社を取り巻く環境が変化しており、予定していた物量の動きは芳しくなく、横ばいで推移している。
		通信業（営業担当）	取引先の様子	・通信業界に対する厳しい反応が多いため、懇切丁寧な説明が必要となっている。
		通信業（営業担当）	取引先の様子	・設備投資よりも経費削減に重きが置かれている。
		金融業（営業担当）	取引先の様子	・住宅ローン、マイカーローンなどの個人向けローンは堅調であり、底堅い感がある。
		広告業協会（役員）	受注量や販売量の動き	・改元のお祝い広告出稿に期待をしていたがそれほどでもなく、前年比は微増で推移している。
		公認会計士	取引先の様子	・小売業、サービス業は相変わらず売上、利益共に前年比が減少しているが、建設業がどうにかカバーしている。この状況は3か月前から余り変わっていない。
		その他非製造業〔飲食料品卸売業〕（経営者）	受注量や販売量の動き	・ゴールデンウィーク期間中は観光客によりにぎわったが、連休前に投入した流通在庫が消化されるほどではない。その後は消費の盛り上がりもなく停滞している。
		農林水産業（従業者）	それ以外	・少雪の影響で農業用水の量が少ない。
		出版・印刷・同関連産業（経営者）	受注量や販売量の動き	・印刷物の受注量や飲食店などの様子から、景気はやや悪いと実感している。
		出版・印刷・同関連産業（経理担当）	取引先の様子	・飲食業から広告を集めて雑誌を発行している出版社などにおいて、広告の集まり具合が悪くなっている。
		窯業・土石製品製造業（役員）	受注量や販売量の動き	・出荷が増えているのはごく一部の地区だけであり、東北全体としての出荷量は微減傾向が続いている。
		電気機械器具製造業（企画担当）	受注量や販売量の動き	・在庫調整の影響により製品価格が下落している。
		建設業（従業者）	受注量や販売量の動き	・官庁工事の設計変更があり、民間工事も小規模案件の受注にとどまっている。
		金融業（広報担当）	受注価格や販売価格の動き	・春以降、日用品や食料品を主体に値上げ品目を増加したが、消費者もその状況に対応してトータルでの出費を抑制している。その状況は現在も変わっていない。
		広告代理店（経営者）	受注量や販売量の動き	・長いゴールデンウィークの影響が、いつもの月と比較して半分の発注量となっている。
	広告代理店（経営者）	受注量や販売量の動き	・広告発注量の微減状態や、首都圏スポンサーにおける東北エリアへの広告出稿の減少傾向が顕著に表れている。	
	経営コンサルタント	それ以外	・中心部の商業施設では、ゴールデンウィークの来客数は多かったものの、売上が伸びていない。さらに、連休後の来訪客は大きく減少している。	
	コピーサービス業（従業者）	受注量や販売量の動き	・IT関連の商談において、導入時期の延期や検討そのものが白紙になるケースが以前より増えてきている。客が設備投資に慎重になってきているように見受けられる。	
	その他企業〔企画業〕（経営者）	受注量や販売量の動き	・得意先である流通業からの受注量が前年と比較して減少している。改元需要も掘り起こしには程遠く、その影響がなぜか尾を引いている状態である。	

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
	×	その他非製造業 [飲食料品卸売業] (経営者)	取引先の様子	・当社も含めて同業者の売上が前年比、3か月前との比較において非常に落ち込んでいる。全般的に良くない状況である。
雇用 関連 (東北)		人材派遣会社 (社員)	採用者数の動き	・例年、3月は契約満了に伴う契約終了者が最大となるが、今年はその後の4月稼働者数が前年比2けたの増加を達成している。そのため、第1四半期の推移は底堅いとみている。
		人材派遣会社 (社員)	求人数の動き	・求人数は継続して増加傾向にある。また、取引先においても採用数が増えている様子である。
		人材派遣会社 (社員)	求職者数の動き	・オフィス系の派遣ニーズの推移に大きな変動はないが、軽作業や製造系ニーズは依然として高い。また、ゴールデンウィーク明けからは求職者にも動きがみられている。
		アウトソーシング企業 (社員)	それ以外	・仕事量が増えている。
		人材派遣会社 (社員)	周辺企業の様子	・求人に対して応募がこない。さらに、求人数が非常に多いため、中小企業にまで人が回ってこないという状況が続いている。また、建材を扱っている企業などは、東北の仕事が減ってきているなか、関東圏の仕事を取りに動いている。
		人材派遣会社 (社員)	求職者数の動き	・採用不振の状況に大きな変化はない。
		新聞社 [求人広告] (担当者)	採用者数の動き	・不足する人材を、新卒一括採用以外の手法で確保する動きが出るなど、積極的な採用から様子をうかがう姿勢に転じてきている。
		職業安定所 (職員)	周辺企業の様子	・求人数の減少もあり、有効求人倍率は前年同月比で微減となっている。ただし、事業所訪問時における感触に変化はみられていない。
		職業安定所 (職員)	求人数の動き	・月間有効求人数は、3か月前と比べると1.1%減少している。新規求人数は7.8%増加しているものの、約60%が更新求人であることから、景気は変わっていない。
		職業安定所 (職員)	求人数の動き	・月間有効求人数は3か月前と比較して3.5%増加しているものの、有効求職者数も増加している。また、有効求人倍率も例年の動きと同様であり、景況感に大きな変化はみられていない。
		学校 [専門学校]	それ以外	・景気が良くなるような要素がなく、物価の値上がりにより景気の悪化も懸念される。このような状態であるため、現在の景気は横ばいながらも余り良くない雰囲気がある。
		その他雇用の動向を把握できる者	周辺企業の様子	・人手不足による有効求人倍率の高止まりが続いている。一方、特に製造業で先行き不安から求人を手控える動きが出ている。
		人材派遣会社 (社員)	求職者数の動き	・時期的なものもあるかもしれないが、仕事を探している人の動きは、エントリーなど含めて余り多くない状況である。
		人材派遣会社 (社員)	周辺企業の様子	・東北地方の北側ではシャッター街も多く、ホテルの廃業も散見されている。決して景気が良くなっているとはいえない状況である。
		新聞社 [求人広告] (担当者)	求人数の動き	・求人数の前年比が10%近く減少している。特に地元の主流業種であるサービス業や流通業の落ち込みが激しく、景気浮揚のブレーキとなっている。話を聞くと、採用したくても求職者が来ないため期待が薄いという傾向が続いており、経営的に採用できない状況になりつつある様子がうかがえる。
	×	民間職業紹介機関 (職員)	周辺企業の様子	・米中貿易摩擦や欧米諸国の動向などから、国内生産が上向きな状況になっていない。派遣業界は減産と人員削減が発生している。

3. 北関東 (地域別調査機関 : 株式会社日本経済研究所)

(- : 回答が存在しない、* : 主だった回答等が存在しない)

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連 (北関東)		その他小売 [ショッピングセンター] (統括)	来客数の動き	・今春に終えた大規模リニューアルが、全館の集客増につながっている。県内、全国、エリア初出店等のテナントを集積できた効果が非常に高く、3月以降の来客数が120%を超える水準で進捗している。
		百貨店 (役員)	販売量の動き	・物産催事や食料品などの動きが良くなっている。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		コンビニ（経営者）	販売量の動き	・来客数は前年比99%と横ばいである。客単価は106%と微増、売上も104%の微増である。例年ゴールデンウィークは3割ほど落ち込むが、今年は観光客などフリー客の来店があり、大きく落ち込まなかったことが、売上増の要因と思われる。
		家電量販店（店長）	販売量の動き	・消費税再増税の影響が前年より夏物商材の動きが早く、販売が増えている。
		一般レストラン（経営者）	来客数の動き	・令和のお祝いムードや10連休にネモフィラの開花が重なり、来客数は伸びていたが、20日過ぎから徐々に減少しており、とても良いとまではいえない。
		通信会社（局長）	お客様の様子	・新年度になり、テレビ、インターネット、電話の加入者も増えてきており、当社の景気は上向きである。しかし、業種によっては景気が良いとはいえない。
		テーマパーク（職員）	来客数の動き	・10連休により、入園者及び物販や飲食の売上が大幅に伸びている。
		ゴルフ場（総務担当）	来客数の動き	・10連休の来場者は前年と変わりがない。ただし、天候に恵まれてキャンセルが少なかったため、前年来場者数3,900名に対して、4,147名と247名プラスの見込みで、上向きである。
		設計事務所（所長）	競争相手の様子	・前月と同様、忙しい業者が多いようである。今年も猛暑が予想されるため、エアコン業界は好景気が予想される。
		商店街（代表者）	お客様の様子	・春行事の修学旅行や遠足時の写真需要が、前年より激減している。少子化の影響が出てきている。また、商店街では、電子決済カードの新規登録者に特典を付けるキャンペーンをしているが、関心は薄い。
		一般小売店〔精肉〕（経営者）	お客様の様子	・大型連休が終わった。体も疲れたが、懐も疲れたのだらう。連日のチラシを見ても、客の動きは余りない。ここ数日の異常な天候の影響もあるのではないかと。
		百貨店（店長）	来客数の動き	・客単価は4%ほど上昇しているが、来客数は5%ほど減少しており、全体では微減となっている。
		スーパー（商品部担当）	単価の動き	・前月同様、客単価が3%落ち込んでいる。価格訴求時の数値は変わらないものの、平日の数値が特に悪い。
		衣料品専門店（販売担当）	来客数の動き	・とにかく来客数が激減している。天候不順や選挙も多い。そうした要因はあるが、明るい兆しは全くない。数か月前からずっとだが、徐々に重い空気になってきている。何か打開策をと思っても、思い浮かばないのが現状である。
		乗用車販売店（経営者）	お客様の様子	・新車販売台数、車検売上などに大きな振幅はなく推移している。本来ならば5~10%の伸びがないと、企業は成長できないのかもしれない。
		乗用車販売店（販売担当）	お客様の様子	・当店は観光地が控えており、今月は9~10連休のところもあったと思うが、ものすごい数の観光客がやってきて、当店の顧客の物産店や食堂関係は、にこにこ顔で潤っていたようである。今月はどこの店もかなりの売上があったのではないかと。全体的に2~3か月前と比べて多少は良くなっているが、スポット的な物ではないかと思う。これから観光シーズンになるので、多少は上向いていく。
		自動車備品販売店（経営者）	販売量の動き	・今まで販売量が余り振るわなかった分、多少売上が伸びている。
		住関連専門店（仕入担当）	来客数の動き	・月初は改元ムードと連休で、客足は順調に伸びたものの、連休明けからは滞って、前半のプラスと後半のマイナスで相殺されてしまっている。
		その他専門店〔靴小売業〕（経営者）	お客様の様子	・10連休の影響があるようである。ふだんの生活が送れず、再び物を買うところには至っていない。また、高温も影響している。消費が回復する要因が少なく、良い材料がない。客の動向がつかみにくなっている。
		一般レストラン（経営者）	来客数の動き	・宴会の回数は若干増加しているが、一般、フリー客が少なくなっている。
		その他飲食〔給食・レストラン〕（総務）	お客様の様子	・今年度も事業所給食の新規契約先を獲得することができた一方、既存の取引先で、人件費や食材費などの経費増を踏まえた取引条件の見直しについて、理解はしてもらえても改定には時間が掛かるケースが多い。
		観光型ホテル（経営者）	来客数の動き	・4月下旬から5月初旬にかけてのゴールデンウィークに集約され、その他の期間は、例年並みかそれ以下となっている。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		都市型ホテル (営業担当)	販売量の動き	・県内に3つのホテルを運営しているが、5月の稼働は、60~70%の間で、70%を超えるところもあるという状況で、全体としては芳しくない。過去の事例を見ると、5月はこうした傾向をたどるので、2~3か月前と比べると、大きく変わりが無い。
		都市型ホテル (副支配人)	販売量の動き	・ゴールデンウィーク中は宿泊、料飲共に、売上が好調に推移している。その後は宿泊については変わらず好調なもの、料飲は落ち込んでいる。全体的に判断すると、やや良いといったところに落ち着く。
		タクシー(経営者)	お客様の様子	・夜の動きが悪く、前年同月と比べて8%減である。
		通信会社(経営者)	販売量の動き	・一般企業や事業所からの受注はほぼ皆無である。行政や団体の発注さえ、経費削減で買いたたかれている。さらに、印刷原価は紙の価格高騰で10~20%増であり、非常に厳しい。
		通信会社(営業担当)	販売量の動き	・不動産関連物件数が、前年と変わらない。
		競輪場(職員)	お客様の様子	・入場者数、購買単価共に、ほぼ変化がみられない。
		設計事務所(所長)	来客数の動き	・個人客の問合せが来ていない。
		住宅販売会社 (経営者)	お客様の様子	・不動産投資の安い物件には、引き合いがある。アパートの1棟売りなどには問合せがあるものの、土地についての問合せはなかなかない。また、事務所の引き合いもほとんどない。強いていえば、貸店舗の飲食店関係はちらほらあるかというところである。
		一般小売店[青果] (店長)	お客様の様子	・今月は長期連休もあり、お金を使ったり、働く日数が少なく残業手当も付かず、日給月給のところでは、給料もかなり減っている。当店が納品している飲食店、ホテル等のどこもが暇だとつぶやいている。
		百貨店(営業担当)	販売量の動き	・大型連休は予想以上に厳しい結果となった。食品物産展は集客、売上共に堅調なもの、依然として婦人、紳士アパレルの不調が、売上不振の主要因となっている。
		百貨店(営業担当)	販売量の動き	・10連休は多くの来客を期待していたが、前年を下回っている。売上也同様に下回った状態で、浮上の兆しが見えない。特に、来客数に比例する食品売上が良くない。
		一般レストラン (経営者)	来客数の動き	・連休中は、そこそこの客入りだったが、その前後の落ち込みが大きく、決して景気が良いとは感じられない。客単価も前年とほぼ同じである。
		スナック(経営者)	来客数の動き	・平日の集客人数が減っている。
		都市型ホテル (経営者)	販売量の動き	・景気が持ち直しているという実感はない。
		都市型ホテル (営業)	来客数の動き	・10連休があり、出費がかさんで仕事日数も少なく、個人消費が落ち込んできているので、厳しい月だとみている。
		旅行代理店(経営者)	販売量の動き	・夏期商材の予約問合せ数が、前年より悪い。
		旅行代理店(所長)	お客様の様子	・ゴールデンウィーク10連休の反動か、宿泊の伸びが鈍化している。外国人観光客の来訪は堅調なもの、ほとんどが東京からの日帰りで宿泊につながらない。同時に、地元での消費も鈍い。
		タクシー(役員)	来客数の動き	・慢性的な人手不足である。
		通信会社(総務担当)	販売量の動き	・2月以降、毎月マイナスが続いている。
		美容室(経営者)	来客数の動き	・米中貿易摩擦は我が国の経済動向に甚大な影響をもたらす。中国製スマートフォンの部品は、地方の中小製造業まで及んでおり、影響は計り知れないものがある。
		その他サービス [自動車整備業](経営者)	販売量の動き	・大型店の集客攻勢激化のあおりを受け、整備全体で目標の2割減が続いている。車体整備は、事故率低下と損害保険会社の事故割増契約が影響し、3割減のままである。経営は確実に悪くなっている。
		住宅販売会社 (経営者)	販売量の動き	・今年に入って以来、販売量が急激に減少している。4月以降の回復を期待していたが、5月の連休で更に悪化している。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
	×	タクシー運転手	それ以外	・観光地でもない地方の田舎町では、毎年5月の連休は利用客が減少する。特に、今年は10連休もあったので、その後も2～3日は駄目だった。また、夜の街中もひっそりとしている。会社全体の売上も30%以上落ちている。
企業 動向 関連 (北関東)		金属製品製造業 (経営者)	受注量や販売量の動き	・現状、売上が安定している。増加傾向にあるものの、これからのことは、よく分からない。
		その他製造業 [環境機器] (経営者)	受注量や販売量の動き	・当社主力3部門の3番目である太陽光発電事業は、3～5月の売電が過去最高となっている。他の2部門合計も3年間伸びているにもかかわらず、増設も続いている太陽光発電の売上と粗利が、その合計を上回っている。
		化学工業(経営者)	受注量や販売量の動き	・予想以上に受注量が伸び、非常に忙しく稼働している部門があり、期待している。この状況を何とか維持したい。
		金属製品製造業 (経営者)	受注価格や販売価格の動き	・前年同期よりも、今月の売上は良い。
		輸送用機械器具製造業(経営者)	受注量や販売量の動き	・自動車の北米販売が89か月連続で前年を超えている。また、国内販売は18か月ぶりの前年超えとなっている。
		窯業・土石製品製造業(総務担当)	受注量や販売量の動き	・おおむね横ばい状況で、変わらない。
		一般機械器具製造業(経営者)	受注量や販売量の動き	・10連休による稼働日数減少の影響を懸念していたが、前倒し生産等により、今月は前年並みの売上を確保できている。
		輸送用機械器具製造業(経営者)	取引先の様子	・取引先が13社くらいあるので、現状、良しあしや受注量の多少等はいろいろで、余り変わらない。
		輸送業(営業担当)	取引先の様子	・ゴールデンウィーク半ばまでは天候も良く、パーベキュー用品等レジャー用品の輸送量も前年並みの物量だった。その後は天候不順で降雨もあり、物量的には落ち込んだが、月末にかけ猛暑も続き、エアコン、扇風機等の夏物商材の輸送量も多くなり、結果的に前年並みの物量確保ができています。
		司法書士	受注量や販売量の動き	・当地は、大手企業の下請けというか、孫請けぐらいの企業が多く、米中の貿易摩擦問題を心配している。現実にはまだ、何も変わったところはない。
		電気機械器具製造業(経営者)	受注量や販売量の動き	・4月に入ってから、医療器関係の注文が激減し、前年より悪くなる感じである。なぜだか分からないが、相当落ちている。
		建設業(総務担当)	受注量や販売量の動き	・例年に比べても、連休明けからの動きが、すこぶる悪い。
		不動産業(管理担当)	受注価格や販売価格の動き	・月初の連休が長く、定期保守作業が延期や中止となっている。連休中や連休後の緊急対応もなかったため、売上が減少している。事務所テナントの退去もあり、定期保守業務も減少している。
		広告代理店(営業担当)	受注量や販売量の動き	・消費税増税に対するマイナスのマインドが厳しい。
		社会保険労務士	取引先の様子	・輸出関連の中小企業売上が減少しており、しばらくはこの状況が続くそうである。
		その他サービス業[情報サービス](経営者)	受注量や販売量の動き	・特段の変化はみられない。
	×	電気機械器具製造業(経営者)	取引先の様子	・新年度に入り、取引先の生産量が芳しくない。来月の生産動向発表を期待している。
	×	建設業(開発担当)	受注量や販売量の動き	・公共工事主体で売上の95%を占める建設業を営んでいる。現政権誕生後、公共工事は順調に推移してきたが、今年度は前年比36%減、前々年比で33%減と、大変厳しいスタートとなっている。発注時期の問題であってほしいが、大変心配である。ただし、当社決算上は、前年度受注なので、今のところは心配していない。今後の動向を注視していきたい。
雇用 関連 (北関東)		-	-	-
		人材派遣会社(経営者)	求人数の動き	・今月は一般住宅の増改築工事等が目立っている。求人にもあったが、製造部門や建設関連の職員募集も目立っている。一般消費者の青果、肉等への支出は、堅調な動きに見受けられる。異常な暑さもあり、夏物衣料などに若干動きがあったようである。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		人材派遣会社（社員）	雇用形態の様子	・受注している雇用形態のうち、派遣は例年並みに落ち着いている。有料の人材紹介は、前年同期に比べ増加している。
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・直近3か月及び前年同期を見ても、ほぼ変わらない。有効求人倍率も同様である。
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・求人数は前年並みであったが、求人数は前年より減少している。また、一時期よりも新規で求人を出したいという企業が少なくなっている。
		人材派遣会社（経営者）	雇用形態の様子	・このところ、忙しい会社がなくなり、活気がない。
		人材派遣会社（管理担当）	周辺企業の様子	・自動車関連部品の生産が減少している影響で、派遣依頼も減少している。
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・政府の景気悪化判断を受け、製造業企業を中心に求人採用数を減らす、採用を控えるという動きが広がっている。
	x	*	*	*

4. 南関東（地域別調査機関：株式会社日本経済研究所）

（-：回答が存在しない、*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連 (南関東)		スーパー（経営者）	来客数の動き	・来客数が増えている。
		一般レストラン（経営者）	来客数の動き	・5月は各種団体の総会が入っており、かなりの大人数の総会もあったので、今月はとても良い（東京都）。
		都市型ホテル（スタッフ）	来客数の動き	・改元の影響でゴールデンウィークが10連休となり、動きが非常に良い。イベントも各所で実施されており、人の動きは活発である。
		旅行代理店（従業員）	販売量の動き	・5月はゴールデンウィークの10連休があり、天候も良く、売上が前年比280%を記録している（東京都）。
		観光名所（職員）	来客数の動き	・観光地なので、2か月前は閑散期、5月になるとゴールデンウィークがあり、2～3か月前よりは十分に来客数が増えている（東京都）。
		一般小売店〔家電〕（経理担当）	来客数の動き	・暑くなってきたためエアコンの販売が好調である。天候次第なので何ともいえないが、今年は消費税増税も控えているので、早めに購入してもらうように客に伝えている。エアコンは例年6～7月がピークになるので、これから売上が増える。
		一般小売店〔家電〕（経理担当）	販売量の動き	・暑さや消費税増税前の駆け込み購入などで商品は動いている。設備関係の要望も出てきている。
		一般小売店〔傘〕（店長）	来客数の動き	・日傘推奨の報道を受け、今までの利用者以外の客層の来店が増えている。
		百貨店（売場主任）	販売量の動き	・気温が上がり、初夏向けの雑貨や洋品が動き始めている。動員施策にも反応があり、販売数が伸びている。また、高額商材も動いており、順調に推移している。
		百貨店（広報担当）	お客様の様子	・米中貿易摩擦の影響で、中国からのインバウンド客の消費マインドが低調である。また、製造業を中心とした一部国内企業の業績にもマイナス影響を及ぼし、国内消費にもブレーキが掛かっている。ただし、3か月前と比較すると状況は上向きで、購買力の高い客のマインドは改善している（東京都）。
		百貨店（店長）	来客数の動き	・都心部の大型店舗では、インバウンドによる売上が復調してきている（東京都）。
		スーパー（販売促進担当）	単価の動き	・5月に入ってから急激な気温上昇により、衣料品の客単価が10%アップし、食品も2%アップと好調に推移している。集客数は前年並みである。
		コンビニ（エリア担当）	販売量の動き	・毎年、ゴールデンウィーク明けは財布のひもが固くなり売上が落ちるが、今年は、10連休という長期休暇があったにもかかわらず、売上は前年を上回っている（東京都）。
		コンビニ（商品開発担当）	販売量の動き	・客単価とともに前年比売上が目標をクリアしている（東京都）。
	衣料品専門店（経営者）	販売量の動き	・10連休の前半は店も街も閑散としていた。連休明け早めに仕掛けた高額商材の割引セールで売上は前年をクリアしたが、6月需要の先食いのため、来月は大変である。	

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		衣料品専門店 (営業担当)	販売量の動き	・今月は5か月ぶりに前年をクリアすることができた。比較する前年売上が前年比80%の達成率で、それに対する100%ということなので、素直には喜べないが、天候にも恵まれ、旅行などに行く客のコーディネート買いが多少あり、売上が取れている。
		家電量販店(経営企画担当)	販売量の動き	・5月は天皇陛下の御即位、改元の祝賀需要、ゴールデンウィーク10連休、また季節外れの猛暑もあり、国内消費が堅調な動きとなっている。一方、インバウンド需要はゴールデンウィーク時期を避けているのか、来客数、客単価共に大きく落ち込んでいる。堅調な国内需要の売れ筋は、ノートPC、タブレット端末、季節家電のエアコン、白物家電の冷蔵庫、洗濯機が好調に推移している(東京都)。
		乗用車販売店 (店長代行)	来客数の動き	・5月はゴールデンウィークがあったにもかかわらず、来客数が4月より増えている(東京都)。
		その他専門店 [雑貨](営業担当)	単価の動き	・この時期は気温の上昇とともに外出機会が増えていくので想定どおりだが、前年と比較すると、1人当たりの購入点数が僅かながら増えている(東京都)。
		一般レストラン (経営者)	販売量の動き	・3か月前の2月は1年で一番悪い月なので、それと比べると少し良くなっている。販売量はケータリングのお陰でやや増えているものの、店内の売上はさほど変わらず、逆にやや落ちているので、景気が上向きになっているとは思えない。
		その他飲食[居酒屋](経営者)	お客様の様子	・経費増大のため商品の値上げをしているが、注文にちゅうちょする様子はない。客1人当たりの注文数、客単価も増えている(東京都)。
		旅行代理店(営業担当)	販売量の動き	・前年同時期と比較して販売量が増加している。
		タクシー運転手	お客様の様子	・タクシーの利用客は降雨や暑さ、寒さによって大分変化するが、このところの猛暑で昼間の客、特にサラリーマンの乗降客が一時的に増えている(東京都)。
		通信会社(管理担当)	お客様の様子	・ラグビーワールドカップ、東京オリンピックに向けて4Kテレビが好調である。日本人はより高精細な画質を求める傾向にあり、店頭テレビの4Kシェアを考えると、今後に期待できる。
		通信会社(経営企画担当)	お客様の様子	・案件数が増加し、やや良くなっている(東京都)。
		設計事務所(経営者)	お客様の様子	・高級有料老人ホームの基本性能について、プロジェクトに関わる機会をもらった。外観の化粧に関する問合せでなく、基本性能についての問合せである。取引先に余裕がないと、できることではない。
		商店街(代表者)	それ以外	・クレジットカードの取扱高は、前年同月比でぎりぎりプラスである。10連休はイベントへの反応が良かった。ふだんのゴールデンウィークは、当地域周辺の高級住宅街に住民がいなくなってかなり苦戦するのに、今回は10日間休みが並んだにもかかわらず、良かった。これは当地域の人は海外に行ったが、東京にはたくさん人が来たということなのかもしれない(東京都)。
		一般小売店[和菓子](経営者)	販売量の動き	・ゴールデンウィークの売上は良かったのだが、10連休の影響か、後半になって来客数、売上がかなり減っている。その後は連日の夏日で更に来客数が減少し、売上につながらなかった。
		一般小売店[家具](経営者)	販売量の動き	・家を買換えた客があり、多少需要があったが、景気の良しあしの問題ではなく、たまたま商品が動いたということである(東京都)。
		一般小売店[印章](経営者)	来客数の動き	・来客数が非常に少なくなっている。以前からほとんど変わらない数字だが、厳しい。独立店舗なので、暑くなると更に少なくなる。
		一般小売店[祭用品](経営者)	来客数の動き	・元号が令和に改まり、その関係の受注が若干あったが、思ったほどではない。
		一般小売店[文房具](経営者)	お客様の様子	・例年ゴールデンウィークは来街者が多いが、当店のような物販の小売店ではなかなか売上に繋がらない。今年は10連休ということで心配していたが、売上、来客数共に大きく落ち込むことはなかった(東京都)。
		一般小売店[生花](店員)	販売量の動き	・3月は卒業式、謝恩会、送別会、お彼岸と、例年どおりに客が多かった。5月に入り、行事としては母の日があるが、昔と違って余りお金を掛けない人が多いのではないかと感じている(東京都)。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		一般小売店 [茶] (営業担当)	来客数の動き	・お茶祭りイベント期間の売上は前年より伸びたものの、下旬から来客数が減り、売上が減少してしまっている。
		一般小売店 [茶] (営業担当)	販売量の動き	・以前と変わらず、販売量が伸びず、現状を維持するので精一杯である。新茶の時期も特に目立った進展はなく、今までどおりである。これでは今年も夏のボーナスは期待できない。一体どこが景気が良いのか。お金儲けをしない公務員だけであるう、いいのは。ちゃんとボーナスもでているし(東京都)。
		百貨店(売場主任)	販売量の動き	・全体的にはほぼ前年並みで、良くも悪くもなく、何とか健闘している。品番別の特徴は特に大きくなく、郊外店、大型店共に大体前年並みとなっている。お中元ギフトの立ち上がりと物産展が堅調に推移している(東京都)。
		百貨店(総務担当)	お客様の様子	・客の動向として、堅調な部門もあるものの、ゴールデンウィーク明けから消費に対して慎重な動きがある。
		百貨店(営業担当)	販売量の動き	・カテゴリーごとの好不調があるものの、店舗全体ではほぼ横ばいである。ブランド品、化粧品を中心とするインバウンド需要は堅調に伸びている反面、婦人服を中心とするアパレル関連は厳しい状況となっている。経済環境の先行きが不透明ななか、絵画、宝飾品、時計などの動きに波がある。ゴールデンウィークに外出した客が多かった影響か、食料品の売上が前年比較で落ち込みを見せている(東京都)。
		百貨店(営業担当)	来客数の動き	・改元を挟み10連休となったゴールデンウィーク期間は、改元にちなんだ各種イベントで来客数が増加したが、購買はごちそうメニューや和洋酒など食品が中心であった。連休明けは来客数が減少しており、連休の消費反動が大きい(東京都)。
		百貨店(販売促進担当)	単価の動き	・高額品やインバウンド消費を中心に好調を維持できている。前年クリアの傾向は変わらない(東京都)。
		百貨店(店長)	来客数の動き	・来客数が伸び続けていた前年に比べて、この1月以降は振るわない。ゴールデンウィークは相当動員があったが、5月を締めると前年1月以降のぎりぎり前年並みから一歩も先に進んでいない(東京都)。
		スーパー(販売担当)	お客様の様子	・客の様子を見ていると、広告初日の目玉商品、ポイント何倍の日、あるいは時間帯でのサービスタイムなど店ごとの特典をうまく利用して買い回っている状況が多くみられる(東京都)。
		スーパー(経営者)	来客数の動き	・令和のお祝いムードと10連休に期待していたが、例年とさほど変わらず、期待ほどではなかった。それ以外に降雨もあり、厳しい状況であった。
		スーパー(総務担当)	お客様の様子	・買上点数が変わっていない。ぜいたくはしないが、新商品や話題の商品など、必要であれば安くなくても買う意欲がある。
		スーパー(営業担当)	単価の動き	・単価の伸びがない。販売数、来客数は共に前年を維持しているものの、買上単価の落ち込みによって、全体の売上が下がっている(東京都)。
		スーパー(仕入担当)	単価の動き	・ゴールデンウィーク期間は来客数減少で客単価アップとなり前年を超えたが、ゴールデンウィーク明けより来客数アップ、客単価はダウンとなり、1か月トータルでは厳しい月となっている。
		スーパー(仕入担当)	販売量の動き	・連休の影響により、初～中旬にかけては売上が伸び悩んだが、天候の影響により飲料、アイス、涼味麺等、夏物商材の動きが良くなってきている。
		コンビニ(経営者)	お客様の様子	・家庭で食べるのであろう総菜、冷凍食品の売上が大幅に伸び、10連休に落ち込んだ売上が通常に戻り、安定した状況が続いている。
		コンビニ(経営者)	来客数の動き	・天候のせいもあるが、ほぼ横ばいで余り良くない。
		衣料品専門店(店長)	販売量の動き	・ゴールデンウィーク期間中、前年の同期間で比べると、売上は12%程度落ち込んだものの、当社の宝石、着物、ドレスの各事業のイベントで、前年実績まで回復することができている(東京都)。
		衣料品専門店(統括)	来客数の動き	・気温が高いため、スーツを中心とする重衣料の客の減少が大きく影響している。
		衣料品専門店(役員)	お客様の様子	・中高年層の中にも品質より価格、1～2シーズン着たら捨てるという客が増えている。低価格の海外製品の需要が多い。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		家電量販店（店長）	来客数の動き	・ゴールデンウィーク期間中は、販売戦略が当たり、来客数が前年を超えたが、後半はその反動で減少し、平均して前年比95%前後の着地となっている。一方、客単価は店舗によっては2けた以上の伸びがみられる（東京都）。
		乗用車販売店（営業担当）	販売量の動き	・決算期と比べると多少下降気味にも思えるが、稼働日数が少ないことを考えると、悪くなっているとも思えない。
		乗用車販売店（販売担当）	お客様の様子	・新車の受注、特にワンボックスカーの発注が増えている。これは来年の東京オリンピックを見据えて、家族で移動するため、4～5人乗りよりも6～8人乗りでオリンピックを鑑賞したいということで、客がそう話している（東京都）。
		その他専門店 【ドラッグストア】（経営者）	販売量の動き	・今月は前月と余り変わらない。
		その他小売 【ショッピングセンター】（統括）	来客数の動き	・天候与件もあると思うが、前年より休日数が多いにもかかわらず、期待したほどの反響はなかった（東京都）。
		その他小売 【ゲーム】（開発戦略担当）	販売量の動き	・例年5月は旧作中心の動きだが、際立って良くも悪くもない。国内市場におけるゴールデンウィークの10連休、改元の影響は余り感じられない（東京都）。
		その他小売 【ショッピングセンター】（統括）	販売量の動き	・3～4月の館内改装が功を奏し、売上は全体的に増加している。ただし、世間一般的に上向いているかという、疑問である。
		高級レストラン（経営者）	販売量の動き	・1～2月は前年比マイナス、3月は前年比プラス、4～5月は前年同様の売上となっている。
		高級レストラン（営業担当）	来客数の動き	・レストラン、宴会利用を合算した来客数の推移は、前年比で96%前後である。その分、客単価の上昇が約1%あり、売上としては何とか前年を確保している（東京都）。
		高級レストラン（仕入担当）	単価の動き	・10連休を終えたが、全店でみると単価、売上高いずれもほぼ前年並みである（東京都）。
		高級レストラン（役員）	来客数の動き	・10連休は間延びしたような感じで、トータルでは前年同期並みである（東京都）。
		一般レストラン（経営者）	来客数の動き	・メニュー改革の影響もあり、売上は微増しているが、繁忙時間が限られていて、一気に空席になることがある（東京都）。
		一般レストラン（経営者）	来客数の動き	・3か月前と比べて来客数も余り変わらず、景気が良くなっているようには感じない。昼、夜、ランチタイムの来客数も増えていない。やはりサラリーマンが良くなると、景気が良くなっている感じは受けない。
		一般レストラン（経営者）	販売量の動き	・3か月前の2月1～24日までの前年比は、売上88.2%、来客数89.5%である。今月5月1～29日までの前年比は、売上108.7%、来客数100.5%である。2月は1店舗全面改装で休業していた。5月1日から価格を値上げした店舗が2店ある（東京都）。
		一般レストラン（経営者）	販売量の動き	・ここ2か月くらい伸びる傾向にあったが、今月は足踏み状態である。かといって、売上が下がっているわけではなく、事実上横ばいなので、客数が増えているというよりは、単価が若干上がっているような気がする（東京都）。
		一般レストラン（経営者）	単価の動き	・客単価が少しずつ伸びており、特に休日の客単価の伸びが顕著である（東京都）。
		一般レストラン（統括）	お客様の様子	・5月度の前半、ゴールデンウィーク期間はレジャー型施設の売上が順調に推移した。ゴールデンウィーク直後の反動、中だるみ時期はあったものの、後半は前年並みの推移となっており、トータルとしては身の回りの景気に大きな上下の動きは感じられない（東京都）。
		都市型ホテル（スタッフ）	販売量の動き	・ゴールデンウィークの宿泊は満室が続いたが、宴会は数件でレストランも失速し、トータルでは例年並みの数字で終わっている。定例案件の確保はできたものの、新規の問合せが少なく、やはり統一地方選挙の影響からか、企業の接待利用などが伸び悩んでいる。
		旅行代理店（従業員）	お客様の様子	・例年旅行を実施している団体客からの受注は順調に推移している。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		旅行代理店（販売促進担当）	販売量の動き	・今月は10連休の関係もあり、個人旅行を中心に自社企画等の企画が売れ、前年比も含めて20%以上のアップであったが、逆に国内の団体旅行が低調だったので、横ばいという結果になっている。海外も、個人旅行は良かったが、同じく団体旅行が低調となっている（東京都）。
		旅行代理店（総務担当）	お客様の様子	・増加傾向であった招待旅行の集客人数が頭打ちとなり、横ばいである。その予算に関して、客からは抑え気味の発言が出始めてきている（東京都）。
		タクシー運転手	お客様の様子	・ゴールデンウィークの影響もあり、利用が少ないように感じる。平均しているのは病院の送り迎えで、夜は相変わらず利用の少ない日が続いている。
		タクシー運転手	来客数の動き	・深夜1時過ぎの客の動きがない（東京都）。
		通信会社（経営者）	お客様の様子	・客からのリアクションによる営業は、前年と比べて増加傾向にある。こちらからのアプローチによるアクション営業は、手法により増減があるが、傾向としては変化がみられない（東京都）。
		通信会社（社員）	お客様の様子	・積極的な投資の話が出てこない（東京都）。
		通信会社（営業担当）	単価の動き	・契約数には若干の伸びがあるものの、安価なサービスに流れる傾向は続いており、1人当たりの売上は下降傾向にある。同じ市場を競合他社と奪い合っている。
		通信会社（局長）	販売量の動き	・ケーブルテレビ及びインターネットの契約数が前年同月比で落ち込んでいる。ゴールデンウィーク10連休の影響かもしれないが、連休後の契約数も余り変わらないことから、景気が良いとはいえない（東京都）。
		通信会社（営業担当）	お客様の様子	・必要最低限の契約内容を選択する傾向は、新規加入、コース変更共に変わっていない。
		通信会社（営業担当）	単価の動き	・業界の景気は上向きではない。値上げをする会社が出てきており、値上げ後の動向をみると、目立って解約等もないようなので、景気としては何ともいえない状況である（東京都）。
		通信会社（経理担当）	単価の動き	・放送、情報通信は、景気の影響を受けにくい、なるべく安くということ、客単価が下がり続ける傾向が変わらない。
		通信会社（総務担当）	単価の動き	・日用品等に少しずつ値上げの動きが出てきているが、現時点でその影響はまだ僅かである（東京都）。
		その他サービス [保険代理店] (経営者)	販売量の動き	・販売量、単価共に3か月前と変わらず、前年と比べても変わらない。
		設計事務所（所長）	お客様の様子	・継続的な業種ゆえ、特に変化はない（東京都）。
		設計事務所（職員）	それ以外	・業界の発注件数、自社の売上、今後の発注見込み等から大きな変化はみられない（東京都）。
		住宅販売会社（従業員）	販売量の動き	・消費税増税の反動もなく、比較的順調に受注が推移している。
		住宅販売会社（従業員）	販売量の動き	・3か月前と比べて販売契約数からみると大きく変化していない。客の動きも変化はなく、購入客も属性の良い客がメインになっている。
		住宅販売会社（従業員）	販売量の動き	・建設業に不信感を抱かせるような企業の発表や報道が続いたこともあり、客の決断が鈍くなっている。
		その他住宅 [住宅管理・リフォーム] (経営者)	お客様の様子	・ちょうど10か月ほど前に見積書を出して決まった仕事、客の都合でまだ具体的になっていない。非常に厳しい状況が続いているからではないかと思っている。
		商店街（代表者）	お客様の様子	・最近、来客数が若干減っていることに加え、客が購買に非常に慎重になっている。できるだけリーズナブルな物で間に合うのであればそうしたいという雰囲気を感じられる。振袖等の売上についても同様の状況がある。
		一般小売店 [文具] (販売企画担当)	それ以外	・5月は長い連休中に大きな案件が幾つかあり、良くなるかと思っていたが、その他の部分が余り振るわなかった。来客数が伸び悩んでいること、物件数が少ないこともあり、良くない。今後の大きな案件が余り出てきていないことをやや不安視している。
		百貨店（売場主任）	お客様の様子	・消費税増税や生活必需品の値上がりなどに対する防衛本能が出ている。百貨店の洋服等については、かなりシビアな目で見ている。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		百貨店（営業担当）	来客数の動き	・首都圏店舗の来客数は前年比95.7%と、改装工事による売場クローズの影響も一部あるものの、これまでけん引してきたインバウンド客の売上も98.8%と前年を割っている。特に婦人服、紳士服のアパレル部門とリビング用品が苦戦している（東京都）。
		百貨店（営業担当）	来客数の動き	・大型連休は来客数が分散され、微増にとどまっている。今まで売上の下支えとなっていたインバウンド関連も、連休中は来客数、売上共に悪化し、鈍化傾向である（東京都）。
		百貨店（販売促進担当）	来客数の動き	・中間層のマーケットが回復せず、今まで売上をけん引していた高額品や外国人客による売上に陰りが見えてきている（東京都）。
		百貨店（販売促進担当）	お客様の様子	・ゴールデンウィークの10連休は前年までとは比較が難しいものの、休日増が売上に繋がってはいない。旅行等のコト体験についてはお金が回っているが、モノ消費については厳しい結果となっている。その後も、気温の上昇に伴い、シーズン商材には動きが見えるものの、全体では消費者の財布のひもは固いと感じる。
		スーパー（店長）	来客数の動き	・来客数が月を追うごとに減っている。今月の来客数は前年比93.1%で、1日100人程度の来客数が減っている。客単価、買上点数は前年をクリアしているものの、来客数の減少が売上低迷の大きな要因として挙げられる。
		スーパー（店長）	お客様の様子	・来客数、販売量は横ばい状態が続いているが、一向に単価の上昇がみられない。価格の打ち出しには敏感に反応するものの、余計に購入する余裕が感じ取れない（東京都）。
		コンビニ（経営者）	来客数の動き	・営業時間や期限切れ食品の廃棄問題で、本部の対応の遅れが問題化され、報道で騒がれている影響もある。近隣の幹線道路が開通して車の流れが変わったため、影響を受けている。
		コンビニ（経営者）	来客数の動き	・ゴールデンウィークが長かったとはいえ、前年並みの来客数が取れていないことから、景気はまだ戻ってきていないのかなという感じがする。
		衣料品専門店（経営者）	販売量の動き	・衣料品の購買意欲が感じられない。厳しい状況が続いている。
		家電量販店（店長）	販売量の動き	・今月は、前半は厳しかったが、後半の気温上昇や猛暑が追い風となり、ようやく前年をクリアする見込みが付いた。冷蔵庫とエアコン、家事家電の洗濯機が販売を支えている。
		乗用車販売店（経営者）	販売量の動き	・自動車の整備と販売をしている。整備は順調に入っているが、販売が余り芳しくない。客の来場はあるが、なかなか成約に結び付いていない。
		乗用車販売店（経営者）	来客数の動き	・大型連休後、来客数が以前よりもかなり減ってきている。
		乗用車販売店（総務担当）	販売量の動き	・新車販売の伸び悩み、サービス需要の低下で、売上は計画に対して大きく未達となっている。
		乗用車販売店（店長）	来客数の動き	・10連休中にお金を使い、財布のひもが固くなっているようで、来客数も少なくなったように感じる。
		住関連専門店（統括）	販売量の動き	・来客数も少ないが、それ以上に成約件数が少なく、販売額、数共に落ち込んでいる。
		その他専門店 [ドラッグストア]（経営者）	来客数の動き	・以前に比べて価格に反応する客が増えている。
		その他専門店 [貴金属]（統括）	来客数の動き	・一部店舗では少ない接客機会を捉え、購買決定につなげて売上を確保している。しかし、全体的には、来店促進施策の効果も小さく、来客数、接客機会の減少から売上の確保が難しく、景気はやや悪くなっている（東京都）。
		その他飲食[給食・レストラン]（役員）	それ以外	・人を取り巻く環境の悪化が重荷となっている。最低賃金の引上げ、人手不足に伴う従業員獲得競争の中での人件費の高騰と、募集費の漸増等が、ここに来て利益圧迫の要因になってきている。一方で、現従業員の人事制度見直しも必要なため、人件費が特に急増している（東京都）。
		旅行代理店（経営者）	お客様の様子	・ゴールデンウィークが終わり、財布の中もなかなか満たされないという客の状況もあり、何となく景気は下向きになっているように感じる。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		タクシー運転手	お客様の様子	・都内ではチケット客が皆無に近い昨今、唯一露が関の官庁街だけがチケット客として貴重な客だったが、最近は深夜帰宅していた人が終電前に帰るよう、官庁街に空車タクシーが並ばなくなっている。ちまたでも自宅に近い駅からの利用客は多いが、短距離で売上が伸びない。世の中の景気は今一つ良くないようである（東京都）。
		タクシー（団体役員）	来客数の動き	・10連休中の個人利用は若干の上向きかと思われたが、連休後の落ち込みが非常に大きい。
		通信会社（営業担当）	お客様の様子	・価格の高いサービスからより低価格のサービスへの変更を希望する客が増えている。
		通信会社（管理担当）	販売量の動き	・ここ半年の低下傾向に変化はない。
		通信会社（管理担当）	販売量の動き	・法人向けのソリューションシステム販売は横ばいである。個人向け携帯電話販売は下向きであったものの、法人向けの携帯電話販売が好調で、全体的には上向きになっている（東京都）。
		ゴルフ場（従業員）	来客数の動き	・景気が良いとゴルフをする人も自然に多くなる。多様な集客により何とか維持しているが、景気の良さは感じない。平日は高齢者が多いが、10年前のプレーヤーは10歳年齢が上がり、ゴルフの回数が減ったり、できなくなる人も多い。減った分、新しい高齢者が同じようにゴルフをするかといえ、そうでもない。
		ゴルフ場（従業員）	来客数の動き	・5月は繁忙期にもかかわらず、10連休中はゴルフ以外のレジャーに目が向いていたためか、来場数は低調であった。連休後も前年同月比で低調傾向は変わらず、法人接待需要も落ち込んでいる。
		パチンコ店（経営者）	来客数の動き	・4月末、5月初めを挟んだ10連休中は結構なにげないを見せたものの、連休明けの落ち込み等により、後半はいつもどおりからやや下降気味に推移している。
		競輪場（職員）	お客様の様子	・客と話していても景気の悪い話しか出てこない。客入りは悪くないが、単価は落ちる一方である。
		美容室（経営者）	来客数の動き	・街中がだんだん静かになってきているような気がする。
		その他サービス〔福祉輸送〕（経営者）	来客数の動き	・株価の下落等があり、客の話の中に今後の景気を不安視する言葉が多く聞かれる。来客数も少しずつ減っている感じがする（東京都）。
		設計事務所（経営者）	お客様の様子	・民間の仕事量が少ないため、設計料が厳しい状況になっている。外注費用を抑えるため、労働時間は増加傾向にあるが、利益率は低いままである。
		設計事務所（所長）	競争相手の様子	・最近、競争相手の動向を見ていると、今までエントリーしなかった仕事にも視野を広げてきていて、非常に仕事がないということが表れている。
		住宅販売会社（従業員）	販売量の動き	・今月の販売量は、前月よりは回復したものの、目標数字には到達しなかった。3か月前に比べてもやや悪いため、景気はやや悪くなっている。ゴールデンウィークの10連休中に改元に伴うキャンペーン展開を行ったにもかかわらず、来場数が伸びず、商談数も低迷している。
		その他住宅〔住宅資材〕（営業）	販売量の動き	・全体的に目立つ案件が少なく、例年に満たない状況が続いている（東京都）。
	×	百貨店（店長）	販売量の動き	・4月は平均気温が低く、春物衣料が動かなかった。5月に入り、長いゴールデンウィークの支出優先順位において、百貨店は順位が低く、更に米中貿易摩擦や株価の低迷、消費税再増税など消費を取り巻く環境が非常に厳しいため、特にこれまで好調に推移していた衣料や化粧品を中心に、買い控えの影響が大きく出た月となっている。
	×	乗用車販売店（店長）	販売量の動き	・決算月が終了し、10月の消費税再増税があるのに、来客数や販売量の減少が目立っている。
	×	その他小売〔生鮮魚介卸売〕（営業）	販売量の動き	・ゴールデンウィークの10連休による余波がかなりある。使えるお金は決まっているので、娯楽費が優先されると、生活費が落ち込むのは致し方ないのかもしれない（東京都）。
	×	一般レストラン（経営者）	それ以外	・ビジネス街の飲食店なので、10連休は通常あるはずのランチ客が10日間来なかったようなもので、本当に困った。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
	×	設計事務所（経営者）	それ以外	・一般客の設計依頼の動きが全く途絶えてしまっている。当社は行政からの指名の仕事も約70%引き受けているが、指名件数が減り、また指名されても設計事務所間の競争が非常に厳しく、低価格で取得する仕事が多くなっている。全体的に仕事が減り、更に厳しくなった感じがする。
	×	住宅販売会社（経営者）	販売量の動き	・当社は不動産デベロッパー業と総合建設業だが、ここ2～3年住宅の売行きが非常に悪い。47年間この仕事をしているが、このように住宅が売れないことはなかった。政策が住宅取得に向いていないからではないだろうか。個人消費の中では住宅取得が一番大きく、経済波及効果もある。建設業では工事原価が非常に高く、公共工事では赤字になってしまうこともあり、入札不調になる工事がかなり出てきている。
企業動向関連 (南関東)		*	*	*
		出版・印刷・同関連産業（経営者）	それ以外	・同業他社との競合激化により、売上が減少傾向にある。
		出版・印刷・同関連産業（営業担当）	受注量や販売量の動き	・印鑑、ゴム印、名刺印刷の仕事をしており、店頭売りと外販とがある。リフォームといって印鑑を彫り直す注文をインターネットで全国的に受けているが、今月は通常月の2倍くらいの売上がある。印鑑リフォームは必要に迫られて作るものではなく、祖父母が使っていた形見の物を作り直すというものになるが、その注文客が多い（東京都）。
		広告代理店（従業員）	受注価格や販売価格の動き	・前年度までの同じ業務、イベント等で、当社の取扱額が増えてきている。
		税理士	取引先の様子	・超大型連休中は米中関係の悪化による株価の低迷や円安の懸念があり、静観の10日間であった。日給月給の労働者の収入は単純に減少し、景気に影響を与えている。米国大統領の訪日を受け、日米関係は悪化しておらず、景気に与える影響はない。米中関係の改善を期待している。
		食料品製造業（経営者）	受注価格や販売価格の動き	・5月1日だけは令和関連の商材がよく売れたが、ゴールデンウィーク後は客単価が下がっている。気温も高く、この先が心配である。
		出版・印刷・同関連産業（所長）	取引先の様子	・ゴールデンウィーク明けということもあり、動きが非常に鈍化していると感じる。次月のボーナス時期に向けた案件も少しずつ動き出しているが、今月は厳しい。
		プラスチック製品製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・いろいろ引き合いがあるが、実際に受注につながるものは少なく、動きとしてはまだ変わらない。
		プラスチック製品製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・中国の電子商取引法の改正により、突然止まった化粧品容器の受注に回復がみられず、非常に厳しい状況が続いている。
		建設業（経営者）	受注価格や販売価格の動き	・希望価格で物が売れない。
		建設業（経営者）	受注量や販売量の動き	・全体的には下向きのような気がする。計画案件が進みそうでなかなか進まない。
		輸送業（経営者）	受注量や販売量の動き	・新年度に入り、取扱量の増加を期待していたが、業務量は横ばいのまま推移しており、改善の兆しが見えない（東京都）。
		輸送業（経理担当）	それ以外	・前年と比べて収益が落ち込んだ状況が続いている。
		輸送業（総務担当）	取引先の様子	・運賃交渉を継続しているが、すぐに数値に出てくる状況ではない。
		金融業（統括）	取引先の様子	・受注関係は特段大きな差異はないが、マインド的に不透明な部分が出ているのは懸念材料である。
		不動産業（経営者）	競争相手の様子	・駅前ビル1階の輸入食料品店が今月で閉店となり、1階だけで3店舗が空いた。他の2店舗の空室期間はそろそろ1年で、ビルの営業に大きな痛手である。来月の総会で平成30年度の成果が発表されるが、心配である。同ビル北側の私鉄高架下にあった喫茶室とパスタ屋も閉店した。再開が完成し、既存の道路が閉鎖した影響だろうか。4月に報告した賃貸物件も空室のままのようである（東京都）。
		不動産業（従業員）	受注量や販売量の動き	・不動産取引は3か月前と比べて引き続き高水準である（東京都）。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		不動産業（総務担当）	取引先の様子	・今年に入って、当社所有の2棟のビルは満室で空かない状況が続いている。賃料も若干であるが上昇しており、変わらず好調である（東京都）。
		広告代理店（営業担当）	受注価格や販売価格の動き	・大きな新規取引先は増えていないが、会社としての売上は維持できている（東京都）。
		税理士	それ以外	・夜に近隣駅周辺を歩いて商店街等の飲食店を外からのぞくと、チェーン店には客が入っているが、それ以外の店は客が入っていない。代替わりしたり、潰れて違う店になっていたりもする（東京都）。
		社会保険労務士	取引先の様子	・返済不要の補助金や助成金を活用したいという会社が多く見受けられる。また、資金繰りが厳しい会社がある（東京都）。
		経営コンサルタント	取引先の様子	・客が価格に敏感になっているという話を聞いている。
		経営コンサルタント	取引先の様子	・機械加工、金属加工の中小企業では、受注が厳しい状態に変わりはない。自動車関係の下請企業は、親会社からの発注減予告で、大変厳しい環境に近づいている（東京都）。
		その他サービス業〔警備〕（経営者）	取引先の様子	・5月の連休後、公共事業が少し落ち着きを見せている。しばらくこのまま推移するとみている。
		出版・印刷・同関連産業（経営者）	受注量や販売量の動き	・例年より受注量が減っている（東京都）。
		出版・印刷・同関連産業（営業担当）	受注価格や販売価格の動き	・受注件数、金額共に前年2～4月の目標を達成し、6%ほど増加しているが、利益は目標に対して未達である。印刷用紙の仕入価格の値上がり分を販売価格に転嫁できないことが影響している（東京都）。
		化学工業（総務担当）	取引先の様子	・当社の受注自体は内需主体で特に変動はないが、取引先の話では、輸出、輸入共に低迷しているとの声強い。
		金属製品製造業（経営者）	取引先の様子	・同業者が少なくなっているというが、今までのような仕事は数が少なくなっているようである。大きい案件もなくなっている。
		一般機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・もともとやりきれないほど仕事があったが、追い付いてきている。
		その他製造業〔靴〕（経営者）	取引先の様子	・取引先の状況、注文の出し具合、あるいは材料屋の話から判断すると、切羽詰まっているわけではないが、余り良い状態ではない。
		建設業（経営者）	受注量や販売量の動き	・引き合いが少なくなっている。
		通信業（広報担当）	受注量や販売量の動き	・前年12月以来の前年同月比減少となっている（東京都）。
		金融業（支店長）	取引先の様子	・米中貿易問題の影響が出始めている。中国国内での消費に陰りが出ており、半導体に関する企業は慎重になっている。
		金融業（総務担当）	取引先の様子	・小売業では、10連休で消費した分、節約する傾向がみられ、また、食品関係の値上がりもあり、売上は減少傾向にある。ガソリン価格も高止まりしており、消費者や特に運送業に影響が出ている。建設関係は、賃貸物件の不正融資問題が大きく影響し、受注が減少している。また、融資に関しても慎重になる金融機関が増えてきており、売上も減少している。家電は5月に入ってからの気温の上昇を受けて、エアコンの販売が好調となっているところもある。全体的に景気はやや下向きと思われる（東京都）。
		金融業（役員）	取引先の様子	・飲食業、サービス業における倒産が増加傾向にある。また、不動産分譲事業においては、売却までの期間がやや長期化している。
		その他サービス業〔廃棄物処理〕（経営者）	受注量や販売量の動き	・日々の取引量としては変動はないが、例年になく大型連休の影響で取引先の工場稼働率が落ち込み、月単位での取引量は減少している。
		その他サービス業〔ビルメンテナンス〕（経営者）	受注量や販売量の動き	・新規物件の見積依頼件数が減っている。既存の契約単価の値上げ交渉が進展しない状況下で、人手不足の影響により人件費が上がっている（東京都）。
		その他サービス業〔映像制作〕（経営者）	受注量や販売量の動き	・図書館向けのDVDの発注が全くなかった（東京都）。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		その他サービス業〔ソフト開発〕（経営者）	取引先の様子	・予算が付かなくなり案件が減っている（東京都）。
		その他サービス業〔情報サービス〕（従業員）	受注量や販売量の動き	・前年度末と比較すると、受注量は低いままであり、前月からの伸びがない。
	×	出版・印刷・関連産業（経営者）	取引先の様子	・電話もFAXも少ない上に、こちらから連絡しても仕事になるような話がない。
	×	電気機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・大型連休があったこともあり、稼働日数が少ないためか、販売が振るわない。その上、業界が米中貿易競争の影響を少なからず受けているのではないかと思われる（東京都）。
	×	精密機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・前月比で20%減少している。自動車、建機関係部品にも陰りがみられる。
	×	輸送業（経営者）	受注量や販売量の動き	・受注が良くなる要素が見当たらない（東京都）。
雇用 関連 (南関東)		人材派遣会社（営業担当）	採用者数の動き	・前年度は派遣先での直接雇用となったスタッフが前期比で200%であった。属人化しているポジションによって、直接雇用化が進む傾向にある（東京都）。
		人材派遣会社（社員）	採用者数の動き	・もはや営業活動の必要はなく、次々に引き合いが入る状態が続いている。対応しきれない受注に対して、人材を出せなくなってきた（東京都）。
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	求人数の動き	・今月は倒産が6社、廃業が小さいところも含めて4社、新規が43社あり、そのうち大口が2社である。既存の大口ユーザーの3社ほどが減少したが、その分を補う形で少しアップしている。
		人材派遣会社（社員）	求職者数の動き	・大企業の早期退職者が増えている関係で、求職者が増えているが、求人数は変わっていない（東京都）。
		人材派遣会社（社員）	求人数の動き	・求人数は多く、人材不足の状況が続いている。慢性的な人材不足を背景に、採用条件を緩和する企業が増えてきている。
		人材派遣会社（社員）	それ以外	・会社への応募者の状況や周囲の消費動向に特に変化がみられない（東京都）。
		人材派遣会社（支店長）	それ以外	・採用難に合わせて派遣単価を上げてもらえる中小企業の成約件数は堅調に推移している。一方、単価の見直しが難しい大手企業は人選苦戦と、二極化してきている。人材依頼のボリュームゾーンは大手企業のため、悩ましい状態が続いている（東京都）。
		人材派遣会社（営業担当）	採用者数の動き	・今月の成約数は、前月とさほど変わらない数値になっているが、客からの求人数は減少傾向にある。また、求職者数が大幅に減っている（東京都）。
		求人情報誌製作会社（広報担当）	採用者数の動き	・採用人数は余り変わっていないので、景気が安定して良い状態が続いているのではないかと（東京都）。
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・新規求人数は5か月連続で前年同月比で減少しており、新規求職者の減少幅が縮小している。
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・新規求人数は1万9千～2万1千件で推移しており、余り大きな変動はない（東京都）。
		民間職業紹介機関（経営者）	採用者数の動き	・2021年向けのインターンシップイベントが開催され、学生が積極的に参加している。景気の先行きに少し不安を感じ取っているのかもしれない（東京都）。
		民間職業紹介機関（経営者）	求人数の動き	・売上、生産はプラスマイナス10%程度で比較的安定しているが、営業、経理などの領域では海外経験者の需要が高い。この傾向は多くの日系企業で同様である（東京都）。
		人材派遣会社（社員）	採用者数の動き	・新規採用者数と契約満了者数が逆転してしまっていることにより、長期派遣労働者数が年計ベースで前年比5%強の減少となっている（東京都）。
		人材派遣会社（営業担当）	周辺企業の様子	・エンジニアの派遣業界において、機械設計エンジニアのニーズが下降線を描いている。これが短期的な兆候かそれとも長期的な兆候かは現時点では計れず、若干警戒している（東京都）。
	民間職業紹介機関（職員）	求職者数の動き	・米中貿易摩擦の影響により、一部製造業で企業側の採用ニーズが見通せなくなっている。心理的影響が出ているのか、採用に慎重になっている可能性がある（東京都）。	

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
	x	-	-	-

5. 甲信越（地域別調査機関：株式会社日本経済研究所）

（-：回答が存在しない、*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連 (甲信越)		衣料品専門店（経営者）	お客様の様子	・夏物の準備が始まって、やや良くなっている。
		遊園地（職員）	来客数の動き	・ゴールデンウィーク10連休の影響や、各種イベント等の集客施策の実施などにより、3か月前との比較では来客数が増加している。
		一般小売店〔家電〕（経営者）	販売量の動き	・この時期に猛暑が続いたので、エアコン等の購入が早まってきている。
		スーパー（経営者）	それ以外	・今月26日時点で、前年比で売上は33%増、来客数は7%減である。何が原因か分からないが、1～5月の来客数は1～7%減と、2年前と比べても減少している。外販やケータリングは順調で、6月末までは非常に忙しい。店舗前面道路が開通して2か月经過し、多少はプラスだと思うが実感はない。近隣の酒屋が閉店したので、今後その仕事を引き継ぎ、売上は増加する。
		乗用車販売店（経営者）	販売量の動き	・新型車効果もあり、新車販売は増加傾向にある。
		スナック（経営者）	来客数の動き	・10連休の観光客の人出はすごかった。いつものゴールデンウィークの倍くらいは来客数があった。
		観光型ホテル（支配人）	来客数の動き	・インバウンドが好調で、日によっては宿泊客の8割以上が外国人旅行者という状況である。近隣空港への直行チャーター便にも助けられている。
		都市型ホテル（スタッフ）	単価の動き	・個人消費に関しては10連休がプラスに動いている。通常の連休等よりも、消費単価が大幅に伸びている。しかし、法人関係の利用は皆無に等しく、全体的な売上だけ見ると、大して変化はない。宿泊が大幅に伸長したことで、収支的にはプラスに推移している。連休後は反動減があり、全体的には連休のみ稼動した月となっている。
		ゴルフ場（経営者）	来客数の動き	・大型連休の影響で増益となっている。連休後の客足も減っていない。労働力の確保が課題である。
		商店街（代表者）	来客数の動き	・10連休だったため、客が当店にはほとんど来なかった。この連休は、小さな物販店は大変だったのではないか。
		商店街（代表者）	来客数の動き	・大型連休の人出は例年に多く多かったが、連休明けは反動が大きく、すっかり暇になってしまっている。
		一般小売店〔家電〕（経営者）	お客様の様子	・連休中から連休明けも、商材や業務発生の動きは共になく、静かである。中旬からの気温の変化で、エアコンの動きは良くなってはいるが、他の商材の動きは悪い。相変わらず、必要な物への消費のみという姿勢がみられる。
		スーパー（経営者）	来客数の動き	・10連休の貯金があるので、変わらない。その後も暑さで安定している。
		コンビニ（店長）	販売量の動き	・今月初めに大型連休があったが、その辺りも余り良くなかった。気温も前年並みに上がってきているが、今年は水物が極端に出るとかの傾向はないので、余り良くないというか、この2～3か月は変わらない。
		家電量販店（店長）	来客数の動き	・前月同様、来客数は年々減少傾向である。
		乗用車販売店（経営者）	販売量の動き	・連休中、仕事をしたくても各メーカーの部品供給がなく、連休後に忙しさだけが増した。車両販売、整備売上共に、横ばい状態である。
		都市型ホテル（支配人）	お客様の様子	・10連休が終わり、報道では景気はやや後退しているとされているが、周囲の様子を見る限り、今までと変化は感じられない。
	都市型ホテル（スタッフ）	販売量の動き	・5月1～6日までのゴールデンウィークは宿泊、レストラン共に、前年に比べ個人の動きが非常に好調だった。ただ、5月が終わってみれば、前年とほぼ変わらない。	
	ゴルフ場（経営者）	来客数の動き	・ゴールデンウィーク10連休は、安定した来場組数であった。予約状況は前年をクリアしているが、料金の高い土日の予約がもう一歩である。平日は年配者が多く、客単価上昇は難しい。	

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		その他サービス 〔葬祭業〕（経営者）	お客様の様子	・今月の葬儀依頼は少ない。
		設計事務所（経営者）	来客数の動き	・仕事の依頼量は多く、下請に出さないと間に合わない状況が続いている。
		住宅販売会社（経営者）	販売量の動き	・連休中は来客数が1割強増加したものの、別荘売買の動きは鈍く、低調である。
		商店街（代表者）	来客数の動き	・開店休業という言葉どおりの街なかの様子である。来客は、もともと当店に用事がある方が、当店にしかない物を求める方以外はない。衝動買いという言葉が懐かしい。
		コンビニ（エリア担当）	来客数の動き	・たばこを含めた商品価格の上昇により、売上は前年並みだが、来客数の伸長は乏しく、継続伸長は難しいと感じている。
		自動車備品販売店（経営者）	お客様の様子	・製造業勤務の客が平日に来店したので話を聞くと、「工場が稼働日数を減らし、正常化は未定」とのことである。夏のボーナスも、不安だと話している。
		一般レストラン（経営者）	お客様の様子	・毎年ゴールデンウィークには期待するものの、観光地へ客が流れてしまっている。
		一般レストラン（経営者）	販売量の動き	・10連休の反動がとて大きく、今月の売上は近年で最低で、4月よりも悪くなっている。
		旅行代理店（副支店長）	お客様の様子	・米国と中国の貿易悪化により、企業に影響が出始めている。先行き不安から企業旅行が延期や中止、規模縮小など、受注に陰りが出ている。海外出張なども減少しており、今後の受注への影響が懸念される。
	×	スーパー（経営者）	競争相手の様子	・競合各社の情報によると、売上低迷でチラシ広告の販促回数が増えている。価格も安値傾向にある。
	×	スナック（経営者）	来客数の動き	・どのような点に着目したかとの問いには、全てと回答したいと思った。とにかく景気の良い動向は1つも見当たらない。
	×	観光型旅館（経営者）	販売量の動き	・今年は10連休となったことで5月の売上増を期待していた。確かに、10連休は常に満室が続き、その間の売上は伸びたが、旅館の特性上、収容人員数には限界があり、大幅に売上を伸ばすことはできない。逆に、連休以降の落ち込みが激しく、結果として5月全体では大きく売上が落ちている。
	×	通信会社（経営者）	競争相手の様子	・他社の新規進出や営業強化等により、乗換えは引き続き増加しており、厳しい状況である。
	×	通信会社（営業担当）	お客様の様子	・4月下旬～5月上旬にかけて、当地は強い凍霜害に遭い、主要産業のりんご、梨、柿に30～80%の被害が発生している。世の中は10連休と浮かれていたが、果樹生産者は沈み切っている。
企業 動向 関連 (甲信越)		-	-	-
		建設業（経営者）	受注量や販売量の動き	・消費税増税の影響か、春に入ってから住宅リフォームの駆け込み件数が増えている。
		電気機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・客によって良しあしはあるが、安定しない。
		電気機械器具製造業（営業担当）	受注量や販売量の動き	・業種によっては、かなり落ち込んでいるとの情報もある。
		その他製造業 〔宝石・貴金属〕（経営者）	受注量や販売量の動き	・宝飾小売店を回ると、「大型連休中やその後は来店客が前年より大幅に減っている」とのことである。展示会は、相変わらず一部上得意の高額購入に助けられて、何とか目標に近い数字は確保できている。関西で行われた国際宝飾展では、中国からの客も前年並みの来場ながら、売上は若干減っている。
		金融業（経営企画担当）	取引先の様子	・米中貿易摩擦等の要因から世界景気が減速しており、工作機械を中心に需要が減少してきている。
		食料品製造業（製造担当）	それ以外	・原材料がなかなか取れず、価格が上がり始めている。
		食料品製造業（営業統括）	競争相手の様子	・大型連休で県内への来客数は増加したが、各ワイナリーでのワイン購入単価は下落傾向である。恐らくEUからの輸入ワイン関税引下げが影響しているのではないか。
		食料品製造業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・商品販売量が予定量、前年同期実績に届かない。
		金融業（調査担当）	取引先の様子	・米中貿易摩擦の影響が広がっており、製造業の景況感が悪化している。設備投資の見直しの動きもみられるようになってきている。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		新聞販売店〔広告〕（総務担当）	受注量や販売量の動き	・月初の大型連休向けの折込チラシは良かったが、その反動からか、連休後は例年以上に減少している。また、取引先からも「今月末に向けて通常の単価を一時下げるので、発注してくれないか」との問合せがある。
	x	*	*	*
雇用 関連		-	-	-
(甲信越)		-	-	-
		人材派遣会社（営業担当）	求人数の動き	・職業安定所の求人数が減っていても、相変わらず正社員募集の情報には殺到している。ただし、ブラック企業が多く、希望する会社に就職できないため、再度派遣会社に相談に来る方も多い。
		求人情報誌制作会社（経営者）	周辺企業の様子	・人手不足の状態は続いているものの、ここにきて製造業の景気が少し低迷気味である。求人募集広告を掲載する企業が少なくなってきた。
		職業安定所（職員）	周辺企業の様子	・有効求人倍率は前月より減少しているものの、企業の人手不足感は根強く、先日開催された学生を対象とした就職フェアには、過去最高を記録した前年度並みの、多くの企業が参加している。
		民間職業紹介機関（経営者）	求人数の動き	・求人は業種によって変化が大きくなりつつあるものの、全体としては、大きな変化がない。
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・3か月前と比べて求人数は少なくなっているが、季節的な要因も大きいと思われる。前年同月との比較では、有効求人倍率に大きな減少はみられない。
	x	-	-	-

6. 東海（地域別調査機関：三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社）

（-：回答が存在しない、*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連		-	-	-
(東海)		商店街（代表者）	来客数の動き	・今回は10連休という特殊要因で比較しにくい。商店街は連日大変なにぎわいで、売上は前年同期比130%であった。
		商店街（代表者）	お客様の様子	・東京オリンピックが近づいてきたお陰で、販売も良い感じがする。
		スーパー（販売担当）	来客数の動き	・いろいろなイベントで来客数が増え、販売量も増えた。
		コンビニ（エリア担当）	来客数の動き	・前月の前年比と比較して0.8%改善されている。要因は急激な気温上昇に伴い、冷し麺やソフトドリンクが伸長した。気温の要因以外では、スタンプラリーなどの企画で来客数が前月の前年比と比較して0.5%改善した。
		コンビニ（エリア担当）	来客数の動き	・5月としては、前年より大分気温が上がったので、来客数は伸びてきている。単価が変わらないか、むしろやや下がっている店が多いが、当店の売上は微増である。
		コンビニ（店員）	販売量の動き	・店内手作り弁当の売上が伸びてきたことと、急に暑くなり、アイスクリームやドリンクの販売量が増えたことが好調の要因と思われる。
		家電量販店（店員）	販売量の動き	・前月に続き前年に比べると販売量が多く売上に寄与している。この上期は、消費税の引上げ前ということもあって9月までは上昇傾向で売上は伸びると想定している。
		乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・今月に入ってから、受注が好調で、前年比を上回っている。車検証に令和元年の表記がされることに加えて、消費税増税の駆け込みが始まったようである。来客数も前年比を上回っていて、久しぶりのにぎわいを感じる。
		乗用車販売店（営業担当）	販売量の動き	・例年なら新年度の始まりは受注が落ち込むが、前年同月と比べ販売台数が増えている。
		観光型ホテル（経営者）	来客数の動き	・宿泊者数は4月辺りから前年を上回っていて、宿泊業は景気が後から来るといわれているので、若干良くなっている気がするが、昼食の実績をみ比べると前年比で80%前後と低迷しており、昼食は地元経済の反映でもあるので、余り良くなっていないと感じるので、どちらともいえない。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		都市型ホテル (総支配人)	来客数の動き	・客足が良くなっている。宿泊の売上は、ゴールデンウィークは10連休でよかったが、その後は前年割れで月間では前年並み、レストランも売上は前年並みである。
		その他レジャー施設 [鉄道会社] (職員)	来客数の動き	・観光列車や定期券の売上が上向いており、長期短期共に若干売上増が期待できる。
		美顔美容室 (経営者)	販売量の動き	・2点セット購入でのサービス品目的の客で、買上がアップした。
		商店街 (代表者)	販売量の動き	・今年は例年と違い、10連休というゴールデンウィークがあり、このゴールデンウィークの売上は、110%ぐらいに伸びた。ただし、それ以降の落ち込みが激しく、例年と変わらない。
		商店街 (代表者)	販売量の動き	・客単価が余り伸びてきていない。
		商店街 (代表者)	お客様の様子	・やはり客は安い物を求める。特に若い人はそうである。
		商店街 (代表者)	それ以外	・創業以来付き合い合ってきた老舗の仕入先が事業停止した。衝撃を受けたが、景気が全く回復していないことを強く実感した。
		商店街 (代表者)	お客様の様子	・前年の猛暑の影響が今年はエアコンの動きが早い。客が夏の猛暑に危機感を持ち、早めにエアコンを取り付けようとしているのではないかと見込まれる。
		一般小売店 [高級精肉] (常勤監査役)	販売量の動き	・景況感に変化はない。
		一般小売店 [薬局] (経営者)	来客数の動き	・入店しているテナントビルは駅前開発で6月に取壊しになるため、現在閉店セールを行っている。一部のテナントは既に退店し、バーゲンセールも始まっているのでお買得品を買おうと多少来客数は増えているが、他の店長と話をしても前と比べて間違いなく客足は落ちているという。
		一般小売店 [生花] (経営者)	単価の動き	・連休中の来客数は少なかったが母の日の売上は前年比で約15%伸びた。単価の低い物がよく売れたが、高価なプレゼントより安価な花を選んだのかもしれない。ギフトの単価は確実に落ちている。
		一般小売店 [贈答品] (経営者)	お客様の様子	・5月は、新しい元号になって気持ちは上を向いているが、残念ながら財布のひもは固い。個人客は、特に財布のひもが固い。法人客は、新年度になって予算が付いたので、贈答品、記念品等の販売の動きは大きくなっている。したがって、個人客は厳しく、法人客の営業性は良く、2つを足すと変わらない状況である。
		一般小売店 [書店] (営業担当)	販売量の動き	・新年度の受注量が一旦落ち着き平常期に入った。
		百貨店 (経理担当)	販売量の動き	・ゴールデンウィークの10連休については天候が良かったこともあり、買物よりもレジャーへの消費が多かった。10連休後も余り購買意欲が見受けられない。
		百貨店 (経理担当)	販売量の動き	・ゴールデンウィークの10連休でマイナスの影響を懸念していたが、結果的には前年並みで落ち着いた。
		百貨店 (経理担当)	お客様の様子	・消費には勢いを保っている訪日外国人旅行者の支えがあるものの、全体としては3か月前と変わらず低調に推移している。
		百貨店 (販売担当)	販売量の動き	・大型連休後は来客数も減り、購入率も低下した。後半になるとボーナス、消費税増税前の下見が増えたが購買意欲は伸び悩んだ。インバウンドは中旬から増加し好調に推移している。
		百貨店 (計画担当)	お客様の様子	・引き続き、富裕層の買上状況やインバウンド需要が底堅い。
		スーパー (経営者)	お客様の様子	・5月は今までにない長期の休みが続き、国内外で旅行に行く人が増えた。大きな出費となり、生活費は縮小気味になっている。週2~3回の食料品等の買物をできるだけ安値のスーパーで済ませ出費を抑えている。節約志向はますます強まり、お買得商品を安く購入している。
		スーパー (店長)	単価の動き	・10連休のゴールデンウィーク明けということもあり、金を使わない傾向がうかがえる。安物買いが増え、ぜいたく品の購買率は下がっている。客単価もダウンしている。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		スーパー（販売担当）	それ以外	・売場のレイアウトを変更してスッキリした。その効果もあってか、売上の前年比100%超えは続いている。
		スーパー（商品管理担当）	販売量の動き	・商品量の変動もなく推移している。
		スーパー（商品開発担当）	販売量の動き	・販売量は、3か月前も前年比100%を達成しているが、予算に対しては数値を割り続けている。実感としてさほど景気が良くなっているようには感じない。
		スーパー（経営企画担当）	販売量の動き	・上旬までは売上が芳しくなかったが、中旬以降は青果で企画したイベントが好調だった。
		コンビニ（企画担当）	販売量の動き	・初の10連休により、例年に比べ通勤客が減少する駅ナカ店舗は大きく減少すると思われたが、想定ほどの影響はなかった。
		コンビニ（エリア担当）	来客数の動き	・たばこやチケットなどのサービス品で客単価は上がっているが、来客数が増えてこない。
		コンビニ（本部管理担当）	来客数の動き	・5月の売上は前年比102%と好調で、景気は良くなっていると判断したくなるが、単純に今月初めのゴールデンウィーク10連休が前年比を押し上げている結果である。6月もこの状況が継続するならば、景気判断は本格的に上向きと判断できる。
		衣料品専門店（経営者）	来客数の動き	・連休中は来店客が少なく散々だった。前年はイベントで客を呼び込んだので、それに伴い店頭売りもできていた。今は、きっかけを作らなければ、客もなかなか来店しないご時世なので、会話の中からきっかけを作って電話で呼び込みをしている。商売を何十年もしているので、電話にご主人が出てもガチャンと切られず、会話ができるだけでも有り難いと思っている。
		衣料品専門店（売場担当）	お客様の様子	・客の購買に対する意欲が感じられない。
		家電量販店（店員）	販売量の動き	・余り旺盛な購買意欲を感じない。テレビの売上が良くないが、エアコンは売れている。トータルでは余り変わらない。
		乗用車販売店（経営者）	お客様の様子	・大型連休や改元などイベントはあったが、車の整備に関しては特に関係なく、いつもどおりであった。
		乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・新型車が発表になり、新型車はそれなりには売れているが、既販の車種の販売台数が伸び悩んでおり、全体的には前年並みの台数で推移している。
		乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・今月初めの長期連休のためか、客の反応はいつもに比べてメリハリが弱く感じられる。新型車両の発表があったが、自分の客は購買層に当たらないようで、購買意欲をかき立てられるような反応はなく、連休で金を使ったという話題ばかりだった。
		乗用車販売店（従業員）	お客様の様子	・どちらかというとも景気は良くないと思うが、やはり東京オリンピックの効果で盛り上がりつつあり、改元で少し良い方向に向かっている。ただし、最近また変な事件や事故が増えているので、これで再び行ったり来たりで、分からない状況だと思う。
		乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・販売台数は余り伸びていないが、問合せはまあまああり、判断が難しいところである。悪いとも良いともいえない感じである。
		乗用車販売店（販売担当）	販売量の動き	・新規客は大分減少気味である。また、来店しても成約につながる率がかかなり低い。
		住関連専門店（営業担当）	お客様の様子	・新築のマンション、一戸建て住宅共に伸び悩んでいる。民間の設備工事及び企業関係の設備投資やビルについても、現状維持が多い。ただし、リフォーム工事、耐震工事に伴う改修工事等は増えている。
		その他専門店【書籍】（店員）	来客数の動き	・今年は改元があって10連休の企業も多く、想像以上に来客数が減少しており、前年よりも悪い状態が続いている。
		一般レストラン（経営者）	販売量の動き	・連休明けから、例年に比べ販売量は少ない。
		一般レストラン（従業員）	来客数の動き	・ゴールデンウィークが明けて、動きが落ち着いてしまった。
		その他飲食【仕出し】（経営者）	単価の動き	・業界によって捉え方は違うと思うが、ゴールデンウィークの賛否の分析は必要である。米中貿易摩擦の影響への疑心暗鬼など、良いのか悪いのか、様々な要素が重なりすぎている。
		その他飲食【ワイン輸入】（経営企画担当）	販売量の動き	・イベント時の販売量は前年を上回っており、消費者の購買意欲は高い。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		観光型ホテル (支配人)	来客数の動き	・3か月前と同様に、一般宴会においては前年に受注した一見物の大型宴会に代わるものが今年も受注でき、何とか前年並みになっている。全社では若干のプラスになった要因は、前年に比べて婚礼がすこぶる良いためである。
		旅行代理店(経営者)	単価の動き	・大型連休も終わり、夏以降の旅行の受付をしていると漠然と感じることは、予算がかなり前年よりも絞られているということだ。Webサイトの影響かもしれない。あらかじめ最安値価格を調べてから相談にくる傾向がある。
		旅行代理店(経営者)	販売量の動き	・4～5月中旬まで、受注も好調で今年度のある程度の売上もめどが立ったが、5月中旬以降はやや販売量が低迷している。
		旅行代理店(営業担当)	それ以外	・団体旅行の受注量は例年並みで、秋口の団体旅行の問合せが増えてくる時期であるが、宿泊施設の手配についても例年並みの確保のしづらさとなっている。特に都市部では、外国人観光客の先約が多いことが原因のようで、民泊の規制緩和等を早急に推進する必要がある。
		旅行代理店(営業担当)	お客様の様子	・大型連休に旅行需要が集中したせい、今月は旅行申込みが減っている。結局、旅行計画がゴールデンウィークになっただけで、全体数には増加はみられない。天候、気候が不順な時期になり、店に向く客の足も鈍化していく傾向があり、先行きは不安である。
		タクシー運転手	来客数の動き	・少なくともここ2～3年は、繁華街、飲み屋街の出入りが少なく、変わらない。ほとんど動きがないような感じである。
		タクシー運転手	お客様の様子	・10連休があったため、特に会社関係や病院などが休みということで、夜の仕事や通院の客が少なかった。連休の前半はまだ良かったが、特に後半は相当売上も落ちた。連休後もやはりいるいる出費した影響もあって、売上が伸びなかった。
		通信会社(企画担当)	販売量の動き	・新規契約数、解約数共に減少してきており、動きが鈍っている。当地域特有の自動車会社の不正問題の影響であろうか。
		通信会社(営業担当)	お客様の様子	・通信費でさえ削ろうとして、回線を廃止する客が増えてきている。
		観光名所(案内係)	お客様の様子	・ゴールデンウィークの前半は天候が悪かったせいかもしれないが、富士山の中腹、5合目では相変わらず客が非常に少なかった。
		美容室(経営者)	お客様の様子	・客にゴールデンウィークの過ごし方などを聞いていると、出掛けた人が少なく、余りに金が掛かるので出掛けなかったという人が多かった。
		美容室(経営者)	来客数の動き	・2月頃は寒すぎ、今月初めは暑すぎたので、どちらも客足が悪く変わらない。
		住宅販売会社(従業員)	来客数の動き	・10連休があったが、長すぎるほどの休みで旅行に行ったのか、前年に比べて来場数が伸びなかった。その分のしわ寄せが6～7月に影響すると思われる。
		住宅販売会社(従業員)	販売量の動き	・消費税の引上げを控えて、余り変化は感じられない。
		その他住宅[不動産賃貸及び売買](営業)	販売量の動き	・3か月前に比べると、やはり入居数はかなり減ったが、代わりに退去数が少なかったので平均並みに抑えられた。長期休暇のダメージは最小限だった。
		百貨店(売場主任)	お客様の様子	・今年はゴールデンウィークが長かったので、どこかに行く人が多いかと思ったのだが、結構来客数はあった。ただし、食事に来るぐらいで買物をする雰囲気ではなかった。連休が明けると、ずらして休みをとっている男性客の1人歩きが多かったが購買力はなく、ただ時間潰しにぶらぶら見ているという形で売上は結構厳しい。自社カードのキャンペーンをやっても、そんなに売れる雰囲気ではなく、また、キャンペーンを知っていても、別に買わなくてもいいという客も多いので、今月は売上が厳しい。
		百貨店(総務担当)	お客様の様子	・10連休により、消費ではなくレジャーや旅行に金が回ったようであり、売上は前年を割る状況である。また、10連休中は航空運賃や宿泊費が高騰し、外国人もその期間中は来日を控えたようで、免税品の売上が失速したことも、売上不調の原因である。
		百貨店(業績管理担当)	販売量の動き	・前年は競合店が改装で店舗閉鎖していたので、今年はその反動で売上が大きく減少し、苦戦している。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		スーパー（店員）	単価の動き	・乳製品などの値上がりの影響が大きい。和菓子類なども価格を変えたら売上が減少した。
		スーパー（総務担当）	販売量の動き	・来客数は変化がないが、商品の値上げなどで、売上が良くなかった。
		スーパー（ブロック長）	お客様の様子	・月初めには改元記念商品、10連休中は行楽商品、バーベキュー材料などが好調に売れたが、懸念していたおりに連休明けから一気に消費は落ち込んだように感じる。
		スーパー（営業企画）	単価の動き	・来客数は変化ないが、買上点数、1品単価共に低下してきており、嗜好品の買い控えや日用品の低価格志向など、保守的な消費傾向がみられる。
		コンビニ（エリア担当）	販売量の動き	・ゴールデンウィークは10連休ということもあり、鉄道利用客などがかなり増え、著しい伸びを示したが、連休明けは、来客数、販売数共に大幅に落ち込んでいる。また、月末に向かって、来客数、販売数は戻ってきていないため、トータルではマイナスという結果になると考えられる。
		コンビニ（店長）	来客数の動き	・連休明けから、特に中旬から後半になるほど、来客数が減少していった。
		衣料品専門店（販売企画担当）	競争相手の様子	・同業他社では、5月の売上は例年の40%ダウンと急激なマイナスになっている。当社も、5月の売上は20%ぐらい下がっている。
		家電量販店（フランチャイズ経営者）	来客数の動き	・ゴールデンウィーク明けでも来客数が回復せず前年割れである。例年よりエアコンの動きが良く、客単価は上がっているが、来客数と相殺され売上は前年並みである。
		乗用車販売店（経営者）	お客様の様子	・個人事業主を中心に、仕事量が減っているという話を耳にする機会が増えている。
		乗用車販売店（経営者）	販売量の動き	・5月の長期休暇前後は厳しい状況となった。どちらかといえば郊外に出掛ける人が多く、販売店に来店する動機も作れず、苦戦した。
		乗用車販売店（営業担当）	販売量の動き	・10連休の影響かは分からないが、連休明けから客足が伸びず、それに伴って販売量も上がらない。
		その他小売【ショッピングセンター】（経理担当）	販売量の動き	・従来、売上高や来客数の前年比の数値は、プラスマイナスが交互に表れ半々程度だったが、マイナスが90%以上を占めるようになった。
		高級レストラン（経営企画）	来客数の動き	・ゴールデンウィークは、10連休になった分利用日は分散したが、前年より多くの来客数があった。しかし、連休明けからは特に平日の動きが悪い。
		一般レストラン（経営者）	来客数の動き	・来客数が減っている。
		都市型ホテル（経営者）	販売量の動き	・米中の貿易摩擦は大きな課題である。
		タクシー運転手	来客数の動き	・地方のタクシーなので高齢者の客が少なくなっている。
		通信会社（サービス担当）	販売量の動き	・新規申込みの数と同じくらい解約の申込みがある。
		通信会社（営業担当）	販売量の動き	・販売量が少ない。
		テーマパーク（職員）	来客数の動き	・平日の客の動きが鈍い。
		テーマパーク（職員）	お客様の様子	・5月の連休後、急激に減少している。
		ゴルフ場（支配人）	来客数の動き	・今月の入場者数は現時点で前年より少し悪い。売上に関しても前年より悪くなっている。前年の5月は特に良かったわけでもないで、景気はやや悪いと判断する。また、3か月前は好調に推移していたので、景気は悪くなっていると感じる。
		パチンコ店（経営者）	販売量の動き	・来客数や単価の動きがやや悪くなっている。
		理美容室（経営者）	来客数の動き	・今は段々と暖かくなってきて客が増える時期だが、客が余り来ない。
		設計事務所（職員）	お客様の様子	・打合せや相談の場では景気の悪い話は聞かない。
		住宅販売会社（従業員）	お客様の様子	・客の様子から、リフォーム等でも一段落してしまった感がある。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		その他住宅〔住宅管理〕（経営者）	お客様の様子	・賃貸マンションのリフォームが増えているが、オーナーに聞くとリフォームしても次がなかなか決まらないとのことである。リフォームも壁紙と床の補修など最低限しか発注がない。仕事が増えても利益につながらない。
	×	一般小売店〔結納品〕（経営者）	販売量の動き	・今月は最初が10連休だったため、小売は全然売れなかった。
	×	一般小売店〔酒類〕（経営者）	お客様の様子	・取引先の飲食店からは、閉店の相談が続いて出ている。
	×	一般レストラン（経営者）	来客数の動き	・10連休という大型連休があり、全く街の中は静かになってしまい、経済活動がストップしたような感じである。一部の地域では良いかもしれないが、消費マインドについては非常に影響が大きく、ほとんど活気のない街の状態だった。
	×	一般レストラン（経営者）	来客数の動き	・ゴールデンウィークの長期連休が影響している。
	×	理容室（経営者）	お客様の様子	・連休の後は客の来店サイクルが長く、余分な金は出さない。
	×	設計事務所（経営者）	来客数の動き	・ほとんど案件がない。
企業動向関連 (東海)		-	-	-
		通信業（法人営業担当）	受注量や販売量の動き	・行政、民間共、引き合い、問合せや見積依頼が増えた月だった。消費税の引上げを前に、株主総会を終えて次年度事業を見越した投資を検討する客もあった。
		金融業（従業員）	取引先の様子	・周りの自動車産業、自動車部品産業では比較的生産も落ち着いていて、平年並みという印象だが、特に建築等に関連する業種は今かなり忙しらしく、広範囲にわたってとても景気の良い状況になっている。
		食料品製造業（営業担当）	受注量や販売量の動き	・受注量から例年並みで横ばいとなっている。
		食料品製造業（経営企画担当）	受注量や販売量の動き	・昨夏以来、販売が芳しくない状況が続いている。原料価格も高値で推移し、非常に厳しい経営環境になっている。
		パルプ・紙・紙加工品製造業（顧問）	受注量や販売量の動き	・受注量、販売量共最近は横ばいが続き、このままの状況で進み、景気は余り変わらない。
		化学工業（総務秘書）	それ以外	・景況判断としては横ばいという指摘があるものの、良好な決算情報や内定を競う新卒採用の状況から、良好な景気が継続している印象を受ける。
		窯業・土石製品製造業（社員）	受注量や販売量の動き	・特に受注が好調な製品はないが、全体的に受注が堅調で、毎週2～3日の残業をしている状況である。
		金属製品製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・販売量は減少しており、引き続き良くない状況が続いている。
		金属製品製造業（従業員）	受注量や販売量の動き	・案件の引き合いは引き続き多く、工場の繁忙状況はしばらく続くとみられる。
		電気機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・ここ3か月間の売上はプラスマイナス数%程度で、ほぼ横ばい状態である。
		輸送用機械器具製造業（品質管理担当）	取引先の様子	・ゴールデンウィークまでは、いろいろな企業でそこそこ景気の良い感じがしたが、その後は余り大した動きもなかった。
		輸送業（経営者）	受注価格や販売価格の動き	・4月の年度替わりから値上げした客もあり、収入は増えているが、外注費、人件費の増加で帳消しになっている。
		輸送業（エリア担当）	受注量や販売量の動き	・東京オリンピックまでは、受注量は変わらないと思われる。
		輸送業（エリア担当）	受注量や販売量の動き	・10連休があったが、休みに入る2週間ほど前から荷物の量がふくそうだった。年末の繁忙期ぐらいの荷物の量が毎日2週間ぐらい続いたが、10連休が終わった後はぱたっと荷物の量が減った。5月を通じてはそういう状況になったので、景気が上向いている様子はうかがえない。
		通信業（総務担当）	それ以外	・5月は大型連休の影響で、個人消費については、自分も含めて宿泊旅行による車の移動や宿泊先での出費等、消費は増えている。しかし、企業側では稼働日数が減り、生産仕掛りの積上げがなく、短期の数字としては停滞する。
		通信業（法人営業担当）	それ以外	・消費の動きや雇用情勢はおおむね横ばいであり、急激な変動は感じられない。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		金融業（企画担当）	取引先の様子	・為替が大きく動いていない。株価も上昇基調にないことから、個人投資家は様子見で動きづらい状況である。個人投資家ではない個人も、給料が上がっている実感がないことから消費には向かいづらい状況である。
		不動産業（経営者）	それ以外	・例年同様に晴天の日が多いこともあり好調に推移し、売上は前年同期を上回っている。駐輪場は低額で利用できることもあり、必要な出費を惜しむほど景気は悪くない。
		公認会計士	それ以外	・会計事務所への客の収益性が低下している。中堅中小企業の従業員の給与は上昇していない。中堅中小企業では廃業等が発生している。
		会計事務所（職員）	取引先の様子	・大型連休の特需を受けて一部の飲食店などは前半は好調であったが、後半は不調が続いている。製造業は、後半は活発になるはずが伸び悩んでいる。
		その他非製造業〔ソフト開発〕（経営者）	取引先の様子	・ゴールデンウィーク明けは、全体的に停滞気味である。生産量や受注も活発ではなかった。競合先においても少し減少気味とのことである。商品の展示会は盛況であった。
		化学工業（営業担当）	受注量や販売量の動き	・中国向け電材需要が悪く、プラスチック容器の出荷量も減っている。
		電気機械器具製造業（営業担当）	それ以外	・費用が一時的に増加している。
		電気機械器具製造業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・通信インフラ関係の機器を製造販売しており、通信速度の向上や新4K・8K衛星放送への対応のため、これらへの設備機器、工事の売上は順調であるが、ここにきてピークを迎えつつある。生産高はこれまでは右肩上がりであったが、その後横ばいになりつつある。
		輸送用機械器具製造業（総務経理担当）	受注量や販売量の動き	・先週中国の出資先へ行ったら、中国の自動車産業では週に3日程度しか働いていない事業所が最近出てきていると聞いた。
		輸送業（エリア担当）	受注量や販売量の動き	・米中の貿易問題のやりとりが影響してきた。
		輸送業（役員）	受注量や販売量の動き	・前年同月に比べ輸送物量が落ちている。大型連休後は反動で一時的に輸送物量が増加したが、その後は前年をやや下回る状況である。
		不動産業（経営者）	取引先の様子	・引き合いはあるものの契約には至らない。
		広告代理店（制作担当）	取引先の様子	・相変わらず広告予算に対する価格競争が厳しいため、売上の的にも微減である。
		新聞販売店〔広告〕（店主）	受注量や販売量の動き	・10連休でいつもより新聞の休みが増えた。折込チラシもゴールデンウィーク期間は増えたが、その分その他の日は少なくなり、例年より少ない状況である。
		行政書士	受注量や販売量の動き	・4月までは良かったが、5月から暇だという業者の声をよく聞く。
		会計事務所（職員）	それ以外	・仕事で車を走らせていると、広告主募集中の白地看板をよく目にするようになった。宣伝効果の少ないような看板を解約しているのだろうか。売上の増加を見込めない分、固定費を減らす方向に向いているように見受けられる。
		その他サービス業〔ソフト開発〕（社員）	それ以外	・中途採用への応募者がいづつ増えている。前年の倍以上発生している。
	×	鉄鋼業（経営者）	受注量や販売量の動き	・受注量、販売量共に前年比5%ほどダウンしている。
	×	一般機械器具製造業（営業担当）	受注量や販売量の動き	・北米の自動車向け設備投資の引き合い案件は、ほぼ全て延期が凍結となってしまった。
	×	電気機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・客先の業界が、全体的に設備投資を減らしている様子見の状態、季節的にも余り関連部品が出ないため、当社の製品も今は出荷が少ない状況である。
雇用 関連 (東海)		-	-	-
		-	-	-
		人材派遣業（営業担当）	雇用形態の様子	・外国人雇用が増加しているものの、生産性向上や定着率にはまだ成果が出ていない。
	人材派遣会社（企画統括）	採用者数の動き	・中小企業の求人案件がなかなか採用に至らず、継続案件として残っているケースが多い。	

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		人材派遣会社（営業担当）	採用者数の動き	・求人、求職件数共に横ばいである。採用を抑制する企業が増える一方で、人材不足により新たに採用する企業も増加傾向にある。
		職業安定所（所長）	求人数の動き	・新規求人数が前年同月比で2割ほど増加している。
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・人手不足感から窓口に来所する事業所が増え、求職者への自社求人の送付が増加している。同じ職種でも採用条件の良い都市部へ人が流れている。反面、求職者の中には現状の収入を維持できれば休日を優先して考える傾向が出てきているため、転職が少ない可能性もある。
		職業安定所（次長）	求人数の動き	・有効求人倍率は依然高水準で推移しており、企業の手不足感が強い。
		民間職業紹介機関（支社長）	求人数の動き	・有料職業紹介は期間工のメインチャネルではないが、自動車業界の製造職では期間工の求人発注が減少している。
		人材派遣会社（経営企画）	周辺企業の様子	・米中貿易摩擦の影響を含め、やや需要面の弱まりを感じさせる話がちらほら聞かれる。
		人材派遣会社（社員）	求人数の動き	・ゴールデンウィークは超大型連休のため悪く、連休明けは例年並みであった。
		人材派遣会社（営業担当）	周辺企業の様子	・客先の製造業では5月から19年入社の新卒エンジニアの配属が始まっているが、前年に比べて配属ペースが鈍くなっている。また、新卒エンジニア向けの引き合い数も少なく、やや景気が悪くなってきていると感じる。
		人材派遣会社（営業担当）	求人数の動き	・正社員の求人数が減少傾向にある。
		求人情報製作会社（営業）	周辺企業の様子	・中国経済の減速から、自動車メーカー他、中国進出企業の国内生産が落ち込み、雇用が停滞している。自動車メーカーは裾野も広く、関連部品メーカーや製造派遣等の雇用にも影響しており、求人数が停滞している。
		新聞社〔求人広告〕（営業担当）	採用者数の動き	・発注が落ち、採用を抑える企業が出ている。
		職業安定所（所長）	採用者数の動き	・新規求職者は引き続き減少傾向にあるが、4月以降は新規求人数も減少しており、これに伴い就職件数も減少傾向にある。
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・新規求人数が9か月連続で前年同月を下回り、弱い動きが続いている。
		職業安定所（次長）	求人数の動き	・製造業を中心に、求人の動きが鈍くなっている。
		民間職業紹介機関（営業担当）	採用者数の動き	・米中貿易摩擦などの絡みか、製造業の客において採用基準の高まりや採用停止の動きが少しずつ色濃くなっている印象を受ける。
	×	新聞社〔求人広告〕（営業担当）	周辺企業の様子	・今まで新聞の求人広告をセールスしてくれていた会社が、ネットに力を入れたり、紹介業を始めたりと、新聞広告に力を入れなくなった。

7. 北陸（地域別調査機関：一般財団法人北陸経済研究所）

（-：回答が存在しない、*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計動向 関連 (北陸)		一般レストラン（統括）	来客数の動き	・ゴールデンウィークの大型10連休があったことにより、消費マインドが向上し、外食頻度も増えている。
		百貨店（営業担当）	来客数の動き	・8月の閉店を発表後、来客数が増加している。会員の積立商品券の使用が急激に増えている。
		コンビニ（エリア担当）	来客数の動き	・好天と気温上昇が続いており、人の動きが活発である。
		コンビニ（店舗管理）	来客数の動き	・未曾有の大型連休と改元のお祝いムードで、消費活動も活発であった。前年の来客数を大幅に上回る。
		衣料品専門店（店舗運営）	販売量の動き	・新商品の入荷が続く、購買点数が前年同月比で10%アップしている。
		家電量販店（店長）	販売量の動き	・消費税の引上げ前にて、エアコンの販売量が前年比120%を超えている。
		乗用車販売店（従業員）	来客数の動き	・新型車の発売や独自イベントなどで、特に週末の来客数が増えてきている。
		乗用車販売店（経理担当）	販売量の動き	・5月の販売量は前年同月比130%の見込みである。3か月前の販売量は前年同月比103%で、上向きである。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		住関連専門店（役員）	販売量の動き	・大型連休の影響もあり、来客数と共に売上金額も伸びている。
		旅行代理店（所長）	販売量の動き	・連休も終わり一段落の様子である。東京オリンピックのチケット予約が始まり、今後に期待している。
		タクシー運転手	来客数の動き	・ゴールデンウィークは過去最高の観光客数であり、観光地はどこも最高の人出で、タクシーは忙しかった。連休後一時は落ち込んだが、週末を中心に好調で、全体として良い。
		通信会社（営業担当）	来客数の動き	・来月からの新料金プラン発表に伴う、プラン見直しの客がかなり増えている。また、プランの見直しから機種変更の客も増えており、販売増につながっている。
		通信会社（役員）	販売量の動き	・通信、放送サービス共に契約数が前年同期比を上回っており、好調である。特に新規契約が増えている。
		住宅販売会社（従業員）	来客数の動き	・住宅展示会の来場者数の増加がみられる。
		商店街（代表者）	お客様の様子	・帰省客や旅行者等で、5月の大型連休の商店街への来客数はほどほど増加しているようだが、近隣の駐車場利用は少なかった。アーケード街の来訪者も飲食店利用が多く、衣料関係は品ぞろえの面から、大手デパートやショッピングセンターへの集客が顕著な様子である。
		商店街（代表者）	販売量の動き	・ゴールデンウィークが10連休ということで来客数も多く、また、ゴールデンウィーク明けは外国人観光客が多い。
		一般小売店〔書籍〕（従業員）	販売量の動き	・買い控えの傾向がみられ、購買点数が少ない状態が続いている。
		百貨店（売場主任）	来客数の動き	・初の10連休となったゴールデンウィークは期待したほどの集客にはつながらず、1～6日までの6日間の前年同日比では前年を僅かに上回る程度で推移した。月全体では店頭はほぼ前年並みで推移したが、外商関連は大型催事の開催が6月以降にスライドしたため前年を下回る見込みである。
		百貨店（販売促進担当）	販売量の動き	・改元によるお祝いムードのなか、ゴールデンウィークの10連休は帰省客を中心に連日にぎわいをみせた。気温上昇に伴い、初夏物ファッション商材の動きは順調であるが、その他商材は前半の反動で苦戦している。
		百貨店（営業企画）	お客様の様子	・10連休があり観光客の増加で来客数は前年より増加したが、それ以外の客の来店が少ないためか主力のファッションアイテムの売上が伸び悩んでいる。
		スーパー（店長）	競争相手の様子	・競合他社のチラシ販促の本数が増えており、ポイント付与などの販促内容も強化の様子がみられる。
		スーパー（店長）	来客数の動き	・3か月前と比較すると、大きな来客数の増加はみられないが、前年と比較すると伸びている。
		スーパー（総務担当）	販売量の動き	・5月上旬の連休中は改元もあり来客数も増加していたが、その後は減少し、さらに、買上点数が減少した。10連休中に行楽のため出費が増え、家計を引き締めているようである。
		スーパー（総務担当）	販売量の動き	・5月は10連休があり、多くの人が休日となり多少売上増となったものの、全体としての販売量は前年並みで推移している。状況は変わらない。
		スーパー（店舗管理）	販売量の動き	・販促強化によって来客数は前年並みである。1品単価の上昇もあり売上は前年並みに推移しているものの、件数が上がってこないため、景気が良くなっているとはみていない。
		スーパー（統括）	販売量の動き	・取引点数の伸び悩みが継続している。
		コンビニ（経営者）	販売量の動き	・季節商材も例年並みである。
		衣料品専門店（経営者）	お客様の様子	・大型連休後半は天候が不順なこともあり、結果としてトータル売上のアップにはつながらず、人件費だけが増加している。
		自動車備品販売店（役員）	お客様の様子	・大型連休は例年どおり休み前の需要が多かったが、連休に入ると集客、売上共に前年からダウンした。業種によって違っだろうが、余りにも長い連休は従業員の負担が大きい。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		その他専門店 〔酒〕（経営者）	販売量の動き	・ゴールデンウィークの最中も余り良くなかったし、ゴールデンウィークが明けても余り良くない。いつものように暇である。
		その他小売 〔ショッピングセンター〕（統括）	来客数の動き	・改元に伴う10連休により休日数が増えたため、前年比を超える来客数で推移している。数値として悪くはないが、長期連休による来店分散及び、店舗入替えによる休業期間が発生している区画もあるため、曜日まわりどおりの伸びには至っていない状況である。
		観光型旅館（経営者）	来客数の動き	・10連休の後も、令和記念と銘打った団体旅行の集客が好調で、インバウンド客と合わせて順調に集客できている。
		通信会社（役員）	販売量の動き	・5月は10連休があり、契約獲得に向けた営業活動の日数に制約があったが、獲得件数に大きな増減はなく、例月並みの実績となっている。
		テーマパーク（役員）	来客数の動き	・5月は前年同月比でも、10連休効果もあり、期間中は大変来客数が伸びた。逆に連休明けは土日も含めて客の動きが大変鈍くなり、通算してみると前年並みに推移しているようである。
		その他レジャー施設 〔スポーツクラブ〕（総支配人）	来客数の動き	・子供から高齢者を含む大人まで、通常会員の入会が非常に少ない。
		美容室（経営者）	来客数の動き	・5月よりカット料金を15年ぶりに500円値上げしたが、今のところ客は受け入れているようである。
		住宅販売会社（従業員）	販売量の動き	・一戸建て住宅の需要は落ち着いてきたが、リフォーム需要については消費税の引上げ前に終わらせたいと思うユーザーが動いている。もうしばらく忙しい状況が続くようである。
		住宅販売会社（従業員）	販売量の動き	・個人消費の強さはないが、消費税の引上げの影響での受注が多い。
		商店街（代表者）	来客数の動き	・10連休のゴールデンウィークということで期待していたが、前半は人出もまばらで、後半に少しにぎわいを感じたが、期待以上の売上は見込めなかった。飲食店はまだ活気があったが、その他の業種への波及効果はなかったようである。
		一般小売店〔事務用品〕（店員）	来客数の動き	・大型連休中の店頭売上の増加を見込んでいたが、来客数が少なく売上が悪い状態である。
		百貨店（販売担当）	来客数の動き	・来客数の拡大を目指し、DMやチラシといった各種アプローチを増幅させた。さらに、ポイントアップや割引などの策を講じているが、いずれの反応も弱く来客数の増加につながらない。購入は更に弱く、見物やいるだけの客も多数いる。来店動機は必要な物のみになっており、食品催事などで集客があっても、ついで買いは少ない。地域特性か、来店も週末に集中している。それも日曜のみで土曜の来客数が減少中である。ゴールデンウィーク後の影響か土曜勤務が増加したとの声があり、完全週休2日が少ない影響が出ている。
		コンビニ（店長）	来客数の動き	・最低賃金の上昇により店舗のシフト人員の確保には限りがある。本部の方針が商品量を増やすことを前面に出しているなかで、スタッフの意識を接客向上につなげるのは難しく、当たり前の接客をそつなくこなすというのが店舗の状況である。以前は厳しくしていた、おもてなし等の売上向上につながる行動も限定され、店舗の雰囲気は以前ほど活気あふれるものではなくなりつつある。売上は前年割れを起こしている。
		衣料品専門店（経営者）	来客数の動き	・今年は初めての長期の連休で、連休中は帰省している客の来店もあり来客数が増えたが、全体として来客数は減っている。
		乗用車販売店（経営者）	お客様の様子	・今月も販売量が全く増えない。消費税の引上げでの駆け込み需要を期待してイベント等を開催しても客の買い控えが多いようである。
		乗用車販売店（役員）	来客数の動き	・大型連休の少し前から来客数の動きが鈍化しており、買い控えの雰囲気が感じられる。
		高級レストラン（スタッフ）	販売量の動き	・10連休期間中は例年の110%ほどの集客があったが、7日以降は散々な集客となり、5月のトータルでは例年より若干の集客減となる。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		都市型ホテル（スタッフ）	販売量の動き	・10連休中は宿泊は良かったが、5月累計では前年並みになり、連休前の落ち込みはカバーできなかった。宴会件数は、連休のため減少した。レストラン売上はほぼ前年並みだが、単価は低い。今後の予約状況は宿泊、宴会共に良くない。今年の春からの勢いのなさが続いている。
		タクシー運転手	来客数の動き	・10連休後に極端に暇になった。2～3か月前は朝夕にあった、営業の人の利用による忙しさが今はない。
	×	スナック（経営者）	来客数の動き	・長い連休のため覚悟していたが、最悪だった前年5月よりも更に1割下がり、予想以上に悪かった。体調を崩している客も複数いる。また、婦人服の経営者の話では、客が買い控えているということである。
	×	観光型旅館（スタッフ）	来客数の動き	・前年比で総売上は92%、宿泊人数は88%、宿泊単価は110%である。前年の大口団体客の穴埋めができず、団体客の前年比は76%である。14名以下の個人客は121%と増加できたので宿泊単価のアップにつながっている。
	×	住宅販売会社（営業）	来客数の動き	・例年であれば来客数がアップする時期にもかかわらず、新規来客数の低調さが全く改善されない。むしろ悪くなっている。
企業動向関連		-	-	-
(北陸)		建設業（経営者）	受注量や販売量の動き	・政府が国土強じん化や防災、減災のために予算をつけ、地元においても今年度の公共事業予算が増え、その執行が行われている。
		不動産業（経営者）	受注量や販売量の動き	・同業者からの情報では、個人客の問合せが少しずつ増えてきているということである。
		繊維工業（経営者）	取引先の様子	・繊維業界は、衣料関係は相変わらず状況が悪いが、資材関係については非常に先まで受注が決まっている。
		化学工業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・現状の受注状況は変わらず推移している。
		プラスチック製品製造業（企画担当）	受注量や販売量の動き	・受注は総じて堅調に推移している。
		通信業（営業）	受注量や販売量の動き	・受注額が僅かに前年同月を上回っている。現時点では6月以降の受注見込みも前年並みの状況である。
		金融業（融資担当）	取引先の様子	・4月の酒類の売上は前年比若干プラスとの報告である。
		金融業（融資担当）	取引先の様子	・当地は観光地としてのにぎわいもあり、小売業や観光関連サービス業は、10連休中の売上が好調に推移したと報告を受けている。一方、メーカーは長期休暇の影響と米中貿易摩擦の影響が重なり、売上にブレーキが掛かった取引先が多い。
		司法書士	取引先の様子	・3月決算の法人の定時総会議事録の内容として、新規事業や役員増員といった事業拡大につながるものがない。
		食料品製造業（経営企画）	受注量や販売量の動き	・比較的堅調に推移していた受注面や販売面に陰りが見える。一方でコストアップはとどまることなく、また、それを販売価格に転嫁できない状況も変わらないことから、収益性は悪化するばかりである。
		一般機械器具製造業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・北米市場は前年と比べ伸びているが、国内と欧州市場の受注が伸びていない。
		精密機械器具製造業（役員）	取引先の様子	・当社への受注量はさほど変わっていないが、営業からの情報では、一部大手や中小の店は、以前ほど活気がないようである。
		税理士（所長）	取引先の様子	・5月は3月決算の報告をしている。そうしたなかで経営者と面談すると、3月までと4月以降では、4月以降の売上が減少している企業が多く見受けられる。また、今後も非常に不安であるという気持ちを持っている経営者が多い。
		×	*	*
雇用関連		-	-	-
		-	-	-
	(北陸)	人材派遣会社（役員）	求職者数の動き	・求職者が求める希望が多様なため、有期雇用契約への申込みが少ない。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・4月の新規求人数は前年同月比で1.7%の増加、前月比では0.9%の増加と、引き続き高い位置での横ばい状態にある。産業別では各月において波はあるものの、4月は運輸郵便業、卸売小売業、宿泊業、飲食サービス業、医療福祉業、サービス業で僅かな増加、学術研究、専門技術サービスで大きく増加している。一方、建設業、製造業は僅かに減少、生活関連サービス業、娯楽業で大きく減少という状況になっている。
		職業安定所（職員）	求職者数の動き	・相談もなく、急な人員整理がみられるため、景気の不透明感が懸念される。
		学校〔大学〕（就職担当）	採用者数の動き	・求人に来訪する企業は相変わらず多く、人手不足への取組が目立つ反面、学生には厳しい選考が課され、現時点で内定を獲得できない学生が一定の割合で存在する。
		求人情報誌製作会社（編集者）	求人数の動き	・求人情報誌1回の発行につき50件ほど求人数が減っている。
		民間職業紹介機関（経営者）	求人数の動き	・新入社員が職場になじむ頃となり、企業は充足感があるためか、新たな求人数は以前より減少している。ただし、前から不足している建設や介護職などは、変わらず不足している。
	x	-	-	-

8. 近畿（地域別調査機関：りそな総合研究所株式会社）

（-：回答が存在しない、*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計動向関連 (近畿)		競輪場（職員）	単価の動き	・3か月前の客単価は9,800円で、今月は10,241円となった。改元や10連休の効果で、一時的に良くなっている。
		一般小売店〔珈琲〕（経営者）	お客様の様子	・季節要因もあるが、仕入れ金額が微増となっている。
		百貨店（サービス担当）	単価の動き	・今月も傾向は変わらず、インバウンド効果で化粧品や特選品を中心に好調な推移がみられる。傾向としてはやや良く、売上は前年の水準も今年もクリアしている。入店客数も前年比で5%ほど増えている。
		スーパー（店長）	来客数の動き	・気温が早く上がったせいか、夕方以降の客の動きが活発である。来客数が増え、買物の質も上がっているように感じる。
		スーパー（店員）	来客数の動き	・今月は創業祭などのイベントが続いて客足が増え、売上が増加している。
		コンビニ（経営者）	販売量の動き	・近隣に完成したタワーマンションの入居が始まり、日用品の売上が急増している。来客数、客単価共に微増傾向にある。
		コンビニ（経営者）	来客数の動き	・暑くなったので冷麺の購入が増えているほか、ホットコーヒーからアイスコーヒーに入替えたことで、来客数が増えている。
		コンビニ（経営者）	お客様の様子	・近所に大型ショッピングセンターがオープンしている。
		コンビニ（店員）	販売量の動き	・客の買物単価が、少しずつ上がっていると感じる。昼の時間帯の客は、近くで働く会社員以外は、ほとんどが外国人である。大人数で来店し、たくさん買物をしていく。ほぼ毎日来店する外国人客も増えている。
		コンビニ（店員）	来客数の動き	・暑くなり、冷たい物がよく売れている。
		家電量販店（経営者）	お客様の様子	・消費税増税を前に、大型家電に対する問合せが増えるなど、増税前の消費意欲が感じられる。
		一般レストラン（経営者）	来客数の動き	・ゴールデンウィークが長かったため、オフィス街の売上は通常よりも減少した一方、繁華街では増加した。連休明けは個人客が減少し、会社宴会などの団体客の利用は増えたが、1週間の間にも浮き沈みの波がある。
		観光型旅館（管理担当）	来客数の動き	・現在の天皇陛下の御即位に伴う10連休のお陰で、来客数が増えている。
		旅行代理店（店長）	お客様の様子	・令和への改元や、ゴールデンウィークの10連休などで、客の動きが良かった。先行きにも新たな希望を感じているのか、明るい雰囲気となっている。
		通信会社（社員）	販売量の動き	・3～4月の引越しシーズンでのサービスへの加入数は、やや増加傾向にある。
	通信会社（社員）	販売量の動き	・6月からは新たな料金プランや販売方式となるため、携帯端末の駆け込み需要が増える。	

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		商店街（代表者）	お客様の様子	・夕方以降の客足の引きが早い。
		一般小売店〔花〕（経営者）	販売量の動き	・母の日商戦は出足が悪かったものの、最終的には例年を上回る動きになった。ただし、単価は低かったため、景気が上昇しているとは感じられない。
		一般小売店〔菓子〕（経営企画担当）	販売量の動き	・今年5月と2月の売上前年比を、各地区別に上位5店舗の平均で見ると、関西は5月が94.3%で、2月が120.2%、関東は5月が115.7%で、2月が118.3%、中部は5月が103.3%で、2月が97.7%、中国は5月が114.8%で、2月が119.3%となり、各地区合計の平均は5月が101.9%で、2月が116.6%であった。4月と同様に、5月も新商品の発売が好調の要因となっている。2月もバレンタイン商戦が好調であったため、状況に大きな変化はない。
		一般小売店〔衣服〕（経営者）	来客数の動き	・急に暑くなったため、夏物衣料が動き出している。ただし、来客数は増えておらず、単純に気候要因によるものであり、景気が上向いているとは感じられない。
		一般小売店〔野菜〕（店長）	競争相手の様子	・問屋を回っても暇そうで、バーゲンセールを実施している大きなスーパー以外は、かなり苦戦している。今後かなり厳しい状況になる。
		一般小売店〔呉服〕（店員）	お客様の様子	・令和になって少し期待していたが、キャンセルやクーリングオフを利用する客が多く、低迷が続いている。
		一般小売店〔菓子〕（営業担当）	販売量の動き	・前月は売上、販売量共に好調であったが、大型連休も終わり、今月は販売量の伸びが非常に悪い。
		百貨店（売場主任）	お客様の様子	・今月は売上目標を達成する見込みである。インバウンド需要が好調で、高額品の売上が安定しているほか、気温の上昇に伴い、シーズン雑貨の売上も好調である。ただし、高額品だけでなく、高付加価値のバーゲンセール品を含む低価格商品が好調であるなど、客は商品によって購入する業態を選んでいる。売上目標は達成できても、消費が活性化されているとはいいい難い。
		百貨店（企画担当）	お客様の様子	・富裕層である外商客の購入は微増であるが、国内客のボリューム層は微減となった。一方、インバウンド売上は前年比で130%と大幅に増え、売上全体も110%と、ここ数か月は増収が続いている。インバウンド売上の内訳は、一般品の伸び率が鈍化しつつあるが、化粧品などの消耗品の伸び率は更に増加しており、前年比で130%の水準を維持している。
		百貨店（企画担当）	販売量の動き	・当社に限れば、閉店した競合店からの客の流入が一巡し、特殊要因はなくなっている。少なくとも景気は上向きではない。
		百貨店（営業担当）	お客様の様子	・月初めの大型連休では、富裕客は海外、国内旅行を楽しみ、何人かの客は百貨店で高額品の買物を控えている。一方、消費税の増税を控えて、例年は秋に開催される大型催事が、今年度は今月後半に開催され、高額品の買上が好調となっている。
		百貨店（営業担当）	来客数の動き	・来客数が堅調に推移している。食品の売上がメインであるが、客単価の低下もみられず、業績は好調である。インバウンドも中国の電子商取引法の影響もなく、郊外店への流れが進んでいるように感じる。
		百貨店（販売推進担当）	お客様の様子	・5月上旬は、改元景気で財布も少し緩みがちであったが、それも落ち着き、シビアな状態に戻っている。売上はインバウンド、国内客共に微増である。
		百貨店（営業推進担当）	単価の動き	・大型連休の終盤以降、単価の下落傾向が続いている。
		百貨店（商品担当）	販売量の動き	・10連休でスタートした5月は、祝賀ムードや天候の良さ、食品の催事による集客効果も加わって、来客数が都市部を中心に順調となった。気温の上昇とともに、夏物衣料や雑貨の動きも増え、おおむね順調に推移している。また、インバウンド売上は化粧品を中心に安定しているほか、展開時期が早まっているランドセルは、消費税増税前の需要もあり、すべり出しから好調に推移している。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		百貨店（マネージャー）	販売量の動き	・大型連休の消費疲れで、5月の2週目以降は購買動向に力強さがなかった。また、中旬までは気温がやや低く、逆に月後半は真夏日を記録するなど、気温のアップダウンが激しく、本来の初夏の陽気が味わえる日が少なかった。それに伴い、本来の売れ筋である軽めの羽織物の売行きが鈍く、売上に悪影響が出ている。
		スーパー（店長）	販売量の動き	・長期のゴールデンウィークで、旅行や余暇関連の出費が増えたため、その後は食品を中心に買い控えがみられる。
		スーパー（企画担当）	来客数の動き	・来客数は前年の水準を上回っているが、雨の日が前年よりも少ないことを考慮すれば、これまでの前年比95%前後の推移と変わらない。
		スーパー（企画担当）	それ以外	・青果物は全体として相場安となっているが、販売点数の伸び悩みもあり、売上は前年割れである。気温の上昇により、ここ最近は涼味関連や飲料、アイス関連の推移は堅調であるが、全体では停滞感がある。
		スーパー（経理担当）	販売量の動き	・ゴールデンウィークの10連休に大きな山場はなく、売上の大きな増加はみられなかった。改元に伴う祝賀ムードもあったが、こちらも大きな売上増にはつながっていない。
		スーパー（販売促進担当）	競争相手の様子	・食品スーパーの競合各社をみると、多少の優劣はあるものの、既存店売上は横ばいか前年割れが続いており、上向き気配は感じられない。ゴールデンウィークの10連休は好天が続き、消費意欲の高まりも期待されたが、期間が長すぎたせいか、需要が間延びした。業界全体では一部の店舗を除いて、売上の増加にはつながらなかった印象である。
		スーパー（社員）	単価の動き	・新たな競合店の増加で苦戦している店舗もあるが、前年に比べて安定した天候が続いていることもあり、来客数は前年よりも増えた店舗が多い。冬場は安値で推移した野菜も価格が安定してきたことで、全体の販売額を押し上げている。
		コンビニ（店長）	来客数の動き	・近くの競合店が閉店したため、一時的に客が増えているが、短期的な動きであり、景気自体には変化がない。
		コンビニ（店員）	販売量の動き	・来客数はほぼ前年並みであるが、売上はやや下回っている。
		衣料品専門店（経営者）	来客数の動き	・10連休の後半は、ある程度の来店があった。月末になって、改元疲れか、来客数が減ってきている。食品関係の値上げが発表された関係もあり、財布のひもも固くなっている。
		衣料品専門店（店長）	単価の動き	・直近の3か月と比べて、来客数、売上は少し減少しているものの、単価は横ばいで推移している。
		家電量販店（店員）	販売量の動き	・今月の10連休は、売上がやや伸びた程度で、大幅に増えたわけではない。逆に、連休の終了後は閑散としており、月全体では売上に大きな変化はない。一方、客の間では、商品を購入する時期について悩んでいる様子がうかがえる。
		その他専門店【医薬品】（経営者）	競争相手の様子	・近隣地区に同業他社のドラッグストアが出店し、過当競争気味である。結果として、来客数の減少につながっている。
		その他専門店【宝石】（経営者）	お客様の様子	・株価はいまだに2万円を切っていないので、景気は現状を維持している。為替にも大きな変化はないが、今後は日米間、米中間の貿易摩擦により、株価にどのような影響が出るかが注目される。
		その他専門店【食品】（経営者）	販売量の動き	・特に変化はないが、ゴールデンウィーク前の注文が前年よりも多かった分、ゴールデンウィーク明けは抑え気味である。
		その他専門店【宝飾品】（販売担当）	来客数の動き	・来客数に変化はないが、固定客だけではなく、一見客も含まれるため、売上の増加につながらない。
		その他小売【インターネット通販】（経営者）	お客様の様子	・平成から令和になったが、当商店街はこの商戦に乗り遅れ、商機を逃してしまった。客も購買意欲が低下しているように感じる。
		その他小売【インターネット通販】（企画担当）	販売量の動き	・食料品は総菜を中心に堅調であるが、紳士服や子供服の販売は前年を下回るなど、全体として消費に前向きな動きがみられない。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		高級レストラン（スタッフ）	来客数の動き	・日によって波はあるものの、ここ数か月は大きな流れに変化がない。
		高級レストラン（企画）	販売量の動き	・低～中単価のメニューのオーダーが伸び悩んでいる。
		一般レストラン（経営者）	来客数の動き	・10連休は家族連れで来客数が増えたが、連休明け以降、商店街は人通りが少なく、来客数も伸びていない。
		一般レストラン（企画）	来客数の動き	・4月から、来客数が前年比で減少する傾向が続いており、客単価もやや低下している。基調の大きな変化はないが、景気はやや後退していると感じる。
		その他飲食〔自動販売機（飲料）〕（管理担当）	競争相手の様子	・新たな商品ラインアップも力不足である。
		都市型ホテル（総務担当）	来客数の動き	・宿泊の予約状況では、稼働率は前年を上回っているが、客室単価の下落で売上は前年を下回っている。一方、宴会については、売上が前年を若干上回っており、レストランの売上も前年を上回っている。
		都市型ホテル（管理担当）	お客様の様子	・利用人数や単価などには、前年に比べて大きな変化がない。
		都市型ホテル（客室担当）	来客数の動き	・例年、ゴールデンウィーク明けは来客数が落ち込む傾向にあるが、今年は10連休の反動で、落ち込みが長かった。稼働客室数も前年比で5%減と悪化している。
		旅行代理店（営業担当）	販売量の動き	・10連休明けの需要は想定を上回っている。ただし、国際情勢のほか、消費税増税や参議院選挙といった国内情勢にも不透明な面があり、楽観できる状況ではない。
		タクシー運転手	お客様の様子	・ゴールデンウィークの10連休明けなので仕方がないが、月末は少し上向いたものの、米中貿易摩擦の影響で、動きは今一つである。
		タクシー運転手	来客数の動き	・ここ数か月は、10連休を含めても余り変化はない。
		タクシー運転手	お客様の様子	・乗車する人が少ないなど、悪くなっている。
		タクシー運転手	お客様の様子	・気候が良くなって外出が増え、乗車機会も増加したが、営業収入に大きな変化はない。
		通信会社（経営者）	お客様の様子	・客の受注状況に大きな変化はない。
		美容室（店長）	来客数の動き	・今月は少し悪かったが、直近の数か月でみると、ほぼ想定範囲内で推移している。
		その他サービス〔学習塾〕（スタッフ）	来客数の動き	・生徒の出入りが激しく、先が読めない状況である。
		住宅販売会社（経営者）	販売量の動き	・低水準ではあるが、一定数の客は動いている。
		その他住宅〔住宅設備〕（営業担当）	お客様の様子	・以前は、エレベーター部品の交換見積りが好調であったが、現状は横ばいか、やや悪化気味である。
		その他住宅〔情報誌〕（編集者）	お客様の様子	・不動産市場での、消費税増税前の駆け込み需要の動きは、前回の8%増税時よりも限定的である。手厚い対策による影響に加え、足元の経済状況に対する不安感も影響している。
		一般小売店〔衣服〕（経営者）	販売量の動き	・大型連休の影響が、例年以上に連休明けの落ち込みが大きく、商店街の飲食店を含めて苦戦している。
		一般小売店〔鮮魚〕（営業担当）	販売量の動き	・販売数量が前年比で5%落ち込んでいる。
		百貨店（売場主任）	販売量の動き	・ゴールデンウィークの10連休もあって、旅行者を除く既存客の来客数が減少した。衣料品関係の落ち込みが激しく、店舗全体で前年比3%減となっている。ただし、宝飾品や特選品、美術品などの高額品については好調を維持している。
		百貨店（営業企画）	単価の動き	・来客数は前年並みを維持しているが、客単価の低下が続いている。
		百貨店（外商担当）	販売量の動き	・今年は初めて10連休となったため、旅行などの外出が増えたのか、店頭への来店が例年よりも少ない。インバウンドは前年を上回って推移しているが、化粧品などが中心で、高額商品は売れていない。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		百貨店（特選品担当）	販売量の動き	・直近の3か月間はインバウンド、国内客共に、売上は前年比でプラスと順調に推移していた。特に、4月は大きく前年を上回った。一方、5月に入り、ゴールデンウィーク中はインバウンド、国内客共に順調に推移していたが、連休後は前年比でマイナスとなる売場も出ている。明らかに今までとは潮目が変わったように感じられる。
		百貨店（販促担当）	単価の動き	・気温が高い日もあったが、月全体では例年並みであり、雨も少なかったため、来客数は安定している。品目別には、食品の動きは安定している一方、衣料品や雑貨は単価が伸びず、前年割れである。高額品の動きも鈍いが、特に要因が見当たらないだけに、今後は懸念される。
		百貨店（マネージャー）	お客様の様子	・大型連休明けの消費は、予想どおり国内客の動きが厳しい。国内客の現金売上は前年比で1.8%減と、母の日商戦などのメイン商材や服飾関連が不調である。その反面、地区全体では、インバウンド需要が消耗品を中心に25.6%増と伸びている。
		百貨店（宣伝担当）	単価の動き	・連休後は売上、入店数共に苦戦している。大きなシェアを占めていたインバウンド売上も、消耗品は堅調であるが、高額品の伸びは鈍化している。国内客についても、財布のひもが固くなっており、単価が下がってきている。
		百貨店（売場マネージャー）	お客様の様子	・前年よりも気温が高く、来客数も前年を上回っているが、衣料品が苦戦している。特に、ゴールデンウィーク明けが非常に厳しい状況であったほか、衣料品では高額品や年齢層の高いゾーンでの苦戦が目立つ。
		スーパー（経営者）	お客様の様子	・月前半の大型連休では、ごちそうや内食、中食需要が増え、例年よりも若干盛り上がったが、期待したほどではなかった。母の日以降は、節約ムードが広がるなかで、清涼飲料や食用油、牛乳、ヨーグルトなどの値上げが本格化し、買い控えムードが広がっている。
		スーパー（店長）	販売量の動き	・無駄な物を極力買わないようにしており、1人当たりの買上点数が落ちている。また、徹底して最低価格の店を買い回っている様子がみられる。
		スーパー（店長）	競争相手の様子	・各社のチラシのサイズも、B4からB2～3へと拡大する傾向にある。また、ドラッグストアなどの競合店も、隔週であったチラシが毎週に変更となるなど、焦りがみられる。
		スーパー（店員）	単価の動き	・季節的に売上の伸びるフルーツの種類が少なく、安い輸入品ぐらいしかない。
		スーパー（管理担当）	単価の動き	・ゴールデンウィーク以降、価格競争が一段と激しくなっている。
		スーパー（企画）	来客数の動き	・気温の上昇とともに、食料品の売上は回復傾向にあるものの、衣料品や生活関連品の動きは鈍い。ただし、消費税増税を見越した購入が、商品によっては始まっている。
		家電量販店（企画担当）	来客数の動き	・消費税率の引上げ前の動きがまだみられないほか、涼しい日が続いているため、季節商材の動きが鈍い。ただし、リフォーム関連は増税前の工事に伴い、動きが出てきている。
		家電量販店（人事担当）	来客数の動き	・ゴールデンウィークの10連休には、消費税増税前の駆け込み需要とみられる動きがあったが、連休以降は来客数も前年を下回り、景気の冷え込みを感じる。
		乗用車販売店（経営者）	お客様の様子	・株価の低迷で、客の消費意欲が低下していると感じる。
		その他専門店 [ドラッグストア]（店員）	来客数の動き	・ゴールデンウィークの前半は天候に恵まれず、客足が伸び悩んだ一方、後半は天候が良かった分、行楽に出掛ける人が増え、買物客が少なく感じた。その後、休み明けの買い控えも目立ち、来客数、売上共に悲惨な動きになっている。
		一般レストラン（経理担当）	お客様の様子	・10連休によって、非正規雇用者の収入が減少したため、財布のひもが固くなっている。ゴールデンウィークによる影響は、連休後もほぼ2週間続いている。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		都市型ホテル (スタッフ)	来客数の動き	・好調であった宿泊が、ゴールデンウィーク以降、急激に落ち込んでいる。インバウンドは東南アジア諸国からの動きが好調であるが、国内のビジネス客が落ち込んでいる。市場に供給過剰で、単価が合わなくなっていると感じる。一方、宴会部門は厳しい中でも堅調である。
		都市型ホテル (管理担当)	来客数の動き	・改元や祝賀ムードで、もう少し景気が良くなると予想したが、祝賀ムードは長続きしなかった。市内における、宿泊施設の供給過多の状態は続いており、苦戦を強いられている。
		旅行代理店(支店長)	お客様の様子	・ゴールデンウィークでの予想以上の出費で、財布のひもが固くなる客が多い。また、米中貿易摩擦などの影響による値上がりも多い。こういった状況は長引く可能性が高いため、客が消費を控える傾向にある。
		旅行代理店(役員)	来客数の動き	・ゴールデンウィークの反動や疲れがあるのか、客の動きが止まっている。
		テーマパーク (職員)	来客数の動き	・消費税増税が現実的なタイムリミットとして迫っている。今後、来場者は減少し始め、買い控えも始まる。
		その他レジャー施設[イベントホール](職員)	販売量の動き	・販売量に大きな変化はないが、より安価な商品にシフトしている。
		住宅販売会社 (経営者)	お客様の様子	・新聞の折込広告への反響が芳しくない。
		住宅販売会社 (従業員)	来客数の動き	・新築マンションのモデルルームへの来場数が減っているほか、購入に対して慎重になっている。
		住宅販売会社 (総務担当)	販売量の動き	・消費税増税前の駆け込み需要がみられたが、その後は全体的に契約が減少している。
		その他住宅投資の動向を把握できる者[不動産仲介](経営者)	それ以外	・一般の消費動向は少し悪化している。
		その他住宅[展示場](従業員)	来客数の動き	・今月の住宅展示場への来場数は、前年比で1割程度減少している。
	×	一般小売店[時計](経営者)	来客数の動き	・10連休が終わっても来客数が少ない。客との会話では、10連休で旅行や外食にお金を使ったため、中旬から後半に掛けて引き締めるという声が多かった。静かで動きのない1か月となっている。
	×	百貨店(売場主任)	来客数の動き	・10連休後の入店数が極端に悪い。5月は前年比3.0%減で、全店売上は5.6%減と、月末にかけても回復の兆しはみえない。特に、食品の中では精肉が5.0%減と悪い一方、鮮魚は0.5%増と健闘した。食品全体では4.5%減となる見込みである。
	×	百貨店(マネージャー)	販売量の動き	・気温の上昇で夏物商材が動いているが、ファッション関連では特にボリュームゾーンの売上が悪い。販売量が前年比で2.4%減、買上率も3.6ポイントの低下と、厳しい状況である。一方、高額の時計や宝飾品は、4.3%増で推移している。
	×	観光型旅館(経営者)	来客数の動き	・10連休に需要が集中した結果、連休明けは激減している。働き方改革もあるなかで、この偏りへの対応は困難である。
企業 動向 関連 (近畿)		-	-	-
		電気機械器具製造業(宣伝担当)	受注量や販売量の動き	・例年よりも気温の高い日が多く、エアコンが堅調な荷動きとなっている。冷蔵庫や洗濯機などは、実売台数よりも金額の方が前年比は高く、前年よりも単価の高い商品の荷動きが良い。
		建設業(経営者)	受注量や販売量の動き	・受注が堅調に推移しているほか、案件が動き出したため、資金が回るようになっている。
		金融業(営業担当)	競争相手の様子	・全体的にはまだまだ回復基調とはいえないが、新規先の増加に伴い、やや良い傾向となっている。
	経営コンサルタント	受注量や販売量の動き	・主に人材育成を手がけているが、人手不足や働き方改革、求人難などで仕事は忙しくなっており、受注も先行予約が多い。	

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		その他サービス業〔店舗開発〕（従業員）	受注量や販売量の動き	・今月は大型連休の反動による買い控えが予想されたが、意外にも中旬には持ち直した。特に、大阪や京都などのターミナル駅では、インバウンド需要が徐々に高まり、それ以外の駅とは明暗がはっきりと分かれる形になっている。
		食料品製造業（従業員）	受注量や販売量の動き	・大型連休も終わり、休み明けは受注が減ったが、月末近くには通常の出荷に戻りつつある。
		食料品製造業（営業担当）	取引先の様子	・飲料水の大型ペットボトルの値上げにより、大型容器の販売は減少したが、小型容器でカバーできたため、全体的に売上は余り変わらない。
		食料品製造業（経理担当）	取引先の様子	・10連休後は、得意先の販売量も余り増えておらず、それに加えて厳しい暑さが続いている。
		パルプ・紙・紙加工品製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・変化する要因が見当たらない。
		化学工業（管理担当）	受注量や販売量の動き	・4月は出荷量が増加し、景気は良くなると予想されたが、稼働日の減少を考慮しても、5月は急激に悪化している。
		プラスチック製品製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・景気自体は下向き傾向であるが、身の回りは現状維持となっている。ただし、静観する必要がある。
		電気機械器具製造業（営業担当）	受注量や販売量の動き	・受注、売上共に、低い水準で停滞している。
		電気機械器具製造業（経理担当）	受注量や販売量の動き	・各社が、産業機器に関連する設備投資を抑制し始めている。米中貿易摩擦の影響を懸念した動きと聞いており、先行きに対しては弱腰の対応が見受けられる。
		建設業（経営者）	受注価格や販売価格の動き	・ハイテンションボルトなどの建設資材不足や技能労務者不足のなか、厳しい価格競争は相変わらず続いている。
		建設業（経営者）	受注価格や販売価格の動き	・案件の単価が低い。
		金融業（副支店長）	取引先の様子	・取引先の決算書をみると、前期比で横ばいかマイナスの内容が多い。
		広告代理店（営業担当）	受注量や販売量の動き	・期初から、取引先各社の広告出稿が伸びていない。
		その他サービス〔自動車修理〕（経営者）	受注量や販売量の動き	・取引先からの仕事も落ち着いてきている。
		その他非製造業〔機械器具卸〕（経営者）	取引先の様子	・受注量は少し落ちているが、商品全体として余り大きな変化はない。
		その他非製造業〔商社〕（営業担当）	受注量や販売量の動き	・当社の製品には、2019年度の補助金対象の機種が少なく、案件は減少傾向の見込みである。
		繊維工業（総務担当）	取引先の様子	・注文件数が前年比で10%減少している。その一方、地方の催事への出張が増え、経費は増加している。
		出版・印刷・同関連産業（企画営業担当）	受注量や販売量の動き	・消費税増税の関係で印刷物の発行部数が減っているほか、電子化などの問合せが増えており、注文は若干減少傾向にある。
		金属製品製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・特殊な製品の動きに大きな変化はないが、中国向けは6～7月の計画が減少傾向となっている。
		金属製品製造業（営業担当）	競争相手の様子	・同業者からは、売上が前年比で減少傾向にあるとの声が増えている。
		電気機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・これまで大企業の業績は悪いと聞いていたが、身の回りの景気はそれほど悪くはなかった。ただし、悪い材料が多過ぎるためか、にわかに身の回りにも悪い風が吹き始めたと感じる。希望をもって努力しているが、世界の政治情勢が悪過ぎる。これほど世界の政治経済の動向が読めないのも困る。
		輸送用機械器具製造業（役員）	競争相手の様子	・競合他社による据え付け工事が減少し、当社の受注が可能になりつつある。
		金融業〔投資運用業〕（代表）	それ以外	・ガソリン価格の高騰のほか、近隣での空き家の増加、飲食店の閉店の増加など、町に活気が感じられない。
		不動産業（営業担当）	取引先の様子	・当市から企業の撤退が続いているため、事務所や住宅のニーズが減っている。賃料も下がっており、景気は悪くなっている。
		新聞販売店〔広告〕（店主）	受注量や販売量の動き	・折込件数が減少し、収入が落ちている。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		広告代理店（企画担当）	取引先の様子	・取引先からは、前年に比べて受注量が減っているという話をよく聞く。G20大阪サミットもあり、休業する施設やバーゲンセールの日程を変更する施設も多く、経済的な損失が出る取引先が多い。
		広告代理店（営業担当）	受注量や販売量の動き	・4月頃に比べて、Web媒体、紙媒体共に広告受注が減ってきている。
	×	繊維工業（団体職員）	受注量や販売量の動き	・需要が大幅に落ち込んでいる。
	×	その他非製造業【電気業】（営業担当）	受注量や販売量の動き	・米中貿易摩擦の影響が出ると予想されるため、先行きが見通せない。
雇用 関連		-	-	-
(近畿)		人材派遣会社（経営者）	それ以外	・業績好調により、臨時のボーナスが出ている。
		人材派遣会社（支店長）	採用者数の動き	・新年度になっても、相変わらず受注は堅調である。
		職業安定所（職員）	求職者数の動き	・直近の近畿の有効求人倍率は上昇し、平成での最高値を更新した。これは求職者の減少による影響が大きい。今年に入って、希望退職の募集事案が多く聞かれるものの、求職者の増加につながらない。ハローワークでの求職申込みや雇用保険受給手続きに至る前に、再就職先が決まるケースが多い。
		人材派遣会社（経営者）	求人数の動き	・ゴールデンウィーク明けから本来のペースに戻りつつある。特に、入札関係の仕事は堅調であり、人材やスタッフも集まりやすく、ミスマッチングが少なくなっている。企業側は上手に派遣社員を利用していると感じる。
		人材派遣会社（営業担当）	雇用形態の様子	・特に様子は変わっていない。前年度は労働者派遣法の改正で直接雇用も増えたが、今期に入り、それも一段落している。
		新聞社【求人広告】（管理担当）	求人数の動き	・新聞広告での求人数に変化はなく、景気は3か月前から変化していないとみられる。求人数全体では、新卒求人が増える時期であるが、新聞広告による求人はもはや主力ではない。一方、インターネット求人は新卒求人の動きを反映して増加している。
		新聞社【求人広告】（担当者）	それ以外	・関西の地元企業による新聞広告の出稿状況をみると、3か月前とほぼ変わらず悪い。前年比でも約90%という水準である。
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・人手不足感は強いが、しばらくは現状維持で推移しそうである。
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・新規求人数は高い水準にあるが、有効求人数は1年前と比べて微減であり、景気に大きな変化はない。
		民間職業紹介機関（職員）	求人数の動き	・求人元の企業から、景気が良くなっているという話はないが、慢性的な人手不足により、雇用形態を問わず求人数は高止まりしている。
		学校【大学】（就職担当）	求人数の動き	・東洋医学系の求人数は順調に推移しているが、西洋医学系の求人は、一部の部門を除いて頭打ち傾向にある。
		人材派遣会社（役員）	求人数の動き	・4月の派遣求人数は前年比で109.2%と堅調であったが、5月は75.6%と急ブレーキが掛かっている。
		人材派遣会社（営業担当）	求職者数の動き	・派遣登録数が、ゴールデンウィーク明けから激減している。
		職業安定所（職員）	求職者数の動き	・新規求職者数が微増の傾向にある。
		民間職業紹介機関（マネージャー）	求人数の動き	・大手の製造業の求人数に陰りがみられるほか、書類選考や面接での合格基準が上がっていると感じる。
		民間職業紹介機関（営業担当）	求職者数の動き	・求人数は横ばいであるが、労働者派遣法の改正もあって、求職者が他社に流れている。仕事を紹介した後の辞退も多く、成約しにくくなっている。
		民間職業紹介機関（営業担当）	それ以外	・求人数は業種によるばらつきが大きい。IT化が進むメガバンクなど、超大手企業は求人減らす傾向にあるが、サービス業や中小企業などは求人が多い。求人数だけみると、一見好調に感じるが、学生の人気企業という視点でみると、やや悪くなっている。それが影響してか、既に始まった3年生向けの就職ガイダンスでは、前年よりも学生の参加が多い。これと同じ状況は、リーマンショックの前にも起きている。
		学校【大学】（就職担当）	採用者数の動き	・各企業も最終面接で不採用とするケースがあり、採用の判断がより慎重になっていると感じる。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
	x	-	-	-

9. 中国（地域別調査機関：公益財団法人中国地域創造研究センター）

（-：回答が存在しない、*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連 (中国)		高級レストラン (事業戦略担 当)	来客数の動き	・売上が増加し、単価も微増となっている。
		百貨店(外商担 当)	単価の動き	・新元号企画の高額商品が好調に推移し、前年をクリ アしそうである。
		スーパー(店 長)	お客様の様子	・3か月前と比べ、明らかに客の来店頻度と購買点 数が上昇しており、ついで買いの言葉をよく聞くよ うになっている。また、5月としては異例の猛暑によ り、飲料や冷凍食品の買いだめがおきている。
		スーパー(店 長)	来客数の動き	・今年のゴールデンウィークは10連休で、さらに改元 のお祝いムードもあり、期間中の来客数と売上は共に 前年比105%となっている。なかでも、やや高単価な 商品、外食より中食や内食の品などが増加している。
		コンビニ(エリ ア担当)	販売量の動き	・朝昼の工事作業員の来客数が非常に多くなって おり、来客数、売上共に前年より2%程度高い状況 である。暑いのでおにぎりや冷やし麺などが売れて いるが、女性にはサラダが売れている。
		コンビニ(エリ ア担当)	来客数の動き	・売上の伸びは悪いが来客数は伸びている。
		コンビニ(副地 域ブロック長)	お客様の様子	・今年に入って生活関連商品、飲料、加工食品の 売上が上昇している。特に、スーパーの営業時間の 短縮などが、深夜から早朝の来客数の改善につな がっている。
		家電量販店(企 画担当)	お客様の様子	・10月の消費税の引上げ前に購入する客が多く、 エアコン、冷蔵庫、洗濯機が特に多い。
		自動車備品販 売店(経営者)	販売量の動き	・理由は不明ながら、今年になって売上が前年を 下回ることがなく、小売も卸も好調である。
		その他専門店 [和菓子](経 営者)	来客数の動き	・10連休の影響で好調が続いている。
		観光型ホテル (営業担当)	来客数の動き	・長期にわたったゴールデンウィークの反動で来 客数の落ち込みがみられる。
		都市型ホテル (総支配人)	来客数の動き	・改元とゴールデンウィーク10連休の影響で宿 泊者数が大幅に伸びるとともに、10年に一度の 船神事開催により10連休後の落ち込みもなく推 移している。
		旅行代理店(経 営者)	お客様の様子	・改元により客に景気回復への期待がみられる。
		タクシー運転 手	来客数の動き	・大型連休で人がかなり流れている。
		テーマパーク (営業担当)	来客数の動き	・週末やゴールデンウィークを中心に晴れの日 が多かったことと、改元に関連した展示内容が メディアに多数取り上げられたことにより、入 園者数が大幅に増加している。
		観光名所(館 長)	来客数の動き	・貿易摩擦等の懸念材料や消費税の引上げなど の不安材料もあるが、インバウンドの伸びや消 費意欲の底堅さが影響し、10連休での入館者 数が前年比で50%伸びている。
		競艇場(企画 営業担当)	販売量の動き	・電話投票の売上が好調である。
		住宅販売会社 (従業員)	お客様の様子	・改元によるお祝いムードの中で客の雰囲気 が明るく、商談がスムーズに運んでいる。
		住宅販売会社 (営業担当)	来客数の動き	・引き合い案件が多くなってきている。
		商店街(理事)	お客様の様子	・客は消費と貯蓄のウエイトを意識しながら 家計をやりくりしており、景気の良さもそれ によって左右されている。今月は消費にウ ェイトが置かれる傾向にあるが、価格の値 上げもあるため景況感是不変。
	商店街(代表 者)	販売量の動き	・客の財布のひもが固いまま、レジ周辺 の商品の売行きも悪い。必要以上に購 入することがなく、最小単位での購 入が目立つ。	
	商店街(代表 者)	お客様の様子	・低価格志向が相変わらず強く、買 い控えの傾向がみられる。	

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		商店街（代表者）	お客様の様子	・10連休の後半は大型イベントであるフラワーフェスティバルもあり、通行客は観光客を含め大変多い。しかし、飲食関係以外は苦戦しており、連休後も売上の確保が厳しく、景気は3か月前と変わらず良くない。
		一般小売店〔印章〕（経営者）	来客数の動き	・今月は令和のゴム印の追加需要が若干あったが、連休が長く休業したこともあり、全体の売上は減少している。
		百貨店（経理担当）	販売量の動き	・前年は6月に開催した特招会を5月に実施したことや、観光部門と改装したリビング部門が好調なことから、売上が前年を上回っている。
		百貨店（営業担当）	販売量の動き	・ゴールデンウィークは例年同様食料品の催しが盛況で、全体の売上や来客数はプラスであった。ただし、婦人服は秋冬受注会などでデザイナーズ系は順調であるが、その他のブランドの販売は非常に厳しい状況であった。連休明けに少し上向いたものの、中旬以降は前年を割って月末は更に悪化している。
		百貨店（売場担当）	お客様の様子	・母の日の週に気温が上がり、パラソルや帽子がギフトで動き、月の後半もミセス層が購入するUV対策化粧品や初夏物サンダルなどが動いている。
		百貨店（売場担当）	来客数の動き	・ゴールデンウィークには近隣からの集客が好調に推移したが、月末が近づくにつれて平年並みに戻りつつあり、例年よりも売上の前倒しが顕著となっている。
		百貨店（購買担当）	お客様の様子	・ゴールデンウィークに来客数の増加を図るため、北海道物産展や衣料品関係のイベントを開催したが、旅行に出掛けたり、家族の帰省のために家で過ごす家庭が多く、厳しい結果となり、売上が振るわない。気温が非常に高いため夏物が売れるとの予想に反し、来月のクリアランスセールを待つ客が多く、衣料品関係は婦人、紳士、子供共に厳しい状況が続いている。
		スーパー（店長）	来客数の動き	・来客数の前年割れが続き、売上も伸びていない。
		スーパー（総務担当）	単価の動き	・来客数、買上点数共に下向きではあるが、客単価は横ばいなので変化はない。
		スーパー（財務担当）	来客数の動き	・ゴールデンウィークの後半に持ち直したため、既存店の来客数、買上点数、1品単価が前年と変わらない。
		スーパー（管理担当）	来客数の動き	・ゴールデンウィークには前年を上回る実績を上げ好調であったが、連休明けから消費が低迷する状況に戻っている。
		衣料品専門店（代表）	それ以外	・以前はイベント時の仕入れに行った際、仕入れする人であふれていたが、最近は卸価格が特価のときですら仕入れする人が少なく、小売が振るわない状況が続いている。
		家電量販店（店長）	来客数の動き	・客単価、来客数共に引き続き減少傾向にある。
		家電量販店（店長）	来客数の動き	・来客数は減少しているが、客単価は上昇している。
		家電量販店（店長）	来客数の動き	・来客数は3か月前から前年比90%台前半で推移しており、今月も同じ状況である。エアコンや冷蔵庫が例年よりも早い段階で販売が活発になっており、前年比120%台と好調であるが、反対にテレビやパソコンが前年比70%台と大きく落ち込んでいる。ただし住宅リフォームは依然として好調で、前年比200%以上の伸びを示しており、家電の落ち込みをリフォームで補う構図は3か月前から変わっていない。
		乗用車販売店（統括）	販売量の動き	・5月の販売量は前年比120%となっており、新型軽自動車の販売好調が影響している。
		乗用車販売店（営業担当）	来客数の動き	・ゴールデンウィーク中もその後も来客数が増加せず、逆に減少傾向である。
		その他小売〔ショッピングセンター〕（所長）	来客数の動き	・ゴールデンウィーク10連休は前年比112%と好調だったが、その反動でそれ以降は前年を下回り、5月を通じては前年並みとなっている。
		その他小売〔ショッピングセンター〕（管理担当）	お客様の様子	・ゴールデンウィークも後半は落ち着き、10連休の恩恵は期待したほどにはなっていない。例年5月3～5日には来客数が伸びているが、今年はイベント目的での来館者はいたものの、ついで買いなどの買い回りはつなげていない。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		一般レストラン（経営者）	お客様の様子	・支払金額が明確な食べ放題の割合が上昇しており、家族の利用が多い休平日や休日も、単品の注文より料金が明確なセットの割合が上昇している。値上げの影響で外食産業でも節約ムードが及んでおり、特にゴールデンウィーク後はその傾向が顕著に現れている。
		都市型ホテル（スタッフ）	来客数の動き	・ゴールデンウィークの10連休で来客数はそれなりに伸びているが、前年とほぼ同程度である。
		都市型ホテル（企画担当）	販売量の動き	・宿泊はインバウンドが全体をけん引する形で好調を維持している一方で、地元客が中心で10連休には好調だったレストランは、連休後は低迷している。
		タクシー運転手	お客様の様子	・昼はそれほどでもないが、夜の街が静かで、タクシーチケットの利用も少ない。
		タクシー運転手	お客様の様子	・大型連休には観光客等が増加しタクシー利用もかなりあったが、連休後は利用を控える傾向があり、夜の利用状況も悪くなっている。
		通信会社（企画担当）	お客様の様子	・モバイル関連のサービス商材に対する引き合いと販売の動きは少しおとなしくなっている。その要因として大手キャリアの値下げ動向の情報が流れていることがある。さらに米国による中国系メーカーの排除の動きから、これまで目玉となっていた同社製端末商材の扱いにブレーキが掛かっていることがある。
		通信会社（経理担当）	それ以外	・身近で景気が良くなった話は聞かれず、客が特別に良い契約に変更する様子もない。
		通信会社（工事担当）	お客様の様子	・客の様子に変化がない。
		テーマパーク（業務担当）	来客数の動き	・10連休が終わって春の花の時期も過ぎ、来客数が少なくなってきた。
		テーマパーク（管理担当）	お客様の様子	・特に変化はない。
		ゴルフ場（営業担当）	お客様の様子	・ゴールデンウィーク期間は10連休でもあり客の動きは良かったが、連休明けは例年より来場者の動きが悪い。結果的に月の前半が良く後半は若干悪いため、単価を下げて集客を行っている。
		設計事務所（経営者）	競争相手の様子	・人手不足で仕事が進みにくく、消化不良で効率が落ちているため、契約が終了していても客が待たされる状況が起きている。
		設計事務所（経営者）	単価の動き	・建築材料の価格等で長期間にわたり高止まり感がある。
		商店街（代表者）	単価の動き	・最近の客にはより良い物をよりタイムリーにより安く買おうとする傾向があるため、なかなか購入に結び付かず、非常に厳しい状況が続いている。
		一般小売店〔茶〕（経営者）	販売量の動き	・商店街にも周辺の経済にも元気がない。
		一般小売店〔食品〕（経営者）	来客数の動き	・来客数の減少と客単価の減少が続いている。
		一般小売店〔洋裁附属品〕（経営者）	お客様の様子	・人の流れはやや多かったが、飲食店や大きなディスカウントストアに流れている。
		一般小売店〔靴〕（経営者）	来客数の動き	・4月末の連休から新規の問合せが前年に比べて減少している。
		百貨店（広報担当）	販売量の動き	・来客数は前年より増加しているが、売上が伸びない。
		百貨店（売場担当）	販売量の動き	・10数万円の紳士服や宝石などは売れるが、100万円以上の美術品などが売れず厳しい。
		百貨店（外商担当）	販売量の動き	・大型連休は好調であったが、それ以降は販売量、来客数共に減少している。
		百貨店（営業企画担当）	販売量の動き	・ゴールデンウィークには来客数が増加し、土産品も好調であったが、改装計画のため催事会場が閉鎖していることから、売上の減少が継続している。
		スーパー（店長）	来客数の動き	・ここ半年間ずっと来客数が前年を2%下回っている。
		スーパー（販売担当）	お客様の様子	・大型連休があったため、月前半の売上は前年比で衣料品が100.6%、生活雑貨が105.7%、食品が107.0%と前年を超える数字で推移し、前半の全体では103.5%となっている。しかし、後半はその反動で落ち込みが大きく、月全体では低調であり、特に好不調の判断材料となる主婦層の動向が鈍く懸念している。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		スーパー（販売担当）	来客数の動き	・来客数が若干減少するとともに、客単価もやや低下している。
		スーパー（業務開発担当）	競争相手の様子	・青果の価格が前年並みに戻ってきているが、加工食品の値上げが相次いでおり競合他社との兼ね合いで売価に転嫁できない状況であり、特売商品は動くが定番が動かない。
		コンビニ（支店長）	競争相手の様子	・コンビニの24時間営業の可否が話題となっており、業界全体のイメージが悪化している。
		衣料品専門店（経営者）	競争相手の様子	・各地で開催されている展示会の状況も芳しくなく、閉鎖する店舗も増加している。
		家電量販店（販売担当）	販売量の動き	・エアコンの動きが悪く、販売単価も低下している。
		乗用車販売店（店長）	お客様の様子	・大型連休の影響で稼働日数が少ないなか、来客数、販売量共に前年の90%となり、1か月間を通して客の動きが鈍くなっている。
		乗用車販売店（営業担当）	販売量の動き	・来客数は増えているが、販売に結び付いていない。
		乗用車販売店（店長）	お客様の様子	・消費税の引上げなど先行き不透明感を持っている人が多く、高額商品の購買意欲が低下している。
		その他専門店【布地】（経営者）	お客様の様子	・ゴールデンウィークが長すぎたことと天候が良かったことにより、街には余り人が出ていない。買物をする人も少なく、高い物よりも安い物を探す客が多くなっている。
		その他専門店【土産物】（経営者）	単価の動き	・10連休明けから財布のひもが固くなり、観光バスは多く入るが客単価は低い。連休中は少し浮かれた雰囲気もあり、売上が伸びたが一時的であり、連休後は節約ムードが漂っている。
		一般レストラン（経営者）	来客数の動き	・10連休で一時的に来客数が増加し、売上にも好転の兆候があったが、その後の落ち込みは予想以上で、客の外食利用意向の低下が懸念される。
		一般レストラン（経営者）	来客数の動き	・長いゴールデンウィークでたくさんの人出があったため、その後は反動で人出が非常に悪くなっている。
		一般レストラン（店長）	単価の動き	・前年に比べ全体的に客単価が低下しており、特に予約コースが低単価の商品に集中する傾向にある。
		スナック（経営者）	来客数の動き	・当業界は連休が悪影響を及ぼすことが多く、今回の大型連休の影響で来客数が減少している。
		都市型ホテル（企画担当）	来客数の動き	・宿泊やレストランへの影響が大きいゴールデンウィーク期間は来客数、売上共に前年を上回ったものの、その後の落ち込みが激しく、月末まで客の動きが低迷している。宿泊のインバウンド団体も前年並みに受注できているが、室料単価は下落している。企業の宴会利用も減少しており、期待された改元による好景気とはなっていない。
		旅行代理店（支店長）	販売量の動き	・例年ないゴールデンウィークでもあり、個人旅行需要は想定まではいかないまでも、3か月前と比較して堅調に推移しているが、その一方で法人需要には販売量に大きな増減がない。
		タクシー運転手	来客数の動き	・今月はゴールデンウィークがあったものの金が回っておらず、乗車率が非常に悪い。
		通信会社（広報担当）	お客様の様子	・客はいつも安い物を求めている。
		美容室（経営者）	来客数の動き	・大型連休の前などはまめに髪を切りに来るが、ふだんは客が訪れる周期が伸びているため、1か月通してみると悪い状況が続いている。
		設計事務所（経営者）	お客様の様子	・客から建物の老朽化に伴うリフォーム工事の話はあるが、なかなか契約までの決断に至らない。
	×	一般小売店【眼鏡】（経営者）	販売量の動き	・大型連休中の売上が減少し、その後も買い控えが続いている。
	×	乗用車販売店（営業担当）	販売量の動き	・3か月前は決算期で販売量も多かったが、今月は買い控えが続いている。
	×	住関連専門店（営業担当）	来客数の動き	・ゴールデンウィークに最大のイベントを開催したので、終了後は来客数が極端に減少している。
	×	その他専門店【時計】（経営者）	来客数の動き	・大型連休で消費がレジャーや旅行に回り、一般生活品に回らない流れが続いている。
	×	美容室（経営者）	お客様の様子	・今月は今までにない水準で売上と来客数が減少している。
企業動向関連		輸送用機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・自動車部品の生産は今のところ上向いている。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
(中国)		繊維工業（監査担当）	受注量や販売量の動き	・夏物シーズンに入ったが、好調だった冬物と同様に順調に売上が推移している。卸段階が好調なので、前売りの見通しが明るい。
		輸送業（支店長）	受注量や販売量の動き	・消費スタイルの急速な変化に伴いネット市場が拡大し、小口貨物が増加傾向にある。収益力の回復と集配力の拡大を両立させるために価格の適正化や集配体制の強化等を行っているが、費用が増加する一方で、単価が上昇したことにより、業績は堅調に推移している。
		広告代理店（営業担当）	受注量や販売量の動き	・令和元年スタートでの提案案件に対する企業からの受注があり、上向きに推移している。
		農林水産業（従業員）	受注量や販売量の動き	・販売状況が相変わらず悪い。
		食料品製造業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・販売量の増減は特にない。
		木材木製品製造業（経理担当）	受注価格や販売価格の動き	・前年度は新設住宅着工戸数が減少したが、今年度は期待された消費税の引上げ前の一時的な駆け込み需要が過去のように大きなものにならず、余り変わっていない。
		窯業・土石製品製造業（総務経理担当）	受注量や販売量の動き	・生産量の変動もなく高い水準が継続し、納期対応で時間外労働が多くなっている職場もある。
		鉄鋼業（総務担当）	取引先の様子	・人手不足や働き方改革による残業規制により、活動水準が横ばいでほぼ各需要分野に変化がない。市中在庫も多く需給にタイト感がなく市況も上がっていない。
		輸送用機械器具製造業（財務担当）	取引先の様子	・当社ビジネスの上流である海運会社や造船所では、運賃の底打ちや為替の安定等により一部収益が改善している部分もあるが、当社を取り巻く景況感には波及していない。
		輸送用機械器具製造業（経営企画担当）	受注量や販売量の動き	・主要客からの受注は、高止まりしている。
		建設業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・災害復旧工事の発注や手持ちの予定物件があるので当面は景気の好調が継続するが、受注工事の大型化でその失注や利益率の低下が景気に大きく影響するリスクがある。
		通信業（営業担当）	受注量や販売量の動き	・今期の滑り出しの売上は例年に比べて変動は余りなく、設備入替の動きも鈍い。
		金融業（貸付担当）	取引先の様子	・鉱工業は上向いているが、百貨店、スーパー等の小売業、観光業などは下向きである。
		金融業（融資企画担当）	取引先の様子	・やや減速気味ではあるが、地元の自動車部品メーカーの受注は、系列完成車メーカーの世界販売が依然堅調を維持していることから高水準で推移している。
		会計事務所（経営者）	取引先の様子	・人手不足感が強いが、アウトソーシングによる処理増加で相殺されている。
		食料品製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・ゴールデンウィークの10連休で受注量が大幅に減少している。地域観光等の動向は良かったが売上に寄与していない。
		化学工業（経営者）	受注量や販売量の動き	・米中の貿易摩擦が受注量に影響を及ぼしており、主要取引先が需要の様子見感から半導体向け等の生産調整を実施していることにより受注量が5～10%程度減少している。
		非鉄金属製造業（業務担当）	受注量や販売量の動き	・少しずつではあるが、製品の受注量や販売量が減少してきている。
		金属製品製造業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・工作機械業界からの受注が減少しており、案件数が減っていることに加え、受注が決まりにくくなっている。
		電気機械器具製造業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・米中貿易摩擦の影響で取引先の設備投資が延期されて当社装置の導入見送りが発生するとともに、他の取引先でも生産減少に伴い当社への受注量が減少している。
	輸送業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・全体的に受注量が減っている。	
	輸送業（経理担当）	受注量や販売量の動き	・国内貨物は暑さの影響で飲料関係が動き始めているが、国際関連貨物は荷動きが鈍くなった影響が大きく、景気は悪化している。	

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		通信業（営業企画担当）	取引先の様子	・製造業の取引先がアウトソーシング、セキュリティ案件の導入や検討を進めるなかで、経営層の最終決定時に見直されるケースが増えつつあり、案件の保留や導入の延期が発生している。
		不動産業（総務担当）	それ以外	・前月に比べて来客数が5%、成約件数が10%とそれぞれ減少している。
	x	-	-	-
雇用 関連		-	-	-
(中国)		-	-	-
		人材派遣会社（支店長）	求人数の動き	・3か月前は転職などで求人が多く、人が動く時期であったが、今月は求人の動きが少なく前年並みである。
		求人情報誌製作会社（営業担当）	求人数の動き	・企業からの求人数は堅調に推移しており、流通業とサービス業で引き続き人手不足感が強い。
		求人情報誌製作会社（広告担当）	求人数の動き	・建築関係の企業は好調であるが、それ以外の企業は売上の落ち込みがあり、働き方改革などの影響でやや悪い状況である。求人数は一見変わらないが、無理に採れなくても構わない意向の企業も多い。学生は高校生の地元就職希望者が5割弱で8年前の7割弱から大幅に減少している。地元大学に進学した学生の地元就職希望者は相変わらず69%と高いが、県外に進学した学生の地元就職希望者は33%と低い。地方の採用難は問題点としてあるが、学生は年々地元への関心が低くなっている。
		職業安定所（所長）	求人数の動き	・新規求人は、食料品製造業のうち食肉と菓子製造で繁忙期となる大型連休を見据えた大口求人が目立ったほか、旅館業や付随する旅館の清掃等の募集も多くなったが、求人全体でみると横ばいで推移している。
		職業安定所（雇用関連担当）	求人数の動き	・米中貿易摩擦により前年度と比べ受注量が減っていることに起因し、求人を控える製造業も一部あるが、全体的には有効求人倍率も高水準で推移している。
		職業安定所（職業指導担当）	求人数の動き	・求人数は依然として増加傾向にあり、景気は引き続き好調を維持している。
		職業安定所（事業所担当）	求人数の動き	・新規求人数が月ごとで増減を繰り返すなかで、直近では前年同月比で3.3%増加している。また、求職者の減少も影響しているが、有効求人数も16か月連続して前年同月比で上回っており、引き続き企業の採用活動は活発である。
		民間職業紹介機関（職員）	採用者数の動き	・以前は特に技術系で良い人材であれば随時募集する姿勢であったが、現在は予算ありきで採用枠を限定する企業が増えている。
		学校〔短期大学〕（進路指導担当）	求人数の動き	・企業の採用活動は活発になってはいるが、学生の就職活動の意識は余り高くない。
		人材派遣会社（支社長）	求人数の動き	・地元自動車メーカーの一服感に影響され求人は鈍化傾向で、自動車関連の採用が落ち着いたため、人の流れもその他へ向かっている。今まで採用ができなかった企業も市内、郊外関係なく採用できており、結果的に当社のような人材派遣会社を介さない人材採用が進んでいる。
		求人情報誌製作会社（経営者）	求人数の動き	・大学生の卒業もあり、アルバイト、パート、正社員を含めて3か月前が年間を通じて求人数のピークであるため、そのときと比較すると求人数はやや減少している。
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	求人数の動き	・大卒の就職決定率が高水準で、企業の採用意欲はより旺盛になっている。ただ、外国人労働者に依存する傾向も進展し、企業にとって人件費の高騰が足かせになっている。
		民間職業紹介機関（人材紹介担当）	求職者数の動き	・求職者数の動きに変化がなく、今後、人手不足が景気に悪影響を与えるおそれがある。
		学校〔大学〕（就職支援担当）	周辺企業の様子	・金融などの業績が悪化するなど、新聞報道に見られる良くない話題が少しずつ顕在化するようになっている。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
	x	-	-	-

10. 四国（地域別調査機関：四国経済連合会）

（-：回答が存在しない、*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連 (四国)		-	-	-
		商店街（代表者）	来客数の動き	・10連休の効果がかかり出ている。観光客も多かったが、地元県内の客も来街して、かなり消費も増えた。また、改元という明るい話題が、消費者マインドに影響を与えたようだ。
		一般小売店〔生花〕（経営者）	お客様の様子	・母の日などの贈り物商材を選ぶ際に、前年までは値段の安いものや予算を伝えて購入する人が多かったが、今年は商品を見て気に入ったものを購入する人が多かった。購入金額も少し高くなり、個人の贈り物としては高額な商品も動いた。
		コンビニ（店長）	単価の動き	・競合店の増加で来客数は微減したが、客単価の増加で売上高は前年を超えている。
		衣料品専門店（経営者）	単価の動き	・来客数は多いとはいえないが、来店すれば客単価は割と大きい。景気が以前より悪いとは感じない。
		商店街（代表者）	それ以外	・県の企画によるイベントが5年目を迎え、今年も春秋2回行われることになっている。5月4～6日にかけて、春のイベントが商店街を中心に3日間行われ、県内外から7万人の集客があった。また、関連商品の店が空き店舗に2軒入店した。さらに、eスポーツの普及を受けて、事務局を常設する動きも出てきている。
		商店街（事務局長）	来客数の動き	・米中の貿易摩擦や英国のEU離脱の行方、中東の情勢等、世界経済の下振れ要因が同時多発しており、予断を許さない状況である。消費者も買物に慎重にならざるを得ず、政治的なかじ取りが今後の消費を大きく左右する。
		百貨店（販売促進）	販売量の動き	・インバウンドは中国の電子商取引法の影響でマイナス傾向にある。一方で、気温が一気に上がったことで、季節商材である夏物は好調であった。
		スーパー（企画担当）	お客様の様子	・ほぼ年間を通して価格の上昇が続いている。その結果、客が少しでも安いものを探してスーパーだけでなく、ドラッグストアやコンビニ等、業種を越えて買い回りをする傾向が継続している。そのため来客数、買上点数において、前年比で厳しい店舗が増えている。
		コンビニ（店長）	来客数の動き	・何年ぶりかに、前年並みに届きそうだ。何とかこのまま維持してほしい。
		コンビニ（総務）	来客数の動き	・来客数が前年割れる傾向は変わらない。
		衣料品専門店（経営者）	販売量の動き	・この5月は過去に例を見ないような大型連休があり、連休中は非常に好調だった。連休以降は、ある程度予測はしていたが、落ち方が大きく、最終的にはそこそこのプラスでの着地となった。天候に恵まれながら、少し後半が厳しかった。
		乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・新車の受注状況は4月以降も対前年を上回るペースで推移している。
		乗用車販売店（役員）	販売量の動き	・消費税の引上げ前だが大きな動きはない。
		その他小売〔ショッピングセンター〕（副支配人）	販売量の動き	・10連休中の旅行者による土産や飲食の上乗せはあったものの、それを除くとふだんと変わらない。
		観光型旅館（経営者）	販売量の動き	・4～5月は連休で集中的に大勢の客が来たが、月間を平均すると、前年より良くない。当温泉地は温泉の本館改修等をしており、また改築している旅館もあるため、今の状態では当面良くなることは期待できない。
		都市型ホテル（経営者）	単価の動き	・やはり単価がなかなか上げられない。レストラン、飲食部門については、原材料費の値上げを背景に、ある程度は値上げすることができるが、宿泊料金については、ここ数年、なかなか値上げを試みても定着しない。
		タクシー運転手	来客数の動き	・この時期の客は、ほぼお遍路の参拝者だが、3～4月と比べて今月も余り変わらず、横ばいである。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		通信会社（営業部長）	販売量の動き	・例年、ゴールデンウィーク以降は販売量が落ち込むが、今年は落ち込みがほぼない。ただし、販売量的には好調なものの、低価格の商品のボリュームが増大しているため、トータルでは大きく変わっていない。
		通信会社（技術）	販売量の動き	・当社のサービスのうち利益率の良いサービスの販売量が増加傾向にあったが、解約も発生しつつある。
		通信会社（支店長）	販売量の動き	・特段の変化は見られない。
		競輪競馬（マネージャー）	お客様の様子	・来場客の様子から見て、依然として消費意欲は上向いておらず売上状況も横ばいで推移している。
		商店街（代表者）	お客様の様子	・大型連休があり多少は消費が増加したが、連休以外は消費の減少がみられる。消費税の引上げが近くっており客の消費意欲は顕著になっている。
		一般小売店〔酒〕（販売担当）	販売量の動き	・大型連休後の繁華街の飲食店はどこも暇だったようで、酒類の納品数量も減少した。
		百貨店（営業管理担当）	来客数の動き	・過去最大のゴールデンウィークに期待して動員強化したが、来客数はマイナスだった。輸入時計や化粧品などは一部好調だったが、大型連休に伴う県外への流出を止められずに全般的には苦戦した。
		スーパー（財務担当）	販売量の動き	・10連休後の平日の前年割れが大きい。
		衣料品専門店（営業責任者）	販売量の動き	・売上は前年比で5%程度のマイナスで推移しており、客の購買意欲が下がっている。買上点数が減少傾向にあり、売上減につながっている。
		乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・フェアを行っても販売は伸びず、目標には全く届かない。
		一般レストラン（経営者）	来客数の動き	・大型連休で散財したことでの反動で、ここ最近では来客数が少ない。
		スナック（経営者）	お客様の様子	・連休明けから客の動きが鈍い。令和最初のジューンブライドで結婚式は多いが、団体で動くため、当店は週末でも来客数が少ない。
		旅行代理店（営業担当）	販売量の動き	・ゴールデンウィークで旅行等に出掛けた影響か、出費が多かった影響かは定かではないが、夏の受注が前年を割り込んでいる。
		美容室（経営者）	来客数の動き	・ゴールデンウィークが終わって暇になった。
		設計事務所（所長）	来客数の動き	・以前よりも若干、民間での計画物件の数が減ってきたように思う。
	×	一般小売店〔書籍〕（営業担当）	販売量の動き	・書店業界には10連休はプラスに働いていない。店頭売上は、ふだんの平日より少し良い程度である。外商売上は届け先が休みなので、前年同月比マイナスとなった。
	×	スーパー（店長）	来客数の動き	・1人当たりの買上点数や販売単価は変わっていないのに、売上は伸びない。人口減で来客数が減っている。
	×	乗用車販売業（営業担当）	販売量の動き	・ゴールデンウィークで定休日もあり稼働日数が少ないこともあるが、予想以上に販売数や来客数が少ない。
	×	タクシー運転手	お客様の様子	・客の乗車率は、ここ3年で30%下落している。客の話では、飲み会も少なくなっている。昼は、デマンドタクシーが走っているため、当市内の山間部や、バス路線が廃止になった地域の人の乗車率が悪い。
企業動向関連 (四国)		-	-	-
		木材木製品製造業（営業部長）	受注量や販売量の動き	・4～5月と受注量は大きく増大している。住宅メーカーの受注残も約3割程度増加しており、上期は好調に推移するだろう。消費税の引上げの影響を受けている。
		鉄鋼業（総務部長）	受注価格や販売価格の動き	・販売量は変化ないが販売価格はやや上昇している。
		繊維工業（経営者）	受注量や販売量の動き	・今年はゴールデンウィークが長く、事前にある程度は売れ筋商品を準備していたが、店頭で欠品が発生したことで、当社としても売上が伸びなかった。
		パルプ・紙・紙加工品製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・5月は連休もあり、生産も減少し、販売額、受注量共に今までより減少している。
		化学工業（所長）	受注量や販売量の動き	・ゴールデンウィーク前は売上が増加したが、5月は反動があったため、トータルでは変わらない。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		一般機械器具製造業（経理担当）	受注量や販売量の動き	・地域によるばらつきが継続しており、全体としては変わらない。
		電気機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・再生可能エネルギーは、非常に下火である。工事は非常に単価がきつい。運営も再生可能エネルギーの固定価格買取制度の影響でなかなかうまくいかない。特にバイオマスは行き詰まっており、その打開のために苦労している。
		電気機械器具製造業（経理）	受注量や販売量の動き	・製品の出荷量について、3か月前と比べておおむね同程度で推移している。したがって、収益面に関して大きな変動はない。
		建設業（経営者）	受注量や販売量の動き	・新年度になってから思うようには受注が伸びない。
		輸送業（経営者）	取引先の様子	・おおむね好調だが、やはり景気先行きの不安から慎重な意見が多い。
		輸送業（営業）	受注量や販売量の動き	・5月は商業小口貨物の取扱い物量が前年比、前月比において減少傾向で推移した。大型連休中に消費が集中したことから、その反動を受け消費者の購買意欲が低下している。6月は梅雨入りし天候も雨天続きになることから、消費者の活動も鈍化し購買意欲の向上は余り期待できない。
		農林水産業（職員）	取引先の様子	・卸売価格は低調で軟弱葉物類等の価格は、生産原価並まで値下がりしている。
		食料品製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・ゴールデンウィーク明けより受注量が減少している。
		建設業（経営者）	受注量や販売量の動き	・第1四半期は、例年、公共事業の端境期に当たるため発注量が少なく、前年度の繰越業務の処理で売上を上げている。今年度も、補正予算、複数年業務の発注が例年より多く、手持ち業務が多くなっているものの、手持ち量も次第に減ってきているため、業績は数か月前と比べると悪くなっている。
		建設業（総務）	受注価格や販売価格の動き	・案件、受注価格共に減少傾向にある。
		輸送業（経理）	受注量や販売量の動き	・米中の貿易摩擦による客の対外輸出商品量の減少が徐々に表れつつある。またそれに伴い、国内の企業需給調整等による国内貨物輸送の鈍化も顕在化しつつある。
		金融業（副支店長）	取引先の様子	・個人事業主の確定申告を多数見たが、全般的に右肩下がりであった。また大型連休がマイナスに作用した会社も多かった。
		公認会計士	取引先の様子	・今月の各法人の決算、並びに試算表を分析すると、前年比でほとんど変わらないところが多いが、若干、赤字に転落している業種が増えてきている。
	x	-	-	-
雇用 関連 (四国)		学校[大学] (就職担当)	それ以外	・5月は瀬戸内国際芸術祭の春会期が開催されていたため、観光客が増加していた。
		人材派遣会社 (営業)	雇用形態の様子	・前年度末の派遣スタッフの契約満了の際に、契約更新をせず、人材が不足し、それ以降新たな人材の引き当てができていない現場が見受けられるが、業務の効率化を図る機会と捉えている。
		職業安定所(求人開発)	それ以外	・4月の有効求人倍率は1.49倍で、3か月前と比べて0.28ポイント減少しているが、例年4月は3月よりも数値が減少する傾向にあり、前年同月より高い数値となっている。
		民間職業紹介機関(所長)	雇用形態の様子	・県事業で入職者の合同入職式を予定しており、その対応として高齢者福祉施設を訪問しているが、多くの施設が新卒の採用予定者数を充足できていない。また、中途採用者に関しても、入職しても長続きしないようであり、人材確保に苦心しているという話が多い。
		人材派遣会社 (営業担当)	求職者数の動き	・これまでコンスタントに依頼が来ていた企業からの受注が減少傾向にある。
		求人情報誌(営業)	採用者数の動き	・周辺企業の採用状況を見ると、採用コストを掛けられず人員を充足しないまま採用を諦める企業が増加している。そのため、業績の見込みも横ばい若しくはやや悪化の傾向にあるところが増えている。
		新聞社[求人広告] (担当者)	それ以外	・業界としては、少なくなっているパイを取り合うため、競争がますます進んでいる。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
	×	人材派遣会社 (営業担当)	周辺企業の様子	・米中の貿易摩擦問題などにより、製造業では求人を含める傾向にあり派遣業は悪化している。

11. 九州（地域別調査機関：公益財団法人九州経済調査協会）

（-：回答が存在しない、*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連 (九州)		観光名所（従業員）	来客数の動き	・10連休という超大型連休により、相当数の客が来場している。日中町内では、ほとんどの場所で渋滞し、駐車場も早い時間で満車状態になり、臨時駐車場への誘導対応に追われている。
		一般小売店〔青果〕（店長）	販売量の動き	・ここ2～3か月の気候の安定もあり、地元や県外からの野菜相場や入荷が安定している。これにより客の購買意欲も安定している。
		一般小売店〔精肉〕（店員）	単価の動き	・高単価な商品がよく売れている。
		一般小売店〔生花〕（経営者）	単価の動き	・母の日が終わってから売上が落ちるのではないかと心配していたが、開店祝いや誕生日プレゼントに単価が高い注文が多く、売上が落ちていない。
		コンビニ（エリア担当・店長）	競争相手の様子	・近隣のコンビニエンスストアが7月まで改装に入り、その客が当店に流れている。1日のピーク時の客が若干増加している。
		家電量販店（店長）	単価の動き	・ゴールデンウィークによる影響はなく、来客数が減少傾向であるにもかかわらず、1品単価が上昇したことにより、前年を超える売上となっている。
		乗用車販売店（総務担当）	販売量の動き	・4月に販売開始した新型車の売行きが好調である。来店客数が増え既存車種の販売も伸びている。当分の間、新車販売は堅調に推移する。
		その他専門店〔ドラッグストア〕（企画担当）	販売量の動き	・季節商材の動きが良くなっている。
		その他小売の動向を把握できる者〔ショッピングセンター〕（支配人）	販売量の動き	・ゴールデンウィーク10連休という大きなプラスと件があり、ショッピングセンターでは、売上が好調に推移している。九州エリアは雨天になり、10連休だけで前年比112%超である。懸念していた連休後のマイナス反動もなく、今月は、全体を通して良い結果である。
		高級レストラン（支配人）	単価の動き	・注文の際、通常よりワンランク上のコース料理の注文が多い。ワインも高額の需要数が増えている。
		都市型ホテル（販売担当）	単価の動き	・訪日外国人による宿泊がまだ多く、景気は伸びている。
		通信会社（企画担当）	販売量の動き	・光回線の提供エリアの拡大により販売量が増加している。
		通信会社（業務担当）	販売量の動き	・前年までは、売上の大半が紹介によるものであったが、今年に入ってから少しずつ紹介以外の問合せが増えており、売上につながっている。
		その他サービスの動向を把握できる者〔介護サービス〕（管理担当）	競争相手の様子	・2018年度決算は、4月の介護報酬プラス改定を背景に、おおむね好決算となっており、上期は福祉用具等の販売事業において、消費税引上げ前の駆け込み需要も期待できる。
		住宅販売会社（従業員）	販売量の動き	・ゴールデンウィークが明けて、売行きが悪かったマンションの値引きを始めたところ、若干売行きが上向いている。
		商店街（代表者）	来客数の動き	・来客数、販売額共に変わらず、足踏み状態である。
	商店街（代表者）	販売量の動き	・商店街全体として低迷が続いており、景気回復が見当たらないまま営業を続けている。	
	商店街（代表者）	販売量の動き	・気温が一気に上昇したことで、冬物や春物の衣料品残量が増えたことで動きが悪くなっている。この暑さに対処できず、外出する人が減り商品の動きがない。	
	商店街（代表者）	来客数の動き	・10連休では、周辺の観光施設や飲食店は景気が良かった。一方、商店街は来街者が少なく売上が上がらず、物販は非常に厳しい状況である。	
	商店街（代表者）	販売量の動き	・春物商材の販売量が振るわなかったが、初夏の訪れが例年より早く、夏物商材の販売量が伸びている。しかし、単価が低く月間の販売量や売上は、共に横ばいである。	

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		商店街（代表者）	単価の動き	・景気は変わらず低迷しており、客単価が低下している。
		百貨店（総務担当）	販売量の動き	・当社が管理している商業施設は、核テナントになっていた百貨店が撤退し、再構築中に伴い各階とも工事中であるが、既存営業テナントでは、一部業種を除き、来店客数、購入単価共に前年に及ばず厳しい状況が続いている。
		百貨店（企画担当）	販売量の動き	・改元によるイベント等を積極的に実施していなかったこともあるが、ゴールデンウィークの出足や売上は例年と大きく変わらない。売上や来客数をみても、景気が上向きような兆候はない。
		百貨店（営業担当）	来客数の動き	・ゴールデンウィーク後半に、遠出を避けた三世代家族での来店が増加している。子供催事や物産催事への地元及び帰省客の来店が増加し、各会場への入場制限や待ち時間等の発生、店内の喫茶や大食堂への波及効果もあり、昼食時間帯の混雑が発生している。また、クルーズ船での観光客来店増加により、平日及び土日祝日の入店が増加しており、購入単価や売上伸長率も上向いている。
		百貨店（プロモーション担当）	販売量の動き	・ゴールデンウィークの10連休を受けて、客数の増加に伴い消費は上向いた。一方、ここ数か月好調の訪日外国人は、航空券の高騰等から客数が減り、売上減少になっている。
		百貨店（業務担当）	お客様の様子	・衣替えも含めて夏商材に動きがみられる時期であるが、大型連休での出費の影響で、商品の購入を抑えようとする客が多い。
		スーパー（店長）	単価の動き	・来店客数はほぼ横ばいだが、1品単価の下落で客単価が落ち、売上としては厳しい状況である。
		スーパー（店長）	販売量の動き	・客単価は辛うじて上昇傾向にあるが、来客数減少により、売上も減少し厳しい状況である。特に生鮮製品の苦戦が続いている。
		スーパー（店長）	お客様の様子	・客単価等に大きな変化はない。
		スーパー（総務担当）	来客数の動き	・土日の来客数は、前年比マイナスの状態である。客単価や買上点数は前年比を超えているが、来客数の減少分までは補っていない。当店営業エリア内に競合店が新規出店したことで、価格競争も厳しさを増し、来客数に影響を及ぼしていることが原因である。
		スーパー（経理担当）	販売量の動き	・特に10連休は、食品小売店にとって致命的で、社会全体の景気はともかく連休中の売上は大きく減少している。
		スーパー（統括者）	お客様の様子	・客は、チラシ商品以外の買物に慎重となっており、購入単価が下がる傾向にある。安い商品の買い回りがかなり頻繁にみられ、一部メーカー商品の値上げを価格に反映しにくい状況である。
		コンビニ（経営者）	販売量の動き	・一般的に気温の変動が大きく、体感温度が低くなることもあり、おでんや中華まんの販売期間を長くした結果、売上につながっている。ゴールデンウィークは異例の長さであったが、通常の休日の売上ほどではないが、休日に弱い店舗は、落ち込みが少ない状況である。
		衣料品専門店（店長）	来客数の動き	・相変わらず来街者は少なく、来客もほとんどない。
		衣料品専門店（店長）	来客数の動き	・10連休の影響により、今月前半の推移は悪い状況であるが、後半には持ち直し、通常の売上になると予想している。改元による影響はない。
		衣料品専門店（総務担当）	来客数の動き	・当商店街及び当店は、来街数、来店客数が下げ止まりの状態である。
		家電量販店（広報・IR担当）	販売量の動き	・主要商材の売上が前年を超えて推移しており、なかでも白物商材のエアコンディショナーや冷蔵庫、洗濯機の平均単価も上がっている。
		住関連専門店（経営者）	販売量の動き	・都市部での売出しの不振分を店舗販売やネット販売で補った結果、順調に伸びており、全体としては前年並みである。
		その他専門店 [コーヒー豆] (経営者)	お客様の様子	・前年との比較では、新規の客が増加しており、転出による減少分を補う傾向になっている。客の購入割合は前年と変わらない状況である。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		その他専門店 [ガソリンスタンド] (統括)	販売量の動き	・燃料油の小売価格は、高止まりからやや値下げの傾向である。観光客に期待していたが、例年のゴールデンウィークと変わらず、全体的な販売数は、前年並みの予想である。
		その他小売の動向を把握できる者 [ショッピングセンター] (統括者)	来客数の動き	・売れ筋は変わっているが、来店客数の増減に大きな変動はない。
		タクシー運転手	来客数の動き	・月の前半は、大型連休により観光客数が例年以上に増加し、タクシー利用も増えている。中旬以降は、節約志向が強くなり、夜の繁華街の人出もやや減少気味だったものの、全体の売上では前年を若干上回っている。
		タクシー運転手	お客様の様子	・今月は、自家用車やレンタカーが多く、タクシー利用が少ない。
		通信会社 (営業担当)	販売量の動き	・業種的に例年この時期は販売が落ち込み始め、秋口までそのペースが続く。
		ゴルフ場 (従業員)	販売量の動き	・比較的良好な天候が続き、入場者、売上共に若干前年を上回っているが、景気に変化はない。
		美容室 (経営者)	販売量の動き	・2~3か月前は寒い時期であるが、暖かくなると美容業界は上り調子になり、長い連休もあることで、景気は良くなると予想していたが、今月は横ばいで推移している。
		美容室 (店長)	来客数の動き	・連休後の来客数は、今年も例年同様に減少している。
		商店街 (代表者)	来客数の動き	・年度初めと改元関係の仕事が落ち着き、来客数が減少している。
		一般小売店 [鮮魚] (店員)	お客様の様子	・卸先である魚屋や料理屋は、売行きが悪い状態にある。
		一般小売店 [茶] (販売・事務)	来客数の動き	・大型連休中の客足は伸びず、売上は大幅に減少し、連休明けの売上は少額が続いている。新茶時期と長期休暇が重なった影響により、小売店はかなり厳しい状況である。
		百貨店 (売場担当)	競争相手の様子	・全店舗合計の売上は、3か月前より2%ダウンしているが、前年の8月以降、4月を除き100%を超えている状況を継続している。一部の店舗では、入店客数と売上がかなり上がっていたが、今月は若干落ちている。
		百貨店 (売場担当)	販売量の動き	・10連休前半は、改元もあり売上が好調であったが、後半は逆に前年を下回った。10連休全体では前年並みであったが、その後は入店客数、売上共に前年比を下回ることが多い。
		スーパー (店長)	来客数の動き	・客数は前年並みであるが、1品単価が2円ほど安くなり、点数も下がり売上が減少している。ここ2か月に競合店が2店舗増えることで、景気が厳しくなることが懸念される。
		コンビニ (経営者)	来客数の動き	・立地的にロードサイド型であるため、大型連休により事業所等の休みの影響をもろに受けたことで、来客数、売上が大幅に減少し厳しい状況が続いている。
		衣料品専門店 (店員)	お客様の様子	・急に暑くなり、生地が厚い春物は見向きもされず、売上が若干落ちている。
		家電量販店 (総務担当)	お客様の様子	・夏商戦前の端境期である。除湿器やエアコンディショナーの早期販売等、対策を立てているが反応が鈍い。
		高級レストラン (経営者)	来客数の動き	・気候が暑くなり客の出足が悪く、来店客数が減少している。また、注文の品数や単価が下がっている。
		一般レストラン (経営者)	来客数の動き	・前年と比較すると、集客数が2%ほど減っている。メニューを見直し、辛うじて売上は維持しているが、これからの予約は、厳しい状況が予想される。
		都市型ホテル (スタッフ)	販売量の動き	・競合施設の増加により、販売数は想定内ではあるが減少している。単価は維持できていることから、景気自体は悪くない。
		都市型ホテル (スタッフ)	来客数の動き	・相変わらず訪日外国人は好調だが、高額メニューの売上が減っており、消費意欲が下がっている。
		旅行代理店 (従業員)	販売量の動き	・ゴールデンウィーク10連休後の予約が伸び悩み、追い討ちを掛けるように6月から燃油が値上がりし、夏の需要に影響が出ることが予想される。
		旅行代理店 (企画)	販売量の動き	・先行き数値が、おおむね前年割れの状況である。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		美容室（経営者）	単価の動き	・単価を安くしているが、客はより安い単価を望んでいる。
		音楽教室（管理担当）	来客数の動き	・生徒募集をしているが、余り反応がない。
		設計事務所（所長）	単価の動き	・材料単価や人件費は上がっているが、報酬は上がらないのが現状である。
		設計事務所（代表）	来客数の動き	・消費税引上げ前の影響で節約志向になり、景気は若干悪くなっている。
		住宅販売会社（従業員）	来客数の動き	・展示場及びイベント共に来場数の減少が見受けられる。
	×	商店街（代表者）	お客様の様子	・当商店街は観光コースに入っているため、来店客数は増加しているが、全く売上が上がっていない。商店街としての一般客の売上はない状態である。
	×	百貨店（営業担当）	単価の動き	・大型10連休は、令和の始まりもあり、今月前半祝賀ムードで盛り上がりを見せ、福袋の仕掛け等をしたことで、売行きは好調である。一方、10連休明けのマーケットは、米中貿易摩擦に伴う株価の大幅下落で、消費マインドがかなり冷え込んでいる状況である。
	×	高級レストラン（経営者）	来客数の動き	・10連休が終わると来客が増加すると期待していたが、売上が伸びなかった。その後、徐々に増えてはいるが、例年5月ほど戻らず、厳しい状況である。
	×	スナック（経営者）	来客数の動き	・街の飲食同業者は、10連休の影響が大きく響き、連休明けの週末客数が伸びていない。
	×	タクシー運転手	お客様の様子	・消費動向は、大型連休の影響をかなり受け、5月後半はかなり悪くなっている。
企業 動向 関連 (九州)		-	-	-
		建設業（社員）	それ以外	・5月中旬を過ぎ、一部の官公庁の発注も出ている。全ての官公庁からの発注が多くなれば、現在手持ち工事が無い業者に若干でも余裕が出て、景気はもっと上向きになる。
		農林水産業（経営者）	受注量や販売量の動き	・例年5月は原料の発生も順調で、販売も梅雨入り前で安定しているが、今年も同様の流れである。今年に入って、多かった原料も落ち着き、工場生産も安定している。売上也予定どおりに推移しているが、以前からある在庫分の回収まではできていない。
		食料品製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・比較的安定した受注が継続している。
		窯業・土石製品製造業（経営者）	受注価格や販売価格の動き	・現状は変わらないが、従来の商品が減少して、デザイナーブランドやネット経由での注文が増加している。
		一般機械器具製造業（経営者）	取引先の様子	・半導体の落ち込みが続き、回復の兆しが見えない状況である。その分を自動車関連等の仕事で補っている。
		電気機械器具製造業（取締役）	取引先の様子	・一部半導体関連では、米中貿易摩擦の行方を懸念しており、実際の受注動向の減少等がうかがえる。
		輸送業（総務担当）	取引先の様子	・米中貿易摩擦の影響により、中国向け輸出を主業としていた県内中小企業が大打撃を受けているが、当社取引先の動向をみ限り影響はない。一方、中国から輸入している取引先は、今後も注視していく必要がある。
		金融業（従業員）	取引先の様子	・人手不足を背景に、緩やかながら雇用者所得が増加傾向にあり、スーパーマーケットやコンビニエンスストア等の売上は増加している。一方、住宅販売ではマンション等を中心に伸び悩んでいる。
		金融業（調査担当）	それ以外	・融資残高の伸長率はプラスで推移している。内訳では、中小企業向けが増加しており、大・中堅企業はほぼ横ばいとなっているが、不動産向けは減少傾向である。また、融資利回りは1%程度でほぼ横ばい状態である。総じて地方企業の資金需要は、引き続き一定の水準を堅持しており、3か月前と比較して大きな変化はない。
		金融業（営業担当）	取引先の様子	・取引先の中小企業全般において、主に建築による設備投資を計画している企業があるが、建設費の高騰により、計画を見合わせたり、中止する状況である。
	金融業（調査担当）	取引先の様子	・大型連休中の主要観光地や宿泊施設は活況を呈し、過去最高の客足となっているが、その後の動きは例年並みにとどまっている。	
	新聞社〔広告〕（担当者）	取引先の様子	・景気に対する好材料を聞かない。	

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		経営コンサルタント（代表取締役）	取引先の様子	・今年の5月は特殊な要因で、業種により差が出ている。連休の影響によりホテルや観光関係は、前半は好調である。休業店舗が多くあり、全般的に売上は例年以上に下がっているが、その後の動きは上昇している。
		経営コンサルタント（社員）	競争相手の様子	・業績予想の検討会によると、目立った動きは見られない。
		経営コンサルタント（社員）	受注価格や販売価格の動き	・低価格酒や大型パッケージの割安な酒がよく売れている。
		経営コンサルタント（代表取締役）	取引先の様子	・取引先に業況を聞いても、大きな変化はない状況である。
		その他サービス業〔物品リース〕（支社長）	取引先の様子	・2019年3月期決算では、各業界差はあるものの、しっかり利益確保している取引先が多い。コンプライアンスを含めた人件費等、社内信用コストが増加している。また、電気代削減と消費の目的により、自家消費型の太陽光発電案件が増加している。
		家具製造業（従業員）	受注量や販売量の動き	・10月からの消費税上げや米中貿易摩擦、株価下落、材料の相次ぐ値上げ等、社会を取り巻く環境は決して明るくない。その状況下、一般小売の家具需要では、前年比はマイナス10%近く減少しており、特注家具や特にホテル物件での受注にも影響が広がっている。
		金属製品製造業（事業統括）	取引先の様子	・主に中国向けの輸出関係部門では、米中貿易摩擦の影響により、客の投資判断時期を見極めている状況である。
		一般機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・今月になり、急に受注量が落ち込んでいる。同業者との情報交換によると、米中貿易摩擦が原因で、その影響を大きく受けている。
		電気機械器具製造業（経営者）	取引先の様子	・主要取引先からの受注が低調である。
		輸送用機械器具製造業（営業担当）	受注量や販売量の動き	・車両の生産台数自体は横ばいで推移しているが、オプション部品の装着率が減少方向になり、売上に影響が出ている。
		輸送業（従業員）	受注量や販売量の動き	・健康食品は、価格帯にかかわらず受注量が減少している。中国向けは好調を維持しているが、価格帯が低下気味である。
		輸送業（従業員）	受注量や販売量の動き	・初めての10連休明けで、多少の取扱量があるものの、中旬以降は大きく減少し、半導体を中心に精密機械関係も大きく減少している。
		通信業（経理担当）	取引先の様子	・消費税上げの話題が増え、実施又は、延期の状況を注視している。
		金融業（営業）	取引先の様子	・製造業を始め、人手不足は慢性化している。外国人の採用は広がりを見せているものの、十分ではない。また、米中貿易摩擦の影響により、今後の需要が不透明であり、設備投資に関しても、計画はあるものの保留となるケースも見受けられる。
		その他サービス業〔コンサルタント〕（代表取締役）	取引先の様子	・市町村の行政に関する調査や計画策定に関する業務について、5月に入って本格的に入札や見積合わせが行われているが、予定価格の3～4割で落札する業者が多く、印刷代や郵送費、人件費で予算を消化し、利益が出ない状況になっている。
	×	農林水産業（従業者）	受注価格や販売価格の動き	・現在は底値となっており、農業者にとっては厳しい冬春シーズンとなった。
	×	繊維工業（営業担当）	受注価格や販売価格の動き	・材料費や運賃、人件費等経費が大幅に上がり、工賃が追い付けない状態である。このまま人件費高騰が続くと、2～3年で倒産する企業が出ると考えられる。景気低迷の状態に加え、賃金が上がっており、今後が懸念される。
	×	その他製造業〔産業廃棄物処理業〕	受注価格や販売価格の動き	・一部携帯電話の販売停止、原油下落等で相場が下がり危惧している。
雇用 関連 (九州)		-	-	-
		人材派遣会社（社員）	求人数の動き	・改元やゴールデンウィークの影響もあり、サービスの求人数が増加している。
		人材派遣会社（社員）	求職者数の動き	・大型連休前後は、求人の問合せも落ち着いており、特に大きな動きはなかった。ネット検索数や応募数は、増加していない。
		人材派遣会社（社員）	求人数の動き	・年間を通して、派遣受注枠を活発化する時期であるが、直接雇用の案件も含め市場が活発化していない。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		求人情報誌製作会社（編集者）	求人数の動き	・中心部にある温泉施設が4月から値上げをしているが、来客数が明らかに落ち込んでいる。訪日外国人及び消費税上げ対策と思われるが、一般庶民の反応は厳しい。取扱求人数も前年を大きく割り込んでいる。
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	それ以外	・中心市街地の人出も多く、郊外のショッピングセンターも駐車するのに苦労するなど活発な消費活動が継続しており、景気が良い状態が続いている。
		職業安定所（職員）	周辺企業の様子	・再開発商業施設の求人活動が本格的に始動している。在職中と思われる若年層が活発に就職活動を行っており、雇用の流動性が高まっている。
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・当市の離職者減少により、求職者数が減少しているため、景気は変わらない。
		学校〔大学〕（就職支援業務）	求人数の動き	・2020年卒業採用活動に向けて、企業は活発である。しかし、求人の受理件数は、前年比を減少している。企業側の採用活動が前倒しされていることが原因と推察する。
		人材派遣会社（社員）	求人数の動き	・新年度が始まり、企業からの人材募集の発注が若干落ち着いている。
		人材派遣会社（社員）	求人数の動き	・派遣や人材紹介の依頼は落ち着いている。人手不足のため、数か月前に依頼された案件にも人材の供給ができない状況である。
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	雇用形態の様子	・企業によるが、多くのサラリーマンが55歳を超えると年齢給や役職給のカットがあることで、節約を強いられる。
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・求人増加率が停滞し、ここ半年間減少傾向が鮮明になっている。
	x	-	-	-

12. 沖縄（地域別調査機関：一般財団法人南西地域産業活性化センター）

（-：回答が存在しない、*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計動向関連		-	-	-
(沖縄)		百貨店（店舗企画）	販売量の動き	・服飾雑貨売場、化粧品売場の一部改装で動員があり売上は上向き傾向にある。免税売上は前年並みとなり、伸びは鈍化している。
		コンビニ（経営者）	単価の動き	・新発売の商品の売行きが良く、客単価が上昇している。
		観光名所（職員）	来客数の動き	・10連休の影響があった。
		住宅販売会社（営業担当）	来客数の動き	・住宅展示場への来場組数が前月比12%増、前年同月比5%増と来場者が増えている。
		一般小売店〔鞆・袋物〕（経営者）	来客数の動き	・ショッピングセンター等への来客数は多いが、なかなか売上にはつながっていない。
		観光型ホテル（マーケティング担当）	販売量の動き	・今月の客室稼働率は、3か月前と同様に前年同月実績を若干下回る見込みである。なかなか前年同月実績を上回る成績が残せていない状況である。
		旅行代理店（マネージャー）	販売量の動き	・特に上向きになるような要素がない。
		住宅販売会社（代表取締役）	来客数の動き	・建築の受注契約に関しては、3月末までの消費税増税の駆け込み契約の反動があり減少しているが、建築相談者は安定している。
		家電量販店（総務担当）	来客数の動き	・ゴールデンウィーク前半は良かったが、終盤及び終了後からは業績が厳しい。
		観光型ホテル（代表取締役）	来客数の動き	・全体的な沖縄への入域客数は伸びているが、ホテルの宿泊は減っている。他のホテルや民泊などの宿泊施設が増えて競争が激しい。
	x	商店街（代表者）	来客数の動き	・商店街としては業種が偏っているように見える。来客数も日によってまちまちで、平均的には厳しいようである。
	x	その他飲食〔居酒屋〕（経営者）	来客数の動き	・採用が全くできず、飲み放題等の安売りの対応ができない。そのため安売りをやめた途端に、売上が半分以上に落ちている。こだわりの小規模店舗が、徹底した安売り店舗かに来客が二極化している。
企業		-	-	-

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
動向 関連 (沖縄)		輸送業(経営企画室)	取引先の様子	・前年同時期に比べ全体的に売上増となっている。単純に、店頭での購買を受けた物量の増と、店舗数増によるものと推測される。一方で、新規競合の参入による影響を受けている客もみられる。
		食料品製造業(総務)	受注量や販売量の動き	・消費は今月前半は良かったが、ゴールデンウィーク10連休後は一服感があり、以降は節約しているようにみられる。実際に売上高も前年同月比で変わらない動きや結果が予想される。
		窯業・土石製品製造業(経営者)	受注量や販売量の動き	・公共工事向け出荷は前年比減で、民間向けは前年比増、全体で横ばいである。工事予定現場の人手不足などの影響で思うようには工事が進まない状況である。
		建設業(経営者)	受注量や販売量の動き	・新築住宅の申込み、契約がぱったりと止まっている。
		会計事務所(所長)	取引先の様子	・ホテルは客室の高稼働率状態が続いているが、人材不足に伴う人件費増加など経営を圧迫する方向にある。
		x	-	-
雇用 関連 (沖縄)		-	-	-
		学校[専門学校](就職担当)	求職者数の動き	・新卒を対象とした求人が増えている。前年と比較しても伸びているので景気が良いと判断できる。
		求人情報誌制作会社(編集室)	求人数の動き	・5月の週平均求人情件数は890件で、2月の平均892件と比較するとほぼ同件数となっている。
		学校[大学](就職支援担当)	求職者数の動き	・求職学生の動きが変わらず鈍い。
		人材派遣会社(総務担当)	求職者数の動き	・求職者数が減少している。
	x	-	-	-